

福祉のまちづくりに関する  
アンケート調査結果報告書

令和6年2月

新 城 市



# 目 次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	1
2 調査の対象及び方法等 .....	1
3 調査票の回収結果 .....	1
4 調査結果をみる上での注意事項 .....	1
<b>第2章 調査結果の分析</b> .....	<b>3</b>
1 回答者の状況 .....	3
(1) 性別・年齢 .....	3
(2) 職業 .....	4
(3) 家族（世帯）構成 .....	5
(4) 居住年数 .....	6
(5) 居住地域 .....	7
2 生活の状況 .....	8
(1) 生活の満足度 .....	8
(2) 健康状態 .....	10
(3) 経済状況 .....	12
(4) 困りごとや不安感 .....	14
(5) 地域における困りごとなどの解決方法 .....	22
3 相談や情報収集の状況 .....	25
(1) 相談相手 .....	25
(2) 公的な相談機関の認知状況 .....	28
(3) 情報の入手先 .....	31
4 近所づきあいや地域活動の状況等 .....	34
(1) 近所づきあい .....	34
(2) 近所づきあいについての考え方 .....	36
(3) 外出の頻度 .....	38
(4) 地域活動等への参加状況 .....	42
(5) 地域活動等への参加意向 .....	44
5 地域福祉活動の状況等 .....	46
(1) ボランティア活動への参加状況 .....	46
(2) ボランティア活動への参加意向 .....	51
(3) 地域福祉活動で必要なこととできること .....	55
(4) 地域福祉の支援者に対する認知度 .....	65
(5) 地域福祉の制度等に対する認知度 .....	73
6 福祉のまちづくりについて .....	81
(1) 新城市の福祉水準 .....	81
(2) 地域全体での支え合い .....	86

<b>第3章 意見等</b> .....	<b>88</b>
1 地域福祉について.....	88
2 地域福祉活動について.....	88
3 支え合い、助け合い等について.....	90
4 地域活動、近所づきあい等について.....	91
5 相談・情報について.....	92
6 福祉サービス等について.....	92
7 地域交通について.....	94
8 行政対応について.....	94
9 アンケートについて.....	95
10 その他.....	96

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、地域における福祉のまちづくりに関する市民の認識や意向等を把握し、令和6年度に策定予定の「新城市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画」の基礎資料とすることを目的としています。

## 2 調査の対象及び方法等

調査対象	18歳以上の市内在住者
調査方法	住民基本台帳より無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収
調査期間	令和5年10月1日～20日

## 3 調査票の回収結果

調査数	2,000
有効回答数	866
有効回答率	43.3%

## 4 調査結果をみる上での注意事項

- ① 選択式回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、すべてパーセント(%)で表しています。
- ② 選択式回答の比率(%)は、小数点第2位以下を四捨五入して算出しています。したがって、パーセントの合計が100%にならないこともあります。
- ③ 複数回答が可能な設問の回答の比率(%)は、すべての比率(%)を合計すると100%を超えます。なお、複数回答が可能なものは、図表のタイトル名に明示しています。したがって、その明示がないものは、単数回答です。
- ④ クロス集計については、便宜上以下のようにまとめました。

区分	調査票	本報告書
年齢	「18～19歳」「20～29歳」「30～39歳」	18～39歳
	「40～49歳」「50～59歳」	40～59歳
	「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」	60歳以上

- 
- 
- ⑤ 表中における網掛けは、濃いものはその行において最も高い値であることを、薄いものはその行において次に高い値であることを示しています。
- ⑥ 記述式回答については、誤字等の軽微な修正にとどめ、内容面の修正は加えていないため、事実と判断できない場合や正しい解釈ではない場合、適切ではない表現である場合も含まれている可能性があります。

## 第2章 調査結果の分析

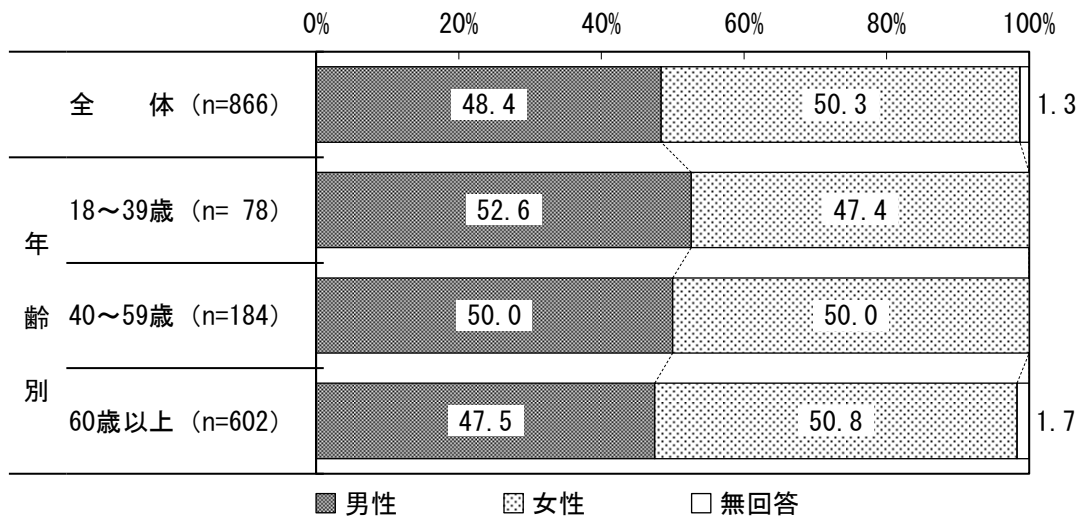
### 1 回答者の状況

#### (1) 性別・年齢

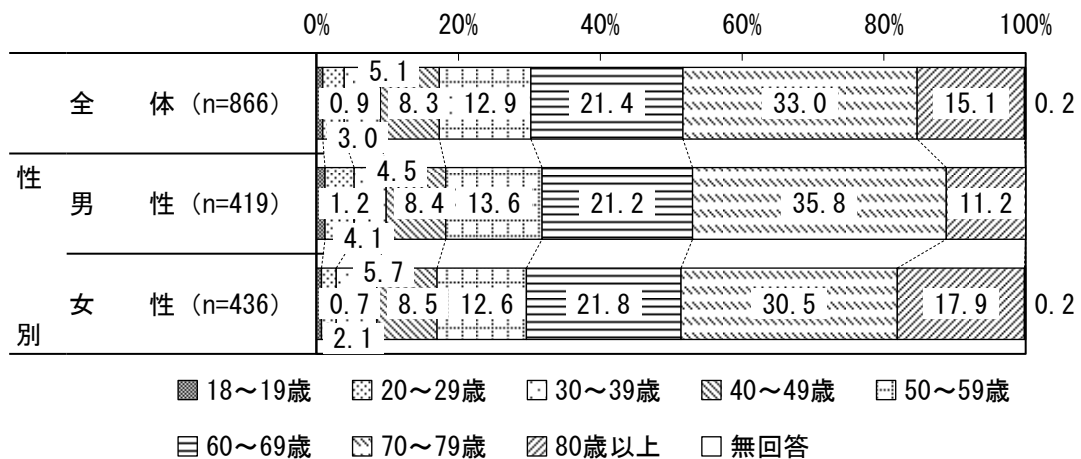
回答者は、「男性」が48.4%、「女性」が50.3%とほぼ同率ですが、年齢別にみると、18～39歳では女性に比べて男性が5ポイント程度高くなっています。なお、性別の「無回答」(不詳)は1.3%(11人)です。(図表1)

回答者の年齢を詳細にみると、「70～79歳」の比率が33.0%と最も高く、次いで、「60～69歳」が21.4%、「80歳以上」が15.1%と、これらを合わせた「60歳以上」は7割程度に及んでいます。性別にみると、女性は、男性に比べて、「70～79歳」が5ポイント程度低く、「80歳以上」が7ポイント程度高くなっています。なお、年齢の「無回答」(不詳)は0.2%(2人)で、性別、年齢いずれも「無回答」(不詳)は1人です。(図表2)

図表1 性別



図表2 年齢



(2) 職 業

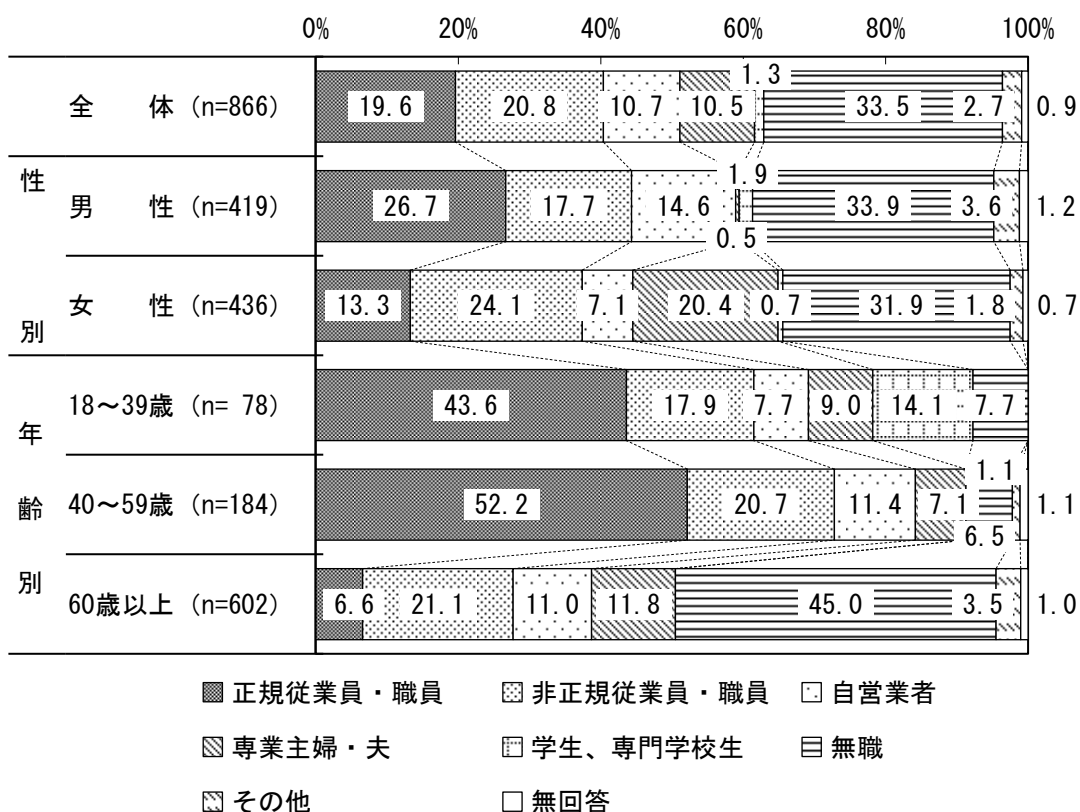
職業は、年齢構成等から、「無職」が33.5%と最も高くなっています。次いで、パートやアルバイト等を含む「非正規従業員・職員」が20.8%、「正規従業員・職員」が19.6%、家族従事者を含む「自営業者」が10.7%、「専業主婦・夫」が10.5%などとなっています。

性別にみると、女性は、男性に比べて、「非正規従業員・職員」と「専業主婦」が高く、「正規従業員・職員」と「自営業者」が低くなっています。

年齢別にみると、18～39歳と40～59歳では「正規従業員・職員」が、60歳以上では「無職」がそれぞれ最も高く、4割を超えています。

なお、「その他」として、「農業」（8件）、「会社役員」（3件）、「シルバー」（2件）のほか、「準社員」、「就労継続支援B型事業所」などの記載がありました。

図表3 職 業





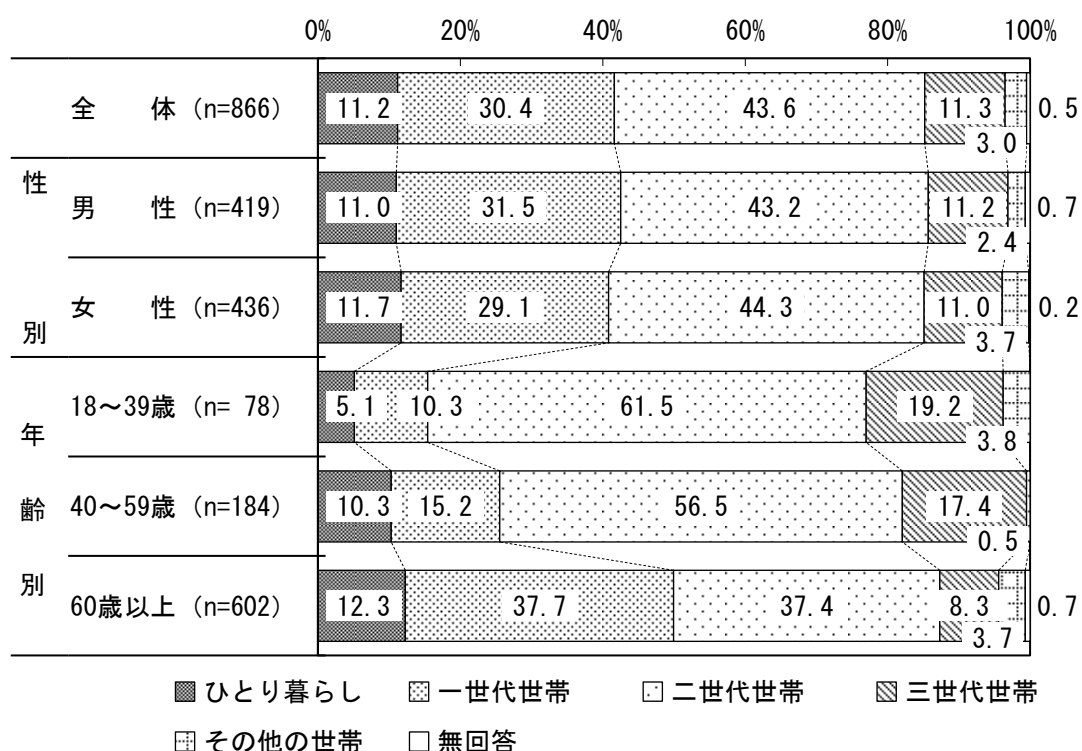
### (3) 家族（世帯）構成

家族（世帯）構成は、「二世帯世帯（親と子）」が43.6%と最も高く、次いで、「一世帯世帯（夫婦のみ）」が30.4%、「三世帯世帯（祖父母と親と子）」が11.3%、「ひとり暮らし（単身世帯）」が11.2%などとなっています。

性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が高いほど「ひとり暮らし（単身世帯）」と「一世帯世帯（夫婦のみ）」が、年齢が低いほど「二世帯世帯（親と子）」と「三世帯世帯（祖父母と親と子）」が高くなっています。

なお、「その他の世帯」として、「四世代」（3件）、「きょうだい」（2件）のほか、「夫婦と姉」、「夫婦と義兄」、「同棲」などの記載がありました。

図表4 家族（世帯）構成

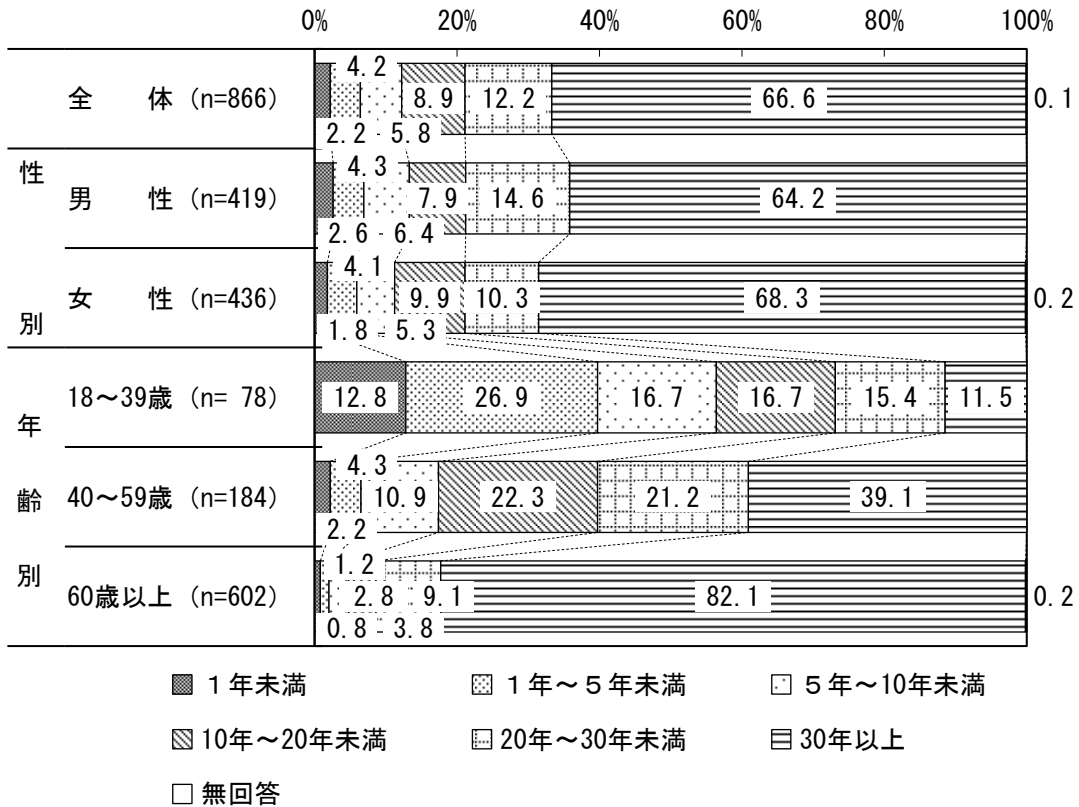


(4) 居住年数

現在の所での居住年数（通算）は、「30年以上」が66.6%と高く、「1年未満」（2.2%）と「1年～5年未満」（4.2%）、「5年～10年未満」（5.8%）を合わせた《10年未満》は12.2%となっており、10年以上居住している人が全体の8割以上を占めています。

性別にみても、大きな差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が高いほど居住年数も長く、60歳以上では《10年未満》が4.8%と低くなっています。

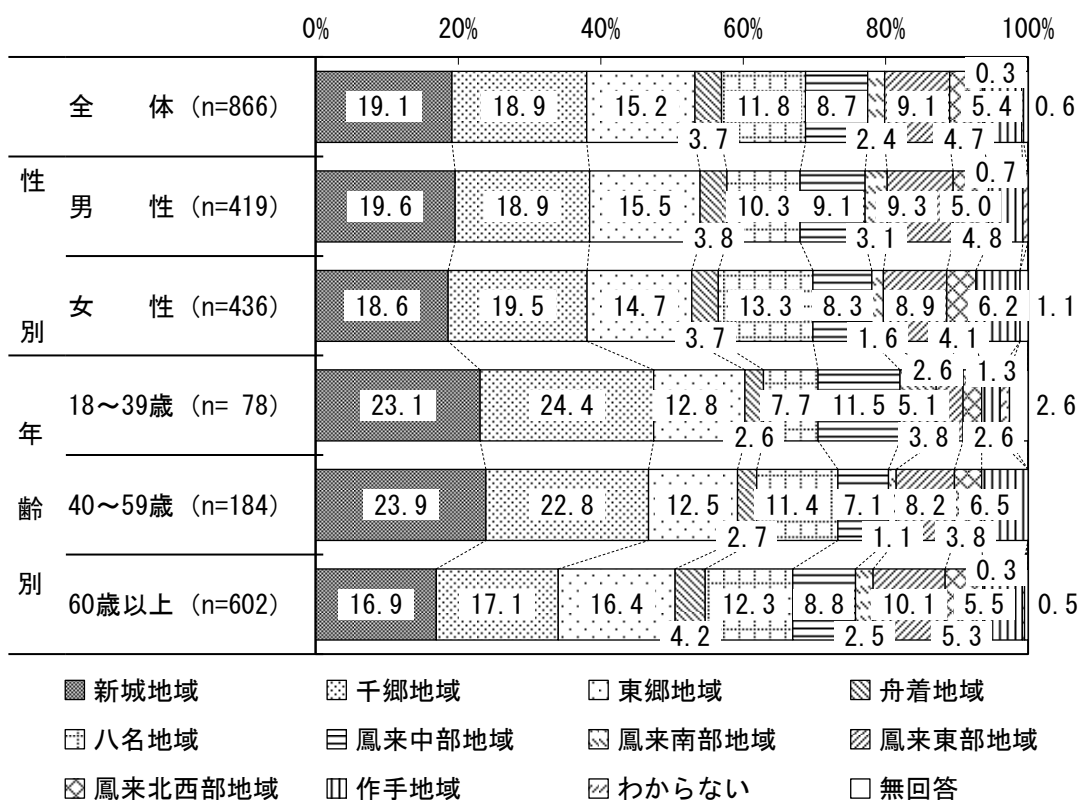
図表5 居住年数



(5) 居住地域

現在の住まいのある地域（自治区）は、「新城地域」が19.1%、「千郷地域」が18.9%、東郷中学校区の「東郷地域」が15.2%、「舟着地域」が3.7%、「八名地域」が11.8%、「鳳来中部地域」が8.7%、「鳳来南部地域」が2.4%、「鳳来東部地域」が9.1%、「鳳来北西部地域」が4.7%、「作手地域」が5.4%となっています。「新城地域」と「千郷地域」、「東郷地域」、「舟着地域」、「八名地域」を合わせた合併前の旧新城市域が7割程度を占めており、この傾向は、性別、年齢別にみても、概ね同様になっています。

図表6 居住地域



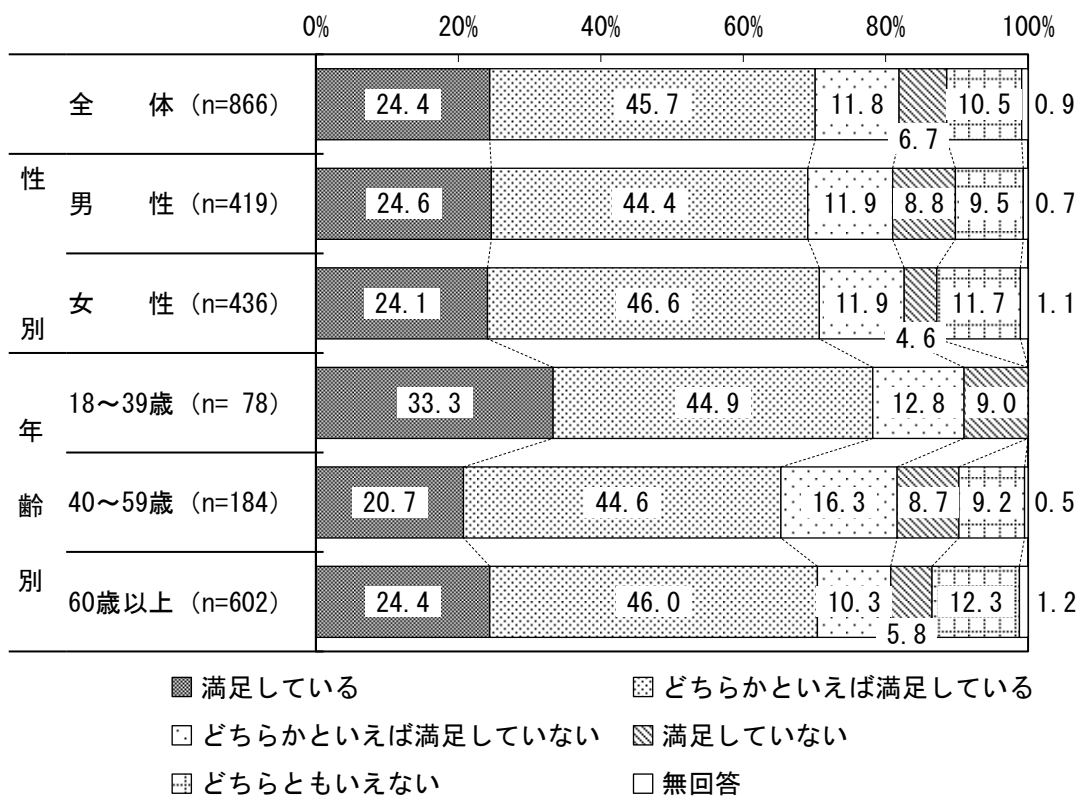
## 2 生活の状況

### (1) 生活の満足度

現在の生活に満足しているかたずねたところ、「満足している」(24.4%)と「どちらかといえば満足している」(45.7%)を合わせた《満足している》は70.1%となっています。一方、「どちらかといえば満足していない」(11.8%)と「満足していない」(6.7%)を合わせた《満足していない》は18.5%となっています。《満足している》が《満足していない》を大きく上回っています。

《満足している》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、18～39歳では比較的高い一方、40～59歳では比較的低くなっています。

図表7 生活の満足度（性別、年齢別）



地域別の状況は、次のとおりです。

**図表 8** 生活の満足度（地域別）

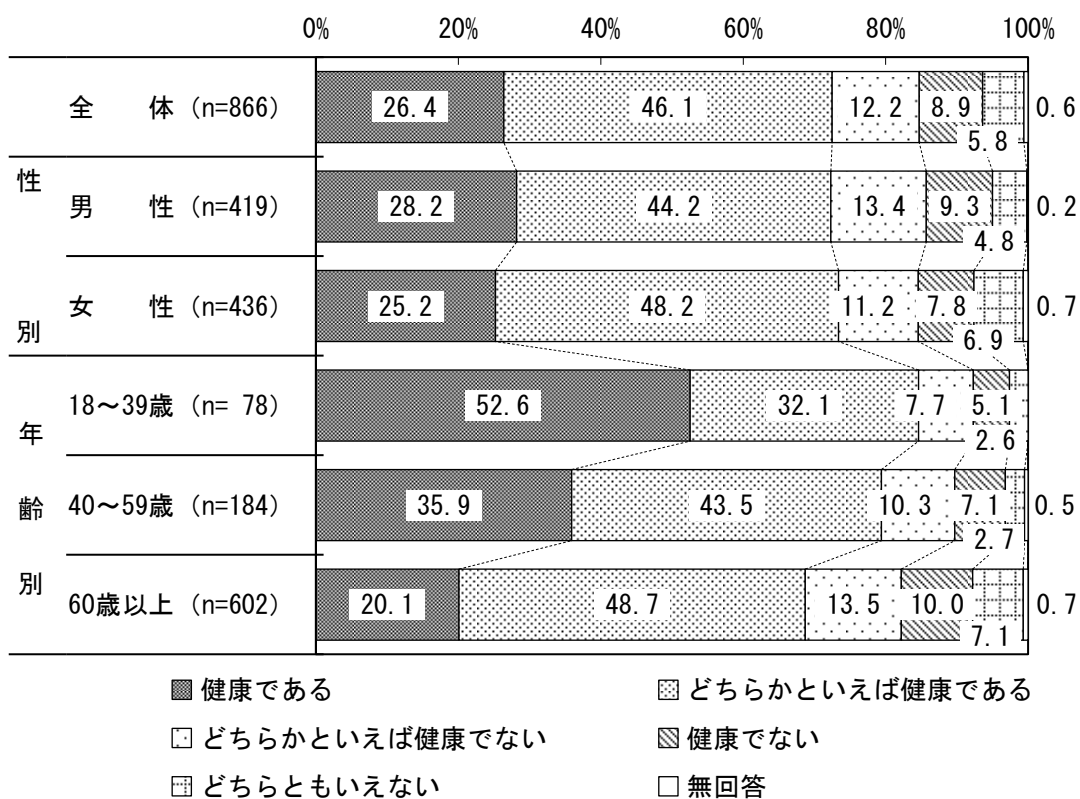
区 分 (地 域)	満足している	満足している どちらかといえば	満足していない どちらかといえば	満足していない	どちらともいえない	無回答
新 城 (n=165)	27.9	38.8	13.9	8.5	10.9	-
千 郷 (n=164)	28.0	48.2	11.6	4.9	6.7	0.6
東 郷 (n=132)	23.5	50.8	10.6	6.1	7.6	1.5
舟 着 (n= 32)	18.8	50.0	12.5	9.4	9.4	-
八 名 (n=102)	20.6	44.1	16.7	3.9	13.7	1.0
鳳来中部 (n= 75)	20.0	48.0	14.7	5.3	10.7	1.3
鳳来南部 (n= 21)	19.0	57.1	-	4.8	19.0	-
鳳来東部 (n= 79)	25.3	44.3	8.9	7.6	11.4	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	19.5	46.3	9.8	9.8	12.2	2.4
作 手 (n= 47)	29.8	42.6	4.3	8.5	14.9	-

(2) 健康状態

現在の健康状態についてたずねたところ、「健康である」(26.4%)と「どちらかといえば健康である」(46.1%)を合わせた《健康である》は72.5%となっています。一方、「どちらかといえば健康でない」(12.2%)と「健康でない」(8.9%)を合わせた《健康でない》は21.1%となっています。《健康である》が《健康でない》を大きく上回っています。

《健康である》は、性別にみても、あまり差異はみられません。年齢別にみると、年齢が低いほど高くなっています。

図表9 健康状態（性別、年齢別）



地域別の状況は、次のとおりです。

図表 10 健康状態（地域別）

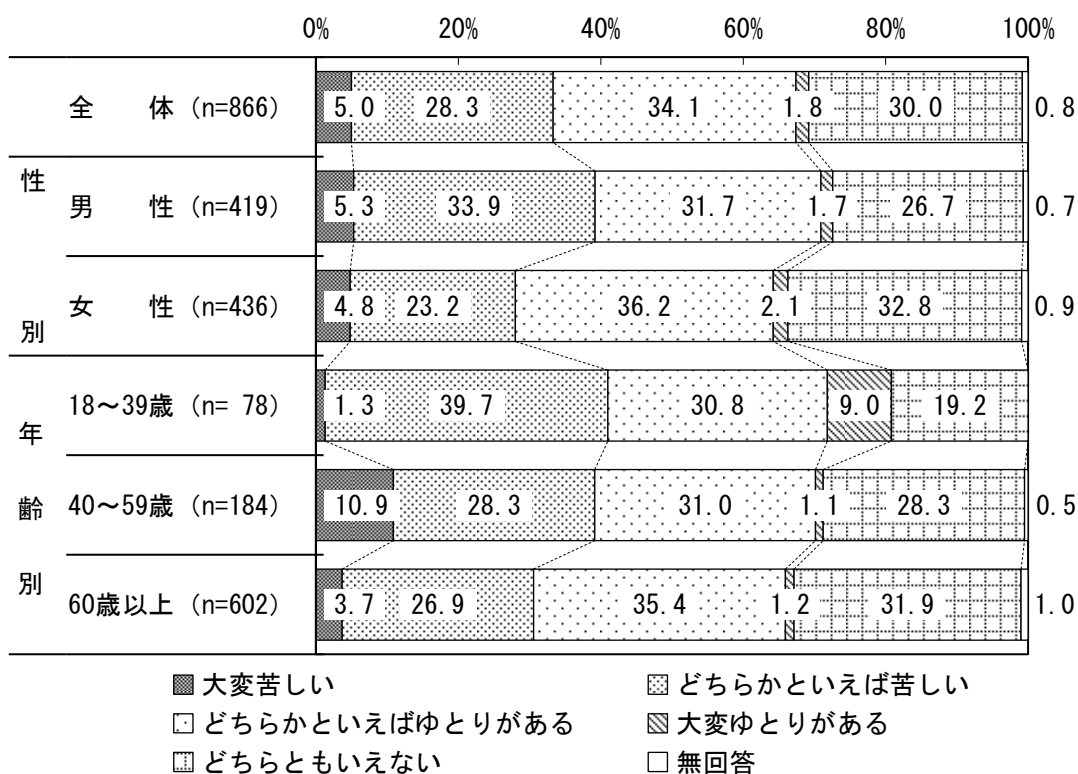
区 分 (地 域)	健康である	健康である どちらかといえば	健康でない どちらかといえば	健康でない	どちらともいえない	無回答
新 城 (n=165)	29.1	45.5	11.5	9.7	4.2	-
千 郷 (n=164)	28.7	45.1	9.1	8.5	7.3	1.2
東 郷 (n=132)	23.5	50.0	13.6	9.1	3.8	-
舟 着 (n= 32)	15.6	43.8	18.8	21.9	-	-
八 名 (n=102)	24.5	50.0	12.7	2.9	9.8	-
鳳来中部 (n= 75)	28.0	50.7	9.3	6.7	4.0	1.3
鳳来南部 (n= 21)	33.3	47.6	9.5	4.8	4.8	-
鳳来東部 (n= 79)	27.8	41.8	17.7	8.9	3.8	-
鳳来北西部 (n= 41)	24.4	36.6	12.2	12.2	9.8	4.9
作 手 (n= 47)	27.7	44.7	8.5	12.8	6.4	-

(3) 経済状況

現在の暮らしを経済的にみてどうかたずねたところ、「大変苦しい」(5.0%)と「どちらかといえば苦しい」(28.3%)を合わせた《苦しい》は33.3%となっています。一方、「どちらかといえばゆとりがある」(34.1%)と「大変ゆとりがある」(1.8%)を合わせた《ゆとりがある》は35.9%、また、「どちらともいえない」が30.0%となっています。

《苦しい》は、性別にみると、女性に比べて男性が高く、年齢別にみると、60歳以上が比較的高くなっています。

図表 11 経済状況（性別、年齢別）





地域別の状況は、次のとおりです。

図表 12 経済状況（地域別）

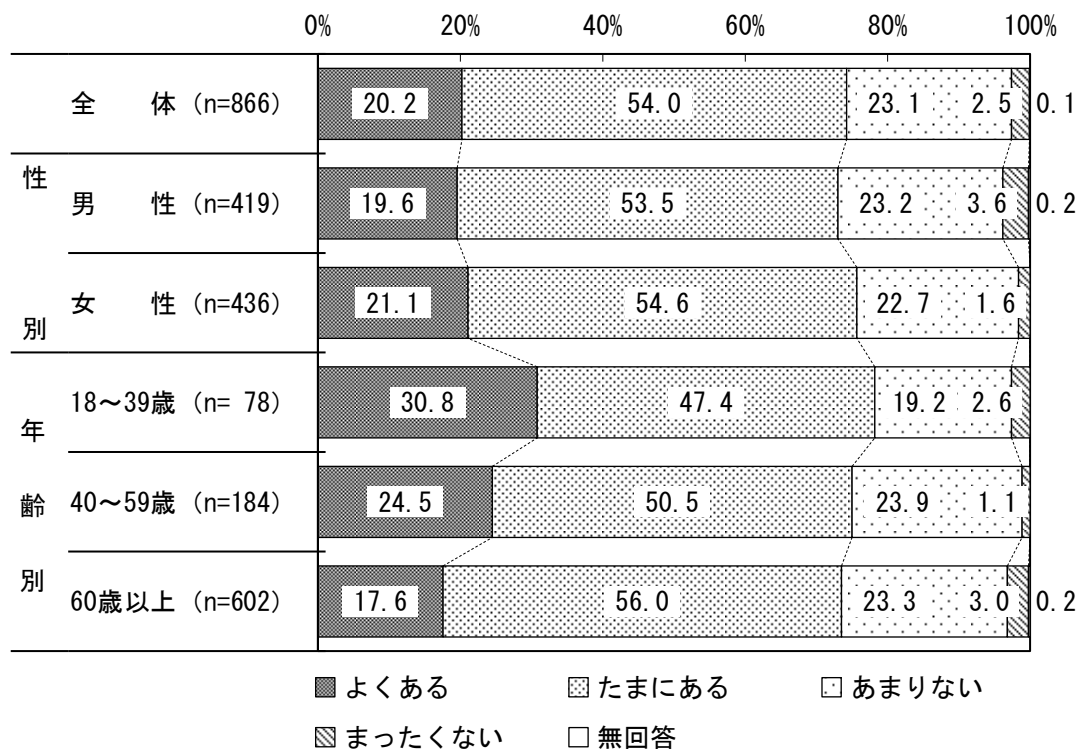
区 分 (地 域)	大変 苦しい	苦しい どちらか といえ ば	ゆとり がある どちらか といえ ば	大変 ゆとり がある	どちら ともい えない	無 回 答
新 城 (n=165)	6.7	36.4	26.7	3.0	26.1	1.2
千 郷 (n=164)	4.9	25.0	43.9	0.6	23.8	1.8
東 郷 (n=132)	2.3	28.0	37.1	2.3	30.3	-
舟 着 (n= 32)	-	31.3	37.5	-	31.3	-
八 名 (n=102)	4.9	21.6	35.3	-	37.3	1.0
鳳来中部 (n= 75)	5.3	30.7	26.7	6.7	29.3	1.3
鳳来南部 (n= 21)	4.8	9.5	38.1	-	47.6	-
鳳来東部 (n= 79)	5.1	32.9	29.1	1.3	31.6	-
鳳来北西部 (n= 41)	9.8	26.8	24.4	-	39.0	-
作 手 (n= 47)	4.3	21.3	42.6	2.1	29.8	-

(4) 困りごとや不安感

ふだんの生活の中で、困りごとや不安に感じることもあるかたずねたところ、「よくある」(20.2%)と「たまにある」(54.0%)を合わせた《ある》は74.2%となっています。また、「あまりない」は23.1%、「まったくない」は2.5%となっています。

《ある》は、性別、年齢別にみても、あまり差異はみられませんが、「よくある」を年齢別にみると、年齢が低いほど高くなっています。

図表 13 生活への不安感（性別、年齢別）



《ある》を地域別にみると、八名地域と鳳来北西部地域では8割を超えて比較的高い一方、千郷地域と作手地域では7割を下回って比較的低くなっています。

図表 14 生活への不安感（地域別）

区 分 (地 域)	よくある	たまにある	あまりない	まったくない	無回答
新 城 (n=165)	24.2	52.1	20.6	3.0	-
千 郷 (n=164)	22.6	46.3	28.7	2.4	-
東 郷 (n=132)	15.2	59.1	25.0	0.8	-
舟 着 (n= 32)	6.3	65.6	28.1	-	-
八 名 (n=102)	12.7	69.6	15.7	1.0	1.0
鳳来中部 (n= 75)	21.3	49.3	24.0	5.3	-
鳳来南部 (n= 21)	9.5	61.9	28.6	-	-
鳳来東部 (n= 79)	22.8	50.6	21.5	5.1	-
鳳来北西部 (n= 41)	26.8	56.1	12.2	4.9	-
作 手 (n= 47)	25.5	40.4	31.9	2.1	-

---

---

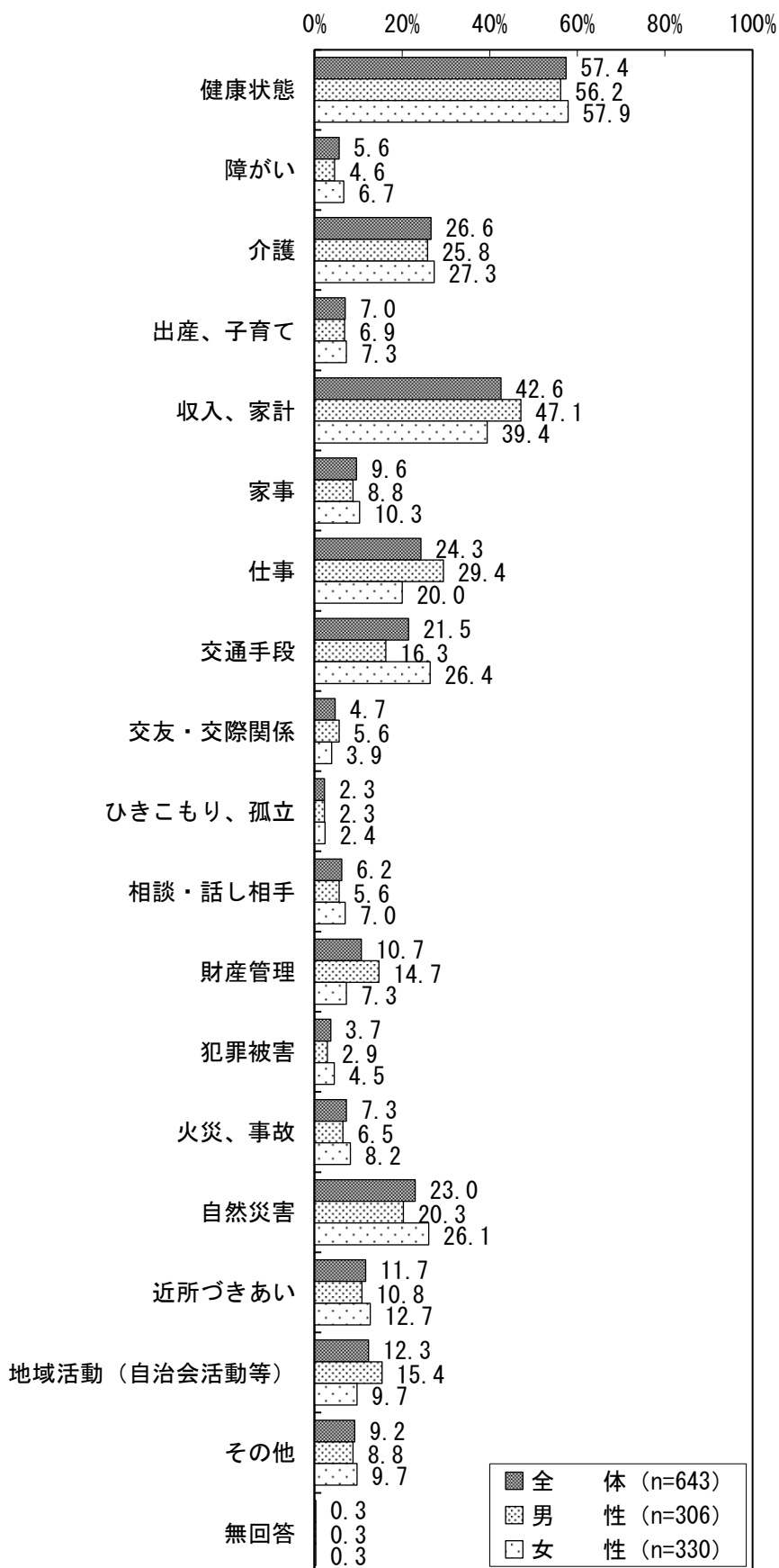
困りごとや不安に感じるものが《ある》人に、特に困ることや不安に思うことは何かたずねたところ、「健康状態」が57.4%と最も高く、次いで、「収入、家計」が42.6%、「介護」が26.6%、「仕事」が24.3%、「自然災害」が23.0%などとなっています。

性別にみると、「交通手段」は男性に比べて女性が10ポイント程度高くなっています。(図表15)

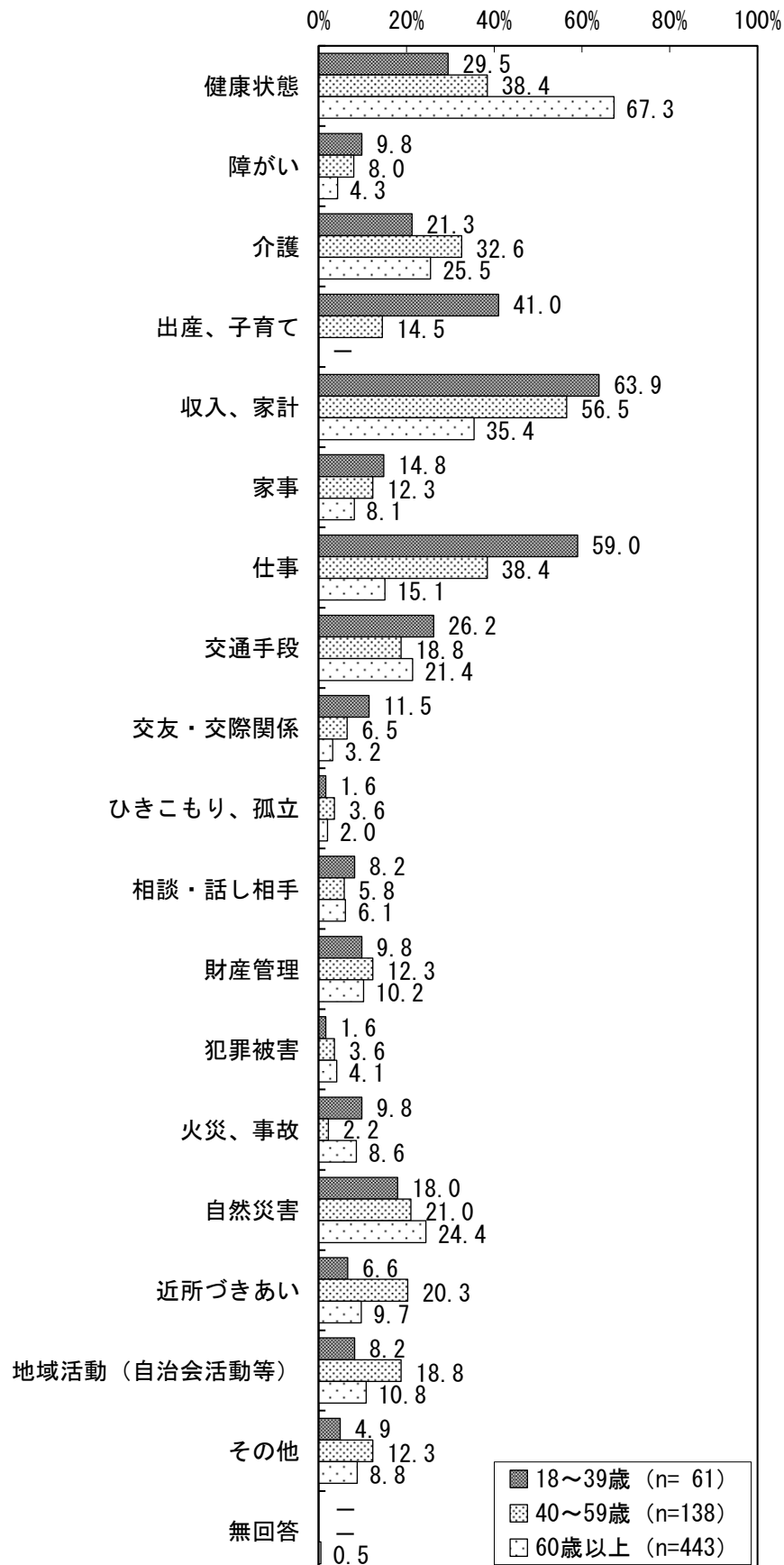
年齢別にみると、「健康状態」は60歳以上が、「出産・子育て」と「仕事」は18～39歳が顕著に高くなっています。(図表16)

地域別にみても、「健康状態」がいずれの地域においても最も高くなっています。(図表17)

図表 15 特に困ることや不安に思うこと（性別、複数回答）



図表 16 特に困ることや不安に思うこと（年齢別、複数回答）



図表 17-1 特に困ることや不安に思うこと（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	健康状態	障がい	介護	出産、 子育て	収入、 家計	家事	仕事	交通手段	交友・交際関係	ひきこもり、 孤立
新 城 (n=126)	57.1	6.3	23.8	11.1	54.0	11.9	38.1	18.3	4.8	4.0
千 郷 (n=113)	55.8	5.3	32.7	8.0	43.4	11.5	15.0	14.2	4.4	1.8
東 郷 (n= 98)	57.1	9.2	25.5	6.1	30.6	6.1	22.4	22.4	5.1	1.0
舟 着 (n= 23)	56.5	4.3	13.0	8.7	43.5	4.3	8.7	21.7	4.3	4.3
八 名 (n= 84)	56.0	3.6	28.6	10.7	40.5	6.0	21.4	26.2	1.2	1.2
鳳来中部 (n= 53)	62.3	3.8	24.5	3.8	39.6	9.4	24.5	18.9	5.7	-
鳳来南部 (n= 15)	40.0	-	20.0	13.3	20.0	-	40.0	26.7	13.3	-
鳳来東部 (n= 58)	58.6	1.7	27.6	1.7	48.3	17.2	24.1	25.9	1.7	3.4
鳳来北西部 (n= 34)	61.8	5.9	29.4	-	47.1	11.8	20.6	29.4	5.9	2.9
作 手 (n= 31)	61.3	6.5	29.0	-	32.3	9.7	22.6	29.0	9.7	3.2

図表 17-2 特に困ることや不安に思うこと（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	相談・話し相手	財産管理	犯罪被害	火災、事故	自然災害	近所づきあい	地域活動（自治会活動等）	その他	無回答
新 城 (n=126)	6.3	9.5	7.1	7.1	17.5	13.5	8.7	6.3	-
千 郷 (n=113)	6.2	4.4	2.7	1.8	10.6	10.6	11.5	10.6	0.9
東 郷 (n= 98)	4.1	12.2	2.0	10.2	21.4	13.3	6.1	9.2	-
舟 着 (n= 23)	4.3	8.7	-	-	21.7	17.4	26.1	21.7	-
八 名 (n= 84)	6.0	10.7	2.4	6.0	25.0	8.3	11.9	7.1	-
鳳来中部 (n= 53)	7.5	13.2	1.9	11.3	20.8	7.5	17.0	17.0	1.9
鳳来南部 (n= 15)	13.3	13.3	-	6.7	40.0	6.7	6.7	6.7	-
鳳来東部 (n= 58)	6.9	13.8	1.7	10.3	34.5	8.6	20.7	3.4	-
鳳来北西部 (n= 34)	5.9	11.8	2.9	5.9	35.3	26.5	14.7	5.9	-
作 手 (n= 31)	9.7	25.8	6.5	16.1	51.6	9.7	16.1	9.7	-



---

なお、「その他」として、主に次のような記載がありました。

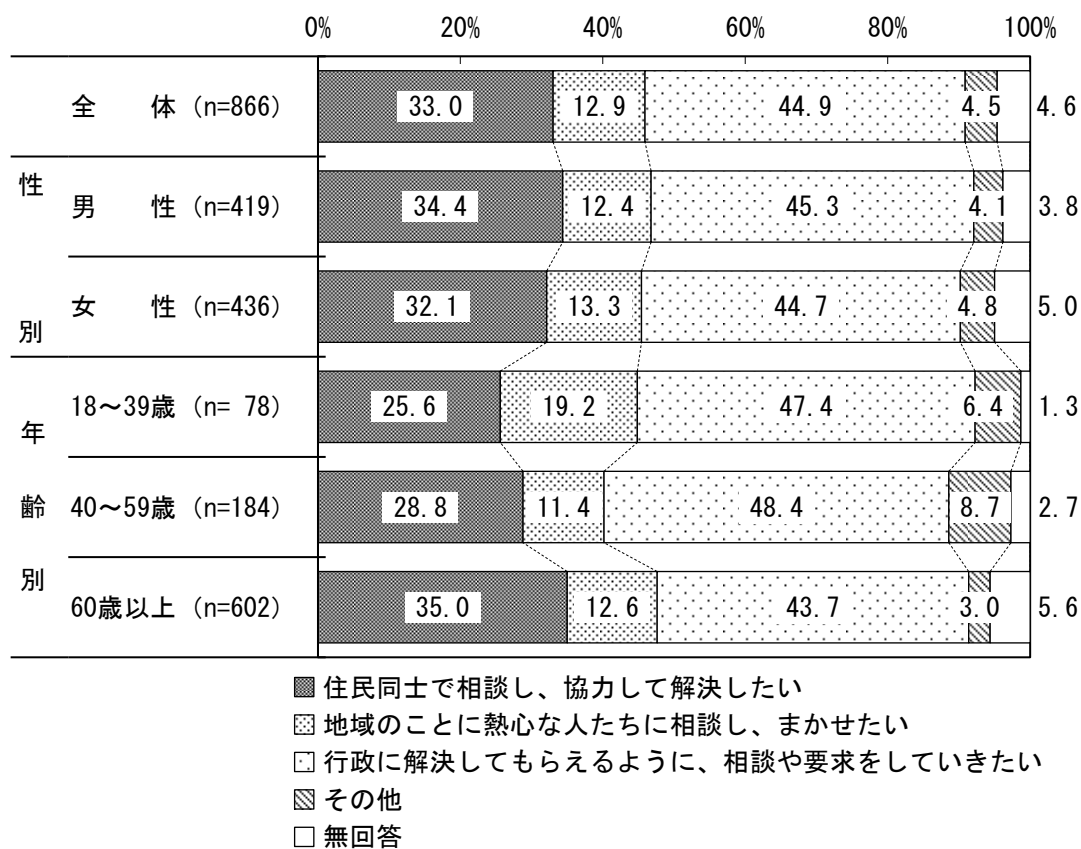
- ・農地の管理（6件）
- ・自宅（周り）の管理（2件）
- ・まだ実家が鳳来にある（どうするかタイミングも含む）
- ・空き家、放棄地処分、家の跡継ぎ
- ・相続
- ・税金
- ・老後が心配（4件）
- ・家族関係（2件）
- ・家族の健康状態（2件）
- ・成人した子どもの将来
- ・孫の世話
- ・夫婦関係
- ・夫の借金
- ・買い物（4件）
- ・人口減少（2件）
- ・40歳過ぎた息子が未婚、人口問題が最優先課題
- ・風力発電建設問題（2件）
- ・近所の騒音
- ・山中で携帯が通じない
- ・獣害
- ・家の周りが草木でひどく動物（シカやイノシシなど）が出てくる
- ・庭をモグラが荒らす
- ・コウモリ対策
- ・草刈
- ・空き缶、空瓶を出すことに大変苦労している
- ・ゴミの煙
- ・地域被害
- ・水道水の状態
- ・住環境
- ・道路環境
- ・組長など役員になること
- ・住民のつきあいが少なくなってきたため残念
- ・新城は楽しくない

(5) 地域における困りごとなどの解決方法

地域において困っていることや問題になっていることをどのような方法で解決するとよいと思うかたずねたところ、「行政に解決してもらえるように、相談や要求をしていきたい」が 44.9%と最も高く、自分たちの生活に関わることであるため「住民同士で相談し、協力して解決したい」が 33.0%、「地域のことに熱心な人たちに相談し、まかせたい」が 12.9%となっています。

性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、「住民同士で相談し、協力して解決したい」は年齢が高いほど高くなっています。

図表 18 地域における困りごとなどの解決方法（性別、年齢別）



地域別にみると、新城地域と鳳来南部地域では「行政に解決してもらえるように、相談や要求をしていきたい」が5割に及んでいる一方、八名地域では「住民同士で相談し、協力して解決したい」が4割に及んで、「行政に解決してもらえるように、相談や要求をしていきたい」と同率になっています。

図表 19 地域における困りごとなどの解決方法（地域別）

区 分 (地 域)	住民同士で相談し、協力して解決したい	まかせたい 地域のことに熱心な人たちに相談し、	行政に解決してもらえないように、 相談や要求をしていきたい	その他	無回答
新 城 (n=165)	26.7	11.5	50.9	6.7	4.2
千 郷 (n=164)	29.3	18.3	44.5	3.7	4.3
東 郷 (n=132)	39.4	10.6	43.9	2.3	3.8
舟 着 (n= 32)	34.4	6.3	43.8	12.5	3.1
八 名 (n=102)	40.2	11.8	40.2	5.9	2.0
鳳来中部 (n= 75)	36.0	12.0	42.7	4.0	5.3
鳳来南部 (n= 21)	38.1	4.8	52.4	-	4.8
鳳来東部 (n= 79)	34.2	13.9	44.3	2.5	5.1
鳳来北西部 (n= 41)	22.0	12.2	48.8	7.3	9.8
作 手 (n= 47)	36.2	17.0	36.2	2.1	8.5

---

なお、「その他」として、主に次のような記載がありました。

- ・行政と住民が協力して解決していく（5件）
- ・「住民同士で相談し、協力して解決したい」と「行政に解決してもらえるように、相談や要求をしていきたい」
- ・問題によって違うと思うが、まずは「住民同士で相談し、協力して解決したい」
- ・自分たち地域で解決できるものは解決し、できないものは行政に相談する
- ・住民同士で解決すべきだが、行政の意見や判断は必要
- ・「住民同士で相談し、協力して解決したい」が理想であるが、実際には難しい
- ・住民同士の協力だけではままならないので、行政の支援や他地区からの応援、援助が必要
- ・地域で中心となっている人が他の住民に相談の上、行政と協力していく
- ・困りごとの内容にもよる（4件）
- ・内容によっては、それぞれの対応だったり、それらを合わせた対応になるのでは
- ・直面する問題を類型化し、第一次的に対応する主体と、第二次的に対応する主体とを場合によって対応するのがよい。もっとも問題に対応できるように住民自身が意識改善する必要がある
- ・住民で解決すべき問題はない
- ・市へ相談を持ちかけてもなかなか対応してくれない
- ・区長、組長に相談する
- ・相談できる相手はいない
- ・保守的な人が多く、今後も変わらない
- ・何もしてくれない人たちに言ってもダメ
- ・各自の意識、認識の変化
- ・いろいろな立場の人々が納得する回答を見つけて進めていく
- ・問題にもよるが、信仰のグループに相談する
- ・今までにそのようなことはない
- ・賃貸アパートに住んでおり、地域のことはよく知らない
- ・どうしてよいかわからない

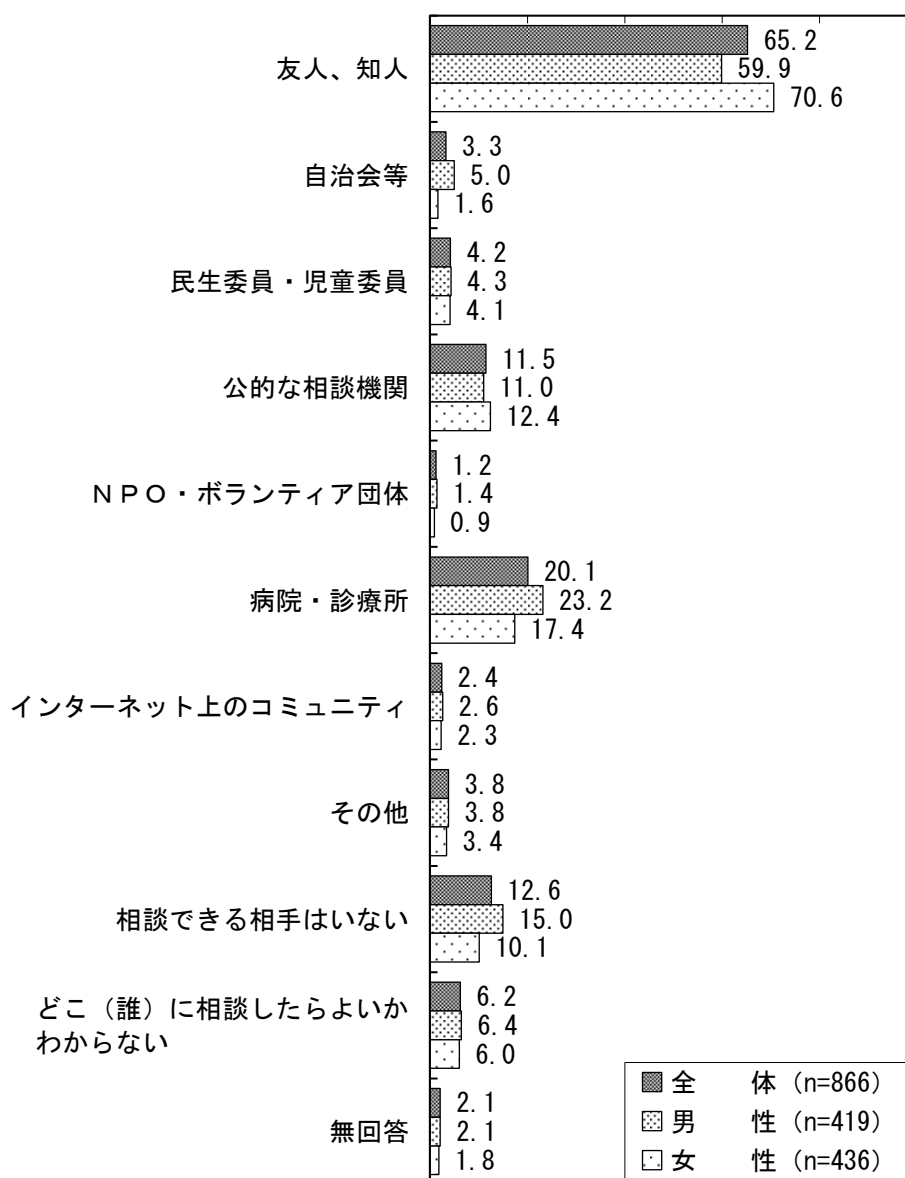
### 3 相談や情報収集の状況

#### (1) 相談相手

困りごとや不安に感じることなど何かあったときに、家族や親族以外に相談できる相手がいるかたずねたところ、「友人・知人」が65.2%と最も高く、次いで、「病院・診療所」が20.1%となっています。なお、「相談できる相手はいない」は12.6%、「どこ（誰）に相談したらよいかわからない」は6.2%にとどまっています。

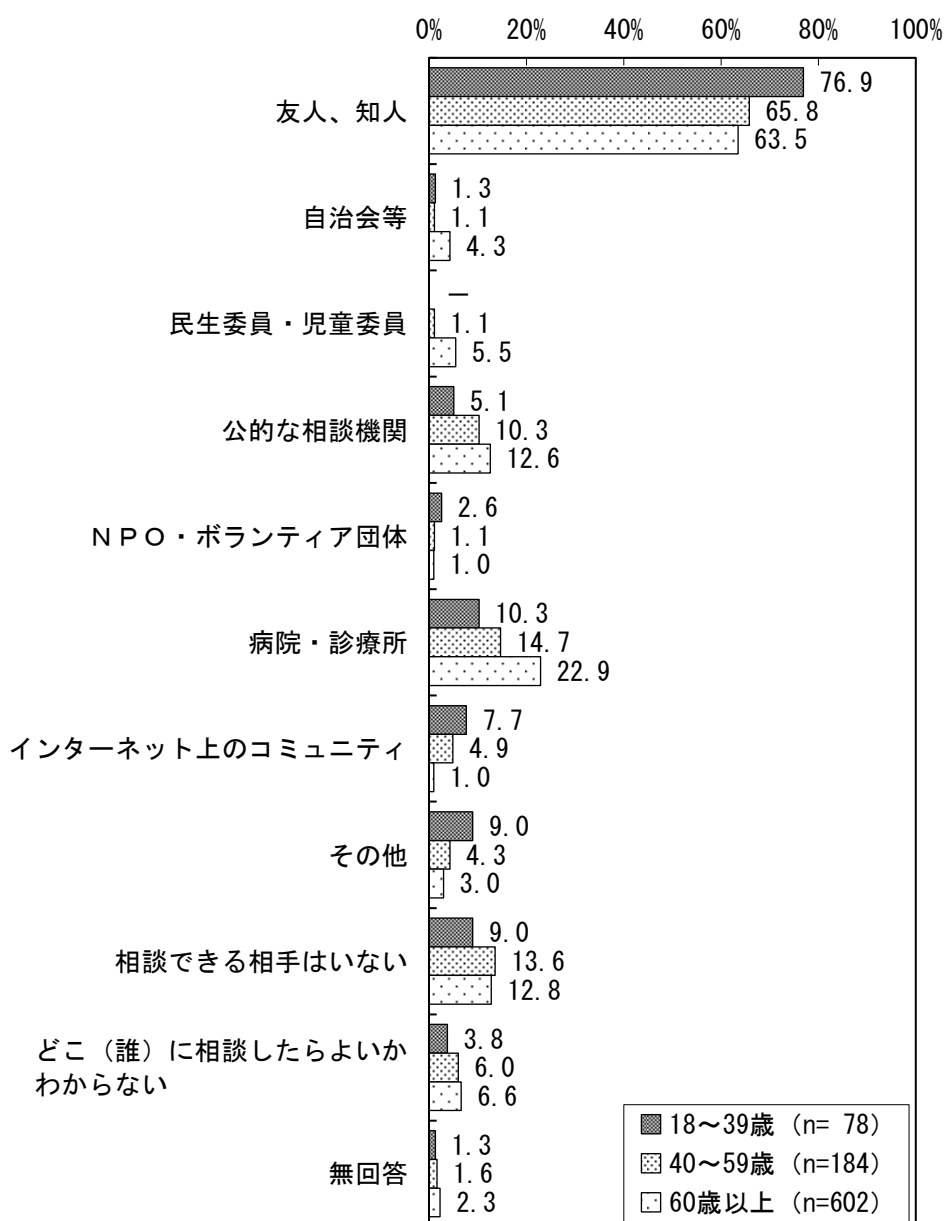
性別にみると、「友人・知人」は、男性に比べて女性が10ポイント程度高くなっています。

図表 20 相談相手（性別、複数回答） 0% 20% 40% 60% 80% 100%



年齢別にみると、「友人・知人」は、18～39歳が比較的高くなっています。

図表 21 相談相手（年齢別、複数回答）



地域別にみても、「友人、知人」がいずれの地域においても最も高くなっています。

図表 22 相談相手（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	友人、 知人	自治会等	民生委員・ 児童委員	公的な 相談機関	NPO・ボ ランティア 団体	病院・診 療所	イン ター ネッ ト上 の コ ミ ュ ニ テ ィ	そ の 他	相 談 で き る 相 手 は い な い	ど こ (誰) に 相 談 し た ら よ い か わ か ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	61.8	2.4	5.5	13.3	-	20.0	3.6	6.7	12.7	4.2	3.0
千 郷 (n=164)	68.9	3.0	3.0	6.7	0.6	20.1	0.6	1.8	13.4	5.5	1.2
東 郷 (n=132)	59.1	5.3	3.0	18.2	1.5	25.0	2.3	5.3	16.7	5.3	1.5
舟 着 (n= 32)	68.8	3.1	18.8	12.5	-	15.6	-	3.1	12.5	6.3	3.1
八 名 (n=102)	72.5	2.9	1.0	14.7	2.0	15.7	2.0	-	9.8	5.9	2.0
鳳来中部 (n= 75)	74.7	2.7	5.3	6.7	-	20.0	1.3	1.3	8.0	5.3	1.3
鳳来南部 (n= 21)	47.6	-	-	-	-	14.3	9.5	9.5	14.3	14.3	-
鳳来東部 (n= 79)	60.8	3.8	1.3	10.1	1.3	20.3	2.5	3.8	12.7	7.6	5.1
鳳来北西部 (n= 41)	65.9	7.3	4.9	9.8	2.4	22.0	4.9	2.4	12.2	4.9	-
作 手 (n= 47)	66.0	2.1	6.4	12.8	4.3	17.0	4.3	4.3	10.6	17.0	2.1

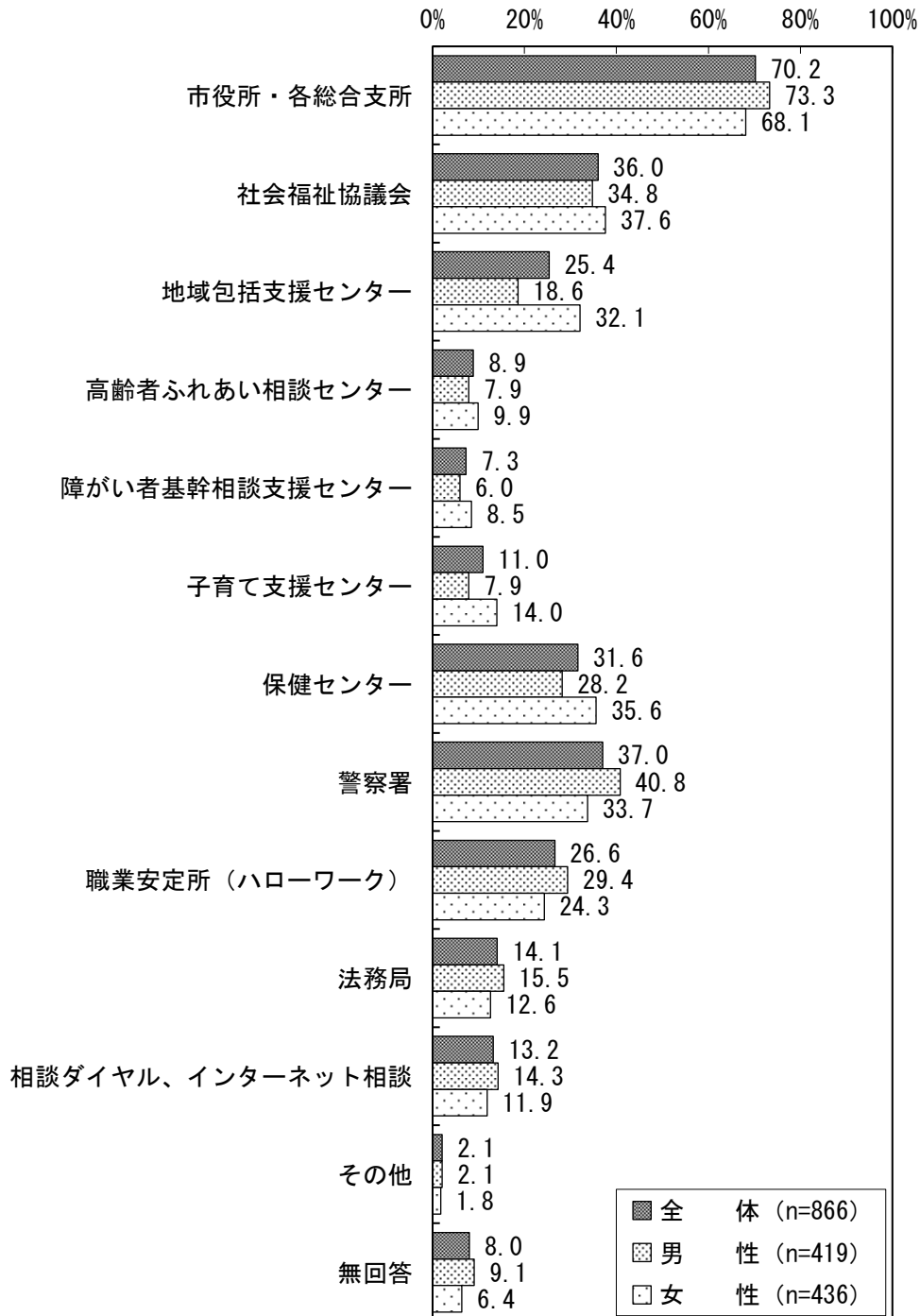
なお、「その他」として、「職場」（4件）、「近所の人」、「相談員」、「ケアマネ」のほか、「相談が必要なほどのことはない」などの記載がありました。

(2) 公的な相談機関の認知状況

相談先として11.5%にとどまっている「公的な相談機関」として知っているところをたずねたところ、「市役所・各総合支所」が70.2%と最も高く、次いで、「警察署」が37.0%、「社会福祉協議会」が36.0%、「保健センター」が31.6%のなどとなっています。

性別にみると、「地域包括支援センター」は、男性に比べて女性が10ポイント以上高くなっています。

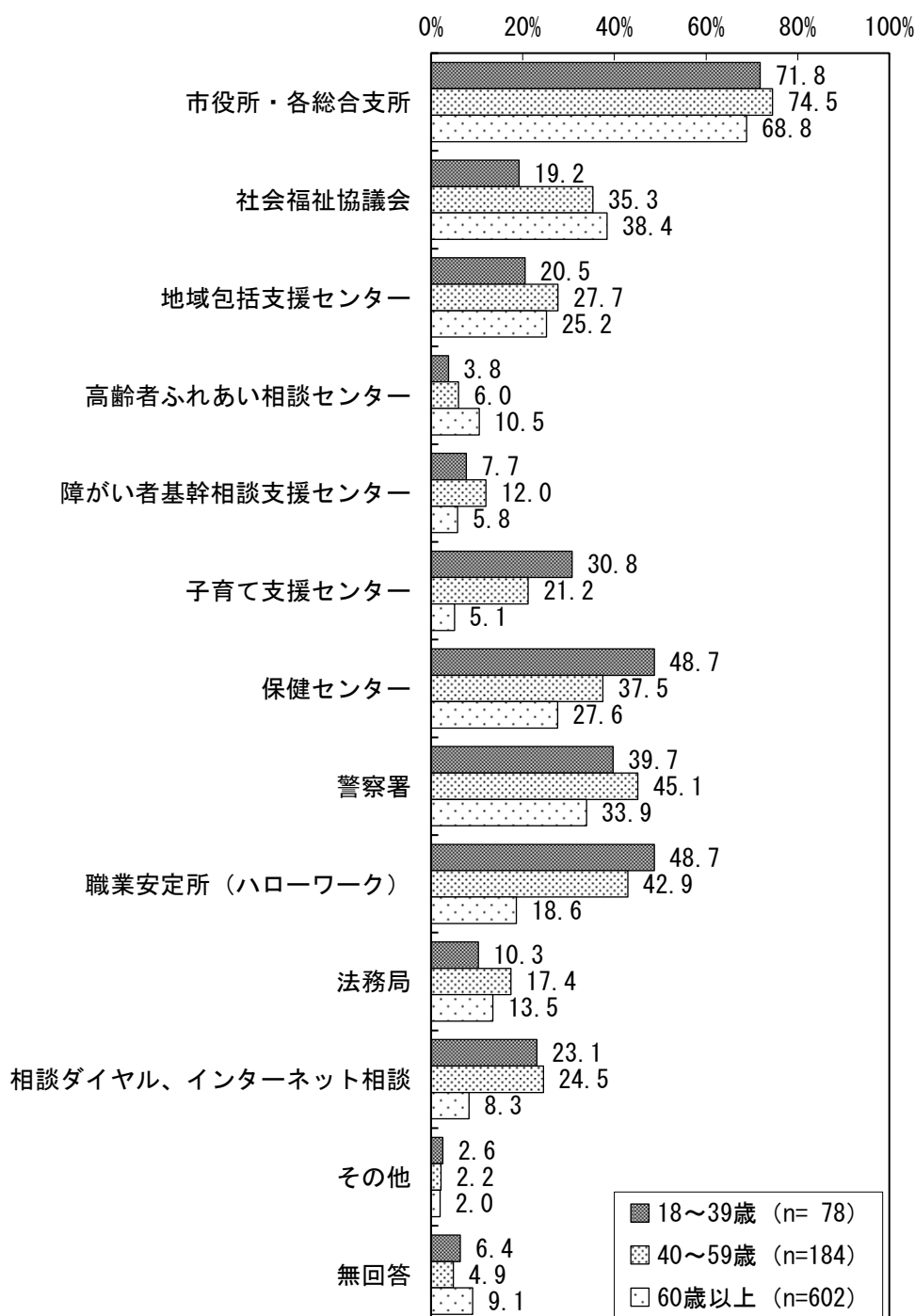
図表 23 公的な相談機関の認知状況（性別、複数回答）





年齢別にみると、「保健センター」は、18～39歳が比較的高くなっています。

図表 24 公的な相談機関の認知状況（年齢別、複数回答）



地域別にみても、「市役所・各総合支所」がいずれの地域においても最も高くなっていますが、東郷地域など5地域では「社会福祉協議会」が次に高くなっています。

図表 25 公的な相談機関の認知状況（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	市役所・各総合支所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	高齢者ふれあい相談センター	障がい者基幹相談支援センター	子育て支援センター	保健センター	警察署	職業安定所（ハローワーク）	法務局	相談ダイヤル、インターネット相談	その他	無回答
新 城 (n=165)	70.9	32.1	20.6	8.5	6.7	11.5	25.5	34.5	27.3	16.4	10.3	3.0	7.9
千 郷 (n=164)	71.3	34.1	25.0	8.5	6.7	11.6	35.4	44.5	28.7	16.5	15.2	1.2	6.7
東 郷 (n=132)	74.2	43.2	26.5	8.3	6.8	11.4	36.4	35.6	25.0	16.7	15.2	3.0	4.5
舟 着 (n= 32)	65.6	34.4	21.9	9.4	3.1	3.1	21.9	18.8	9.4	-	12.5	3.1	9.4
八 名 (n=102)	72.5	28.4	23.5	6.9	9.8	14.7	34.3	35.3	29.4	12.7	11.8	-	6.9
鳳来中部 (n= 75)	70.7	30.7	26.7	10.7	6.7	8.0	32.0	34.7	29.3	8.0	14.7	1.3	9.3
鳳来南部 (n= 21)	57.1	19.0	19.0	9.5	-	9.5	14.3	33.3	19.0	9.5	23.8	9.5	9.5
鳳来東部 (n= 79)	68.4	49.4	34.2	15.2	8.9	10.1	30.4	40.5	22.8	11.4	10.1	-	8.9
鳳来北西部 (n= 41)	63.4	39.0	22.0	4.9	7.3	9.8	31.7	36.6	26.8	9.8	17.1	4.9	14.6
作 手 (n= 47)	61.7	44.7	36.2	8.5	12.8	12.8	38.3	38.3	31.9	25.5	8.5	2.1	12.8

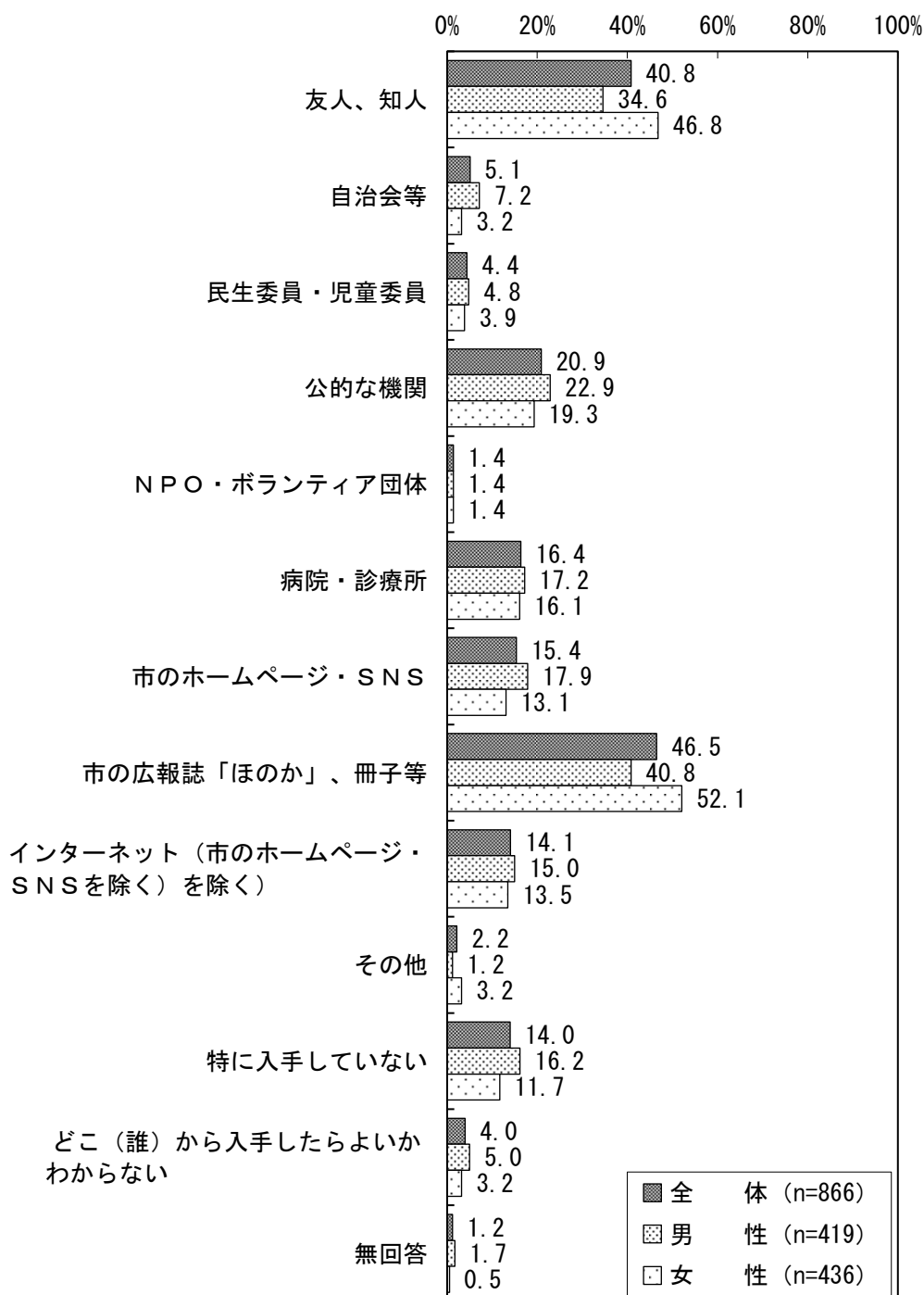
なお、「その他」として、「法テラス」（3件）、「わからない」（3件）、「何もない」（2件）、「今は重要な相談ごとがない」（2件）などの記載がありました。

### (3) 情報の入手先

福祉に関する情報を家族や親族以外に主にどこから入手しているかたずねたところ、「市の広報誌「ほのか」、冊子等」が46.5%と最も高く、次いで、「友人、知人」が40.8%、「公的な機関」が20.9%などとなっています。なお、「特に入手していない」は14.0%、「どこ（誰）から入手したらよいかわからない」は4.0%にとどまっています。

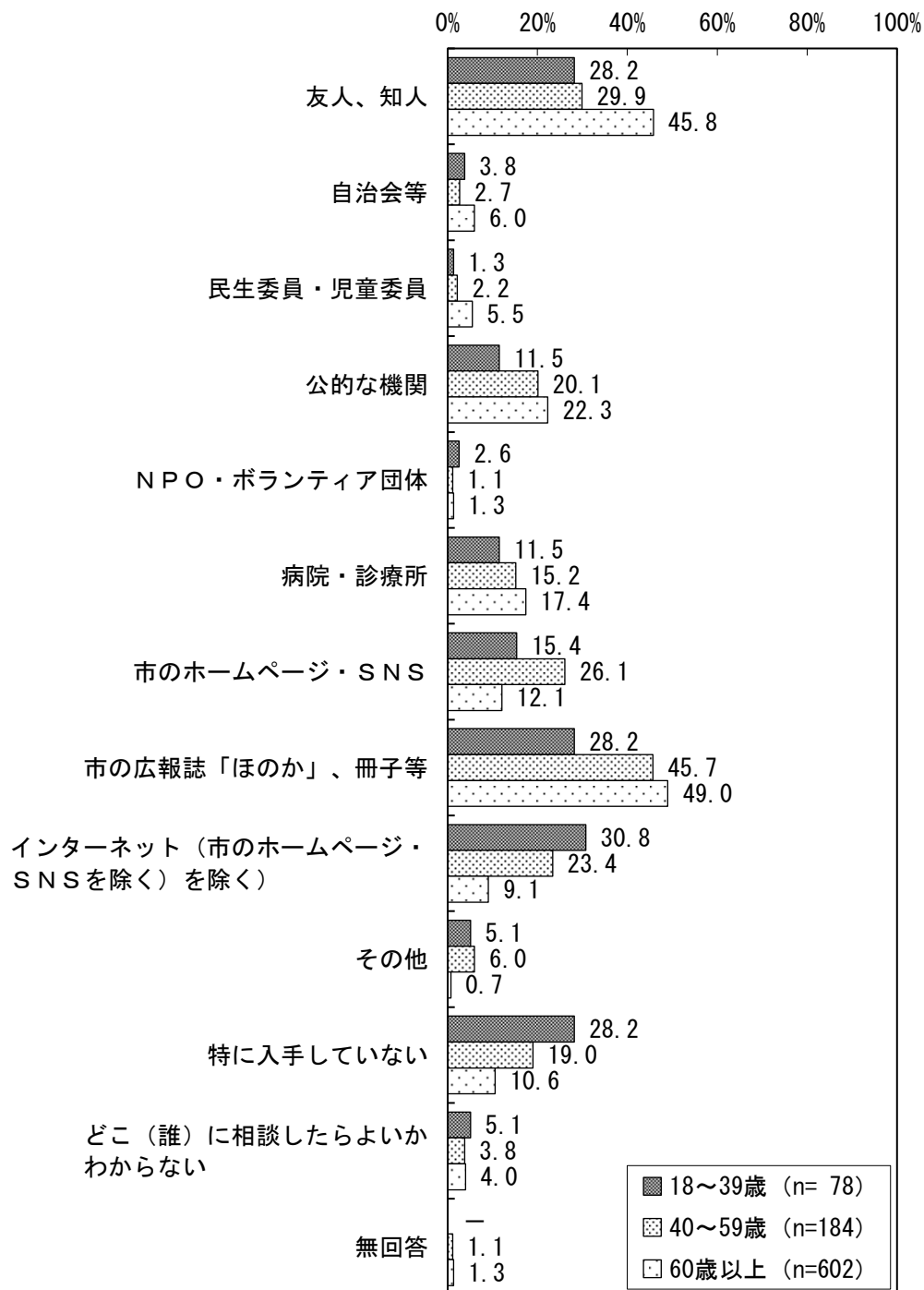
性別にみると、「市の広報誌「ほのか」、冊子等」と「友人、知人」は、男性に比べて女性が10ポイント以上高くなっています。

図表 26 情報の入手先（性別、複数回答）



年齢別にみると、「友人、知人」は60歳以上、「市のホームページ・SNS」は40～59歳が比較的高くなっています。

図表 27 情報の入手先（年齢別、複数回答）



地域別にみると、舟着地域や鳳来中部、鳳来南部では、「市の広報誌「ほのか」、冊子等」ではなく、「友人、知人」が最も高くなっています。

図表 28 情報の入手先（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	友人、 知人	自治会等	民生委員・ 児童委員	公的な機 関	N P O ・ ボランテ ィア団体	病院・診 療所	市のホー ムページ ・SNS	市の広報 誌「ほの か」、冊 子等	インタ ーネット (市のホ ームペ ージ・ SNSを 除く)	その他	特に入 手して いない	どこ(誰) から入 手した らよ いか わ か ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	37.6	3.6	6.1	19.4	-	16.4	17.0	44.8	16.4	2.4	13.3	2.4	3.0
千 郷 (n=164)	40.2	4.9	1.2	22.6	0.6	17.7	17.1	48.2	16.5	3.0	12.8	4.3	0.6
東 郷 (n=132)	37.9	6.1	4.5	28.0	3.0	20.5	12.9	44.7	12.9	0.8	20.5	3.0	-
舟 着 (n= 32)	62.5	-	15.6	12.5	-	12.5	12.5	53.1	12.5	6.3	12.5	-	-
八 名 (n=102)	43.1	7.8	2.0	17.6	-	14.7	13.7	45.1	13.7	2.0	13.7	3.9	-
鳳来中部 (n= 75)	42.7	6.7	5.3	14.7	2.7	18.7	9.3	40.0	17.3	1.3	17.3	6.7	1.3
鳳来南部 (n= 21)	47.6	-	-	4.8	-	9.5	19.0	42.9	28.6	-	4.8	9.5	-
鳳来東部 (n= 79)	45.6	5.1	6.3	21.5	2.5	19.0	16.5	55.7	6.3	2.5	6.3	5.1	1.3
鳳来北西部 (n= 41)	34.1	7.3	4.9	29.3	2.4	4.9	24.4	46.3	12.2	2.4	9.8	7.3	-
作 手 (n= 47)	36.2	4.3	4.3	23.4	2.1	12.8	12.8	51.1	6.4	-	17.0	4.3	4.3

なお、「その他」として、「職場」（4件）、「新聞」（3件）、「テレビ」（2件）、「ケアマネジャー」（2件）、「近所の人」、「社協」、「本」のほか、「今のところ困ったことがない」などの記載がありました。

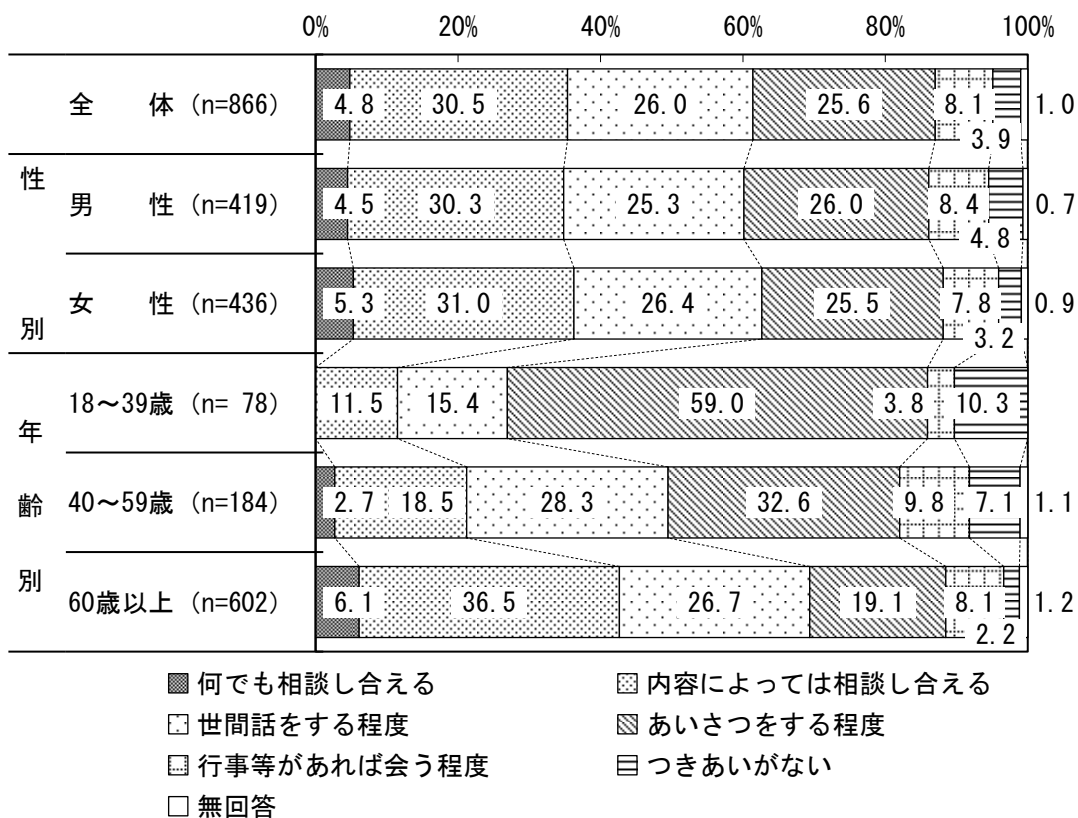
## 4 近所づきあいや地域活動の状況等

### (1) 近所づきあい

近所の人とふだんの程度のおつきあいをしているかたずねたところ、「内容によっては相談し合える」が30.5%と最も高く、「何でも相談し合える」が4.8%と、これらを合わせた《相談し合える》は35.3%となっています。このほか、「世間話をする程度」は26.0%、「あいさつをする程度」は25.6%、「行事等があれば会う程度」は8.1%で、「つきあいがいい」は3.9%と非常に低くなっています。

《相談し合える》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が高いほど高くなっています。

図表 29 近所づきあい（性別、年齢別）



《相談し合える》を地域別にみると、舟着地域や鳳来中部・東部・北西部地域、作手地域では4割を超えて比較的高い一方、新城地域と千郷地域では3割を下回って比較的低くなっています。

図表 30 近所づきあい（地域別）

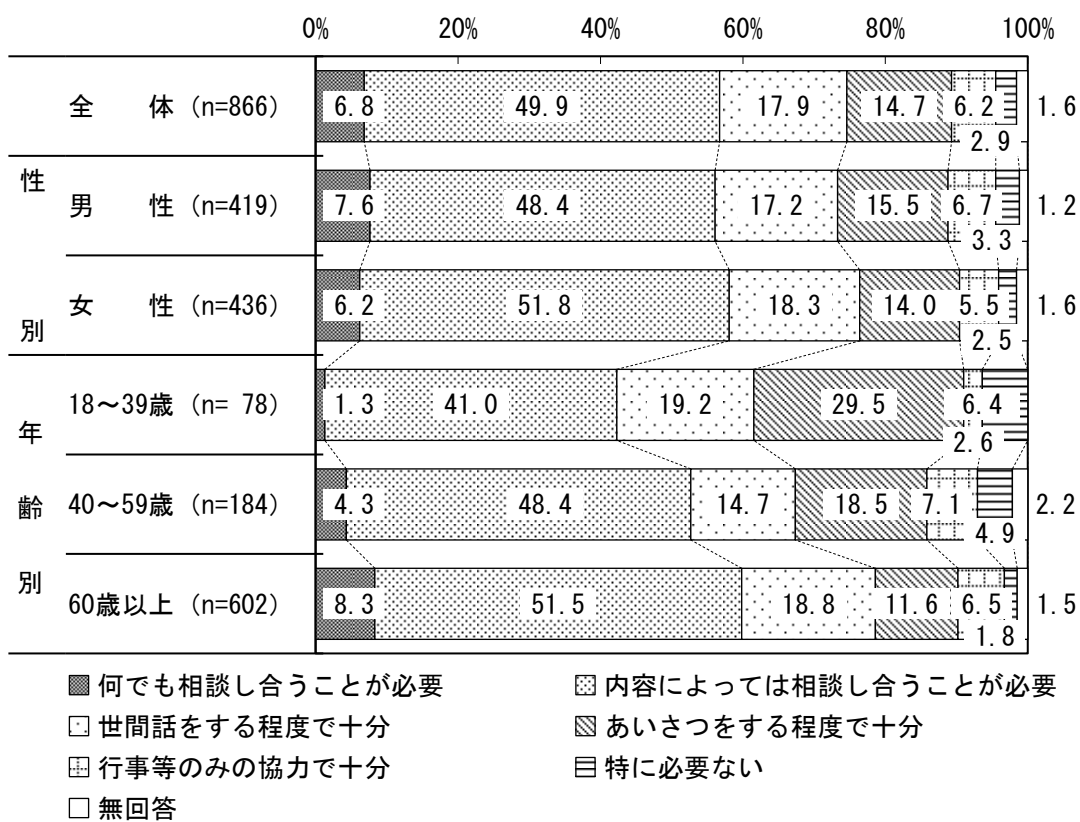
区 分 (地 域)	何でも相談し合える	内容によっては相談し合える	世間話をする程度	あいさつをする程度	行事等があれば会う程度	つきあいがいい	無回答
新 城 (n=165)	4.2	23.6	23.0	37.0	5.5	5.5	1.2
千 郷 (n=164)	2.4	23.8	27.4	29.3	11.0	5.5	0.6
東 郷 (n=132)	3.8	34.1	21.2	28.8	6.8	3.8	1.5
舟 着 (n= 32)	6.3	37.5	21.9	18.8	12.5	3.1	-
八 名 (n=102)	6.9	28.4	31.4	27.5	5.9	-	-
鳳来中部 (n= 75)	5.3	36.0	25.3	20.0	5.3	8.0	-
鳳来南部 (n= 21)	4.8	28.6	38.1	23.8	4.8	-	-
鳳来東部 (n= 79)	7.6	35.4	32.9	11.4	8.9	1.3	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	4.9	36.6	19.5	17.1	14.6	2.4	4.9
作 手 (n= 47)	8.5	44.7	25.5	8.5	10.6	2.1	-

(2) 近所づきあいについての考え方

近所づきあいについての考え方をたずねたところ、「内容によっては相談し合うことが必要」が49.9%と最も高く、「何でも相談し合うことが必要」が6.8%と、これらを合わせた《相談し合うことが必要》は56.7%となっており、実際の《相談し合える》状況（34頁参照）より20ポイント以上高くなっています。このほか、「世間話をする程度で十分」は17.9%、「あいさつをする程度で十分」は14.7%、「行事等のみでの協力で十分」は6.2%で、「特に必要ない」は2.9%と非常に低くなっています。

《相談し合うことが必要》は、性別にみても、あまり差異はみられません。年齢別にみると、年齢が高いほど高くなっています。

図表 31 近所づきあいについての考え方（性別、年齢別）





《相談し合うことが必要》を地域別にみると、八名地域や鳳来中部地域、作手地域では6割を超えて比較的高い一方、新城地域と千郷地域では5割を下回って比較的低くなっています。

図表 32 近所づきあいについての考え方（地域別）

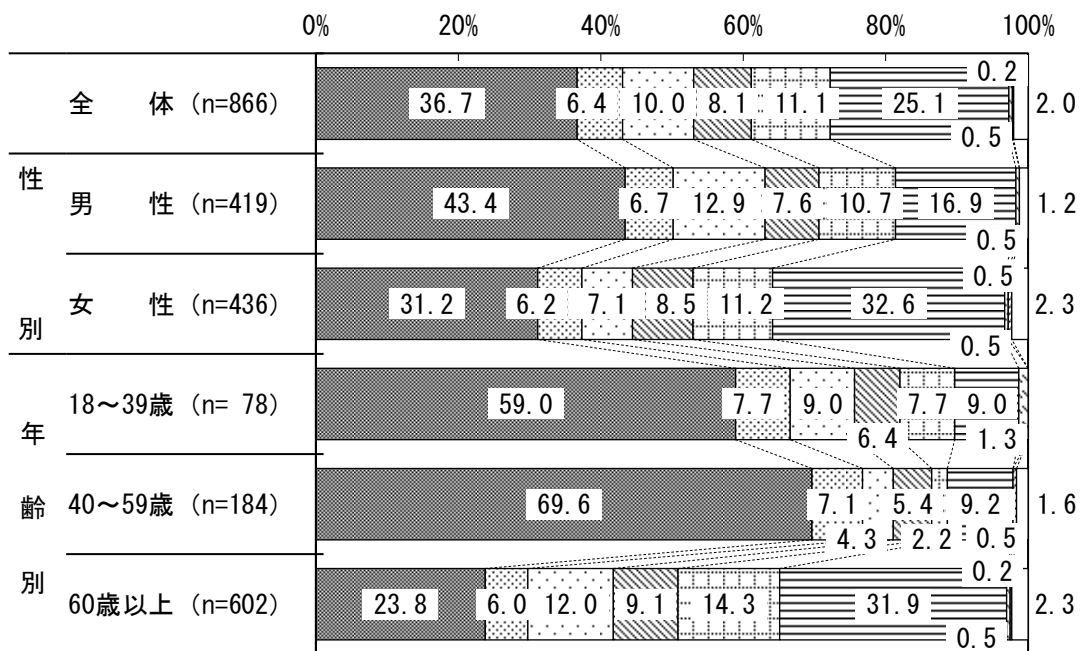
区 分 (地 域)	何でも相談し合うことが必要	内容によっては相談し合うことが必要	世間話をする程度で十分	あいさつをする程度で十分	行事等のみの協力で十分	特に必要ない	無回答
新 城 (n=165)	6.1	41.8	22.4	20.6	2.4	4.8	1.8
千 郷 (n=164)	6.1	43.3	21.3	19.5	5.5	2.4	1.8
東 郷 (n=132)	5.3	51.5	15.2	14.4	9.8	3.0	0.8
舟 着 (n= 32)	3.1	56.3	12.5	6.3	18.8	-	3.1
八 名 (n=102)	10.8	50.0	16.7	13.7	6.9	2.0	-
鳳来中部 (n= 75)	8.0	60.0	13.3	10.7	1.3	6.7	-
鳳来南部 (n= 21)	4.8	52.4	23.8	-	14.3	-	4.8
鳳来東部 (n= 79)	5.1	54.4	19.0	10.1	7.6	1.3	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	7.3	48.8	14.6	14.6	7.3	-	7.3
作 手 (n= 47)	12.8	66.0	10.6	6.4	4.3	-	-

### (3) 外出の頻度

ふだんの程度外出しているかたずねたところ、「仕事や学校で、ほぼ外出する」が36.7%と最も高く、これに「仕事や学校で、ときどき外出する」(6.4%)と「仕事や学校以外で、頻繁に外出する」(10.0%)、「仕事や学校以外で、ときどき外出する」(8.1%)を合わせると61.2%となります。一方で、「自室からもほとんど出ない」は0.2%、「自室からは出るが、家からは出ない」は0.5%、これらに「ふだんは家にいるが、近所に買い物などには出かける」(25.1%)と「ふだんは家にいるが、趣味などの用事があるときだけ出かける」(11.1%)を合わせた《ふだんは家にいる》は、36.9%となっています。

《ふだんは家にいる》は、性別にみると、男性に比べて女性が15ポイント以上高くなっており、年齢別にみると、60歳以上が比較的高く、4割を超えています。

図表 33 外出の頻度（性別、年齢別）



- 仕事や学校で、ほぼ外出する
- ▨ 仕事や学校で、ときどき外出する
- ▩ 仕事や学校以外で、頻繁に外出する
- ▧ 仕事や学校以外で、ときどき外出する
- ▦ ふだんは家にいるが、趣味などの用事があるときだけ出かける
- ▤ ふだんは家にいるが、近所に買い物などには出かける
- ▣ 自室からは出るが、家からは出ない
- ▢ 自室からもほとんど出ない
- 無回答

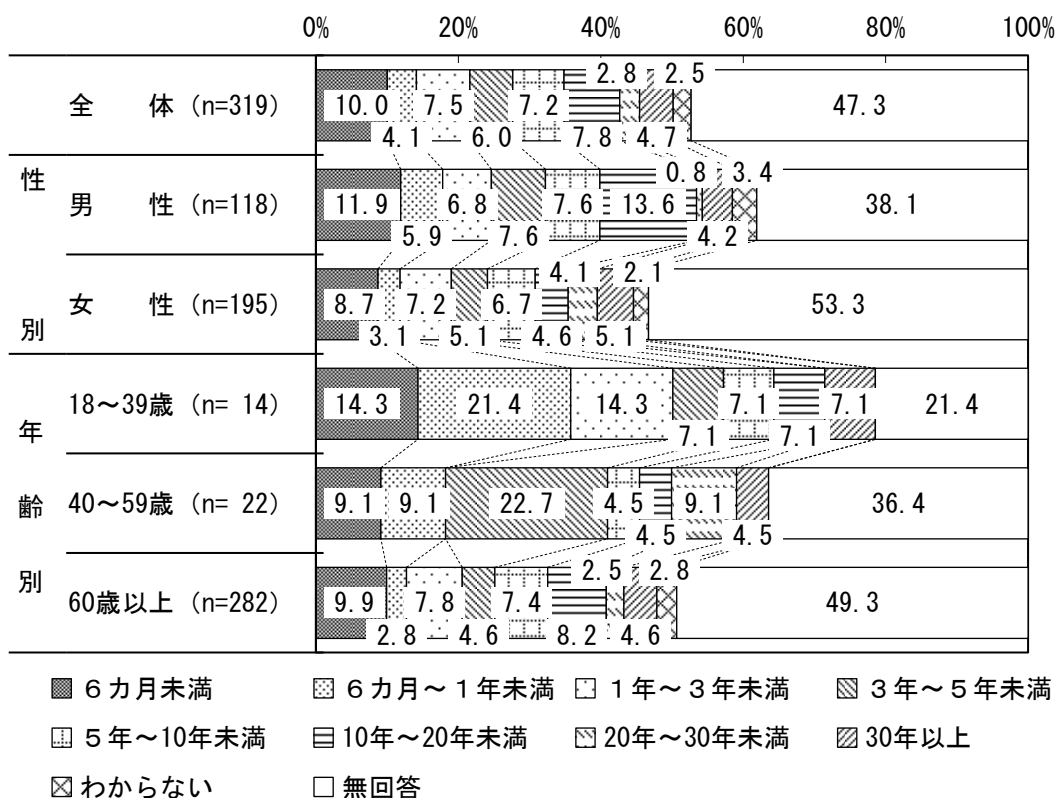
《ふだんは家にいる》を地域別にみると、舟着地域や鳳来北西部地域、作手地域では4割を超えています。いずれも「自室からもほとんど出ない」と「自室からは出るが、家からは出ない」に回答はありませんでした。「自室からもほとんど出ない」または「自室からは出るが、家からは出ない」に回答があったのは、新城地域と千郷地域、八名地域です。

図表 34 外出の頻度（地域別）

区 分 (地 域)	仕事や学校で、 ほぼ外出する	仕事や学校で、 ときどき外出する	仕事や学校以外で、 頻繁に外出する	仕事や学校以外で、 ときどき外出する	趣味などの用事があるとき だけ出かける	ふだんは家にいるが、 近所買い物などには出かける	自室からは出るが、 家からは出ない	自室からもほとんど 出ない	無回答
新 城 (n=165)	40.6	4.8	10.9	7.3	7.9	26.1	0.6	0.6	1.2
千 郷 (n=164)	43.9	6.1	5.5	6.7	11.0	23.8	0.6	0.6	1.8
東 郷 (n=132)	34.8	6.1	9.8	13.6	9.8	24.2	-	-	1.5
舟 着 (n= 32)	21.9	6.3	12.5	12.5	18.8	28.1	-	-	-
八 名 (n=102)	41.2	6.9	7.8	5.9	11.8	23.5	1.0	-	2.0
鳳来中部 (n= 75)	37.3	5.3	13.3	4.0	14.7	24.0	-	-	1.3
鳳来南部 (n= 21)	14.3	9.5	23.8	9.5	19.0	19.0	-	-	4.8
鳳来東部 (n= 79)	31.6	10.1	10.1	11.4	6.3	27.8	-	-	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	24.4	9.8	12.2	7.3	14.6	26.8	-	-	4.9
作 手 (n= 47)	31.9	4.3	10.6	4.3	14.9	29.8	-	-	4.3

「ふだんは家にいるが、趣味などの用事があるときだけ出かける」または「ふだんは家にいるが、近所に買い物などには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からもほとんど出ない」と答えた人に、《ふだんは家にいる》状態になってどの程度が経つかをたずねたところ、「10年～20年未満」と「20年～30年未満」、「30年以上」を合わせた《10年以上》が15.3%、「5年～10年未満」と「3年～5年未満」、「1年～3年未満」を合わせた《1年～10年未満》が20.7%、「6カ月～1年未満」が4.1%、「6カ月未満」が10.0%となっています。なお、「無回答」が5割弱を占めています。《10年以上》は、性別、年齢別にみても、大きな差異はみられません。

図表 35 外出の頻度が低くなってからの期間（性別、年齢別）



地域別の状況は、次のとおりです。

図表 36 外出の頻度が低くなってからの期間（地域別）

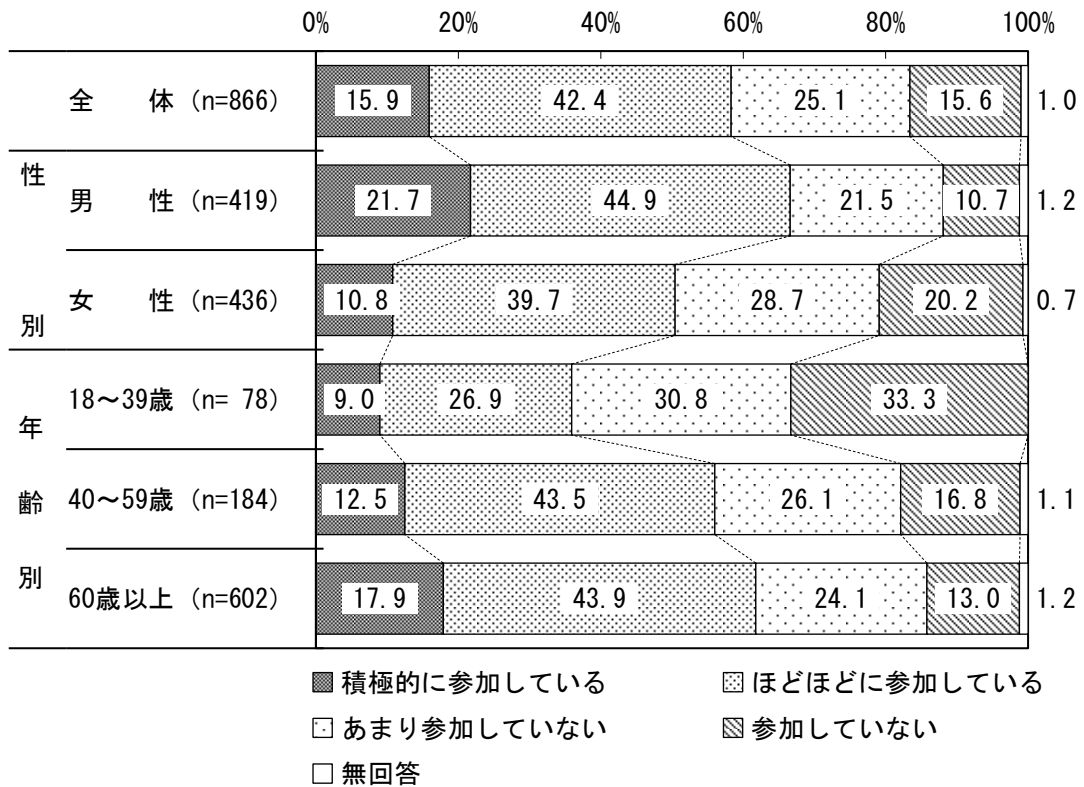
区 分 (地 域)	6 力 月 未 満	6 力 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 3 年 未 満	3 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 ～ 3 0 年 未 満	3 0 年 以 上	わ か ら な い	無 回 答
新 城 (n=58)	8.6	1.7	6.9	6.9	-	6.9	1.7	5.2	6.9	55.2
千 郷 (n=59)	8.5	5.1	6.8	-	11.9	1.7	3.4	3.4	-	59.3
東 郷 (n=45)	8.9	4.4	11.1	6.7	8.9	13.3	4.4	2.2	-	40.0
舟 着 (n=15)	6.7	6.7	6.7	20.0	6.7	13.3	-	6.7	-	33.3
八 名 (n=37)	10.8	5.4	8.1	8.1	16.2	-	-	8.1	2.7	40.5
鳳来中部 (n=29)	6.9	3.4	10.3	3.4	6.9	6.9	3.4	10.3	6.9	41.4
鳳来南部 (n= 8)	-	-	12.5	12.5	-	-	12.5	-	-	62.5
鳳来東部 (n=27)	11.1	-	-	11.1	7.4	14.8	7.4	3.7	3.7	40.7
鳳来北西部 (n=17)	17.6	11.8	-	5.9	5.9	5.9	-	5.9	-	47.1
作 手 (n=21)	23.8	-	9.5	-	-	23.8	-	-	-	42.9

(4) 地域活動等への参加状況

地域の活動や行事にどの程度参加しているかたずねたところ、「積極的に参加している」(15.9%)と「ほどほどに参加している」(42.4%)を合わせた《参加している》は58.3%となっています。一方、「あまり参加していない」は25.1%、「参加していない」は15.6%となっています。

《参加している》は、性別にみると、女性に比べて男性が15ポイント以上高く、年齢別にみると、年齢が高いほど高くなっています。

図表 37 地域活動等への参加状況（性別、年齢別）



《参加している》を地域別にみると、作手地域では7割を超えて比較的高い一方、新城地域と舟着地域では5割以下と比較的低くなっています。

図表 38 地域活動等への参加状況（地域別）

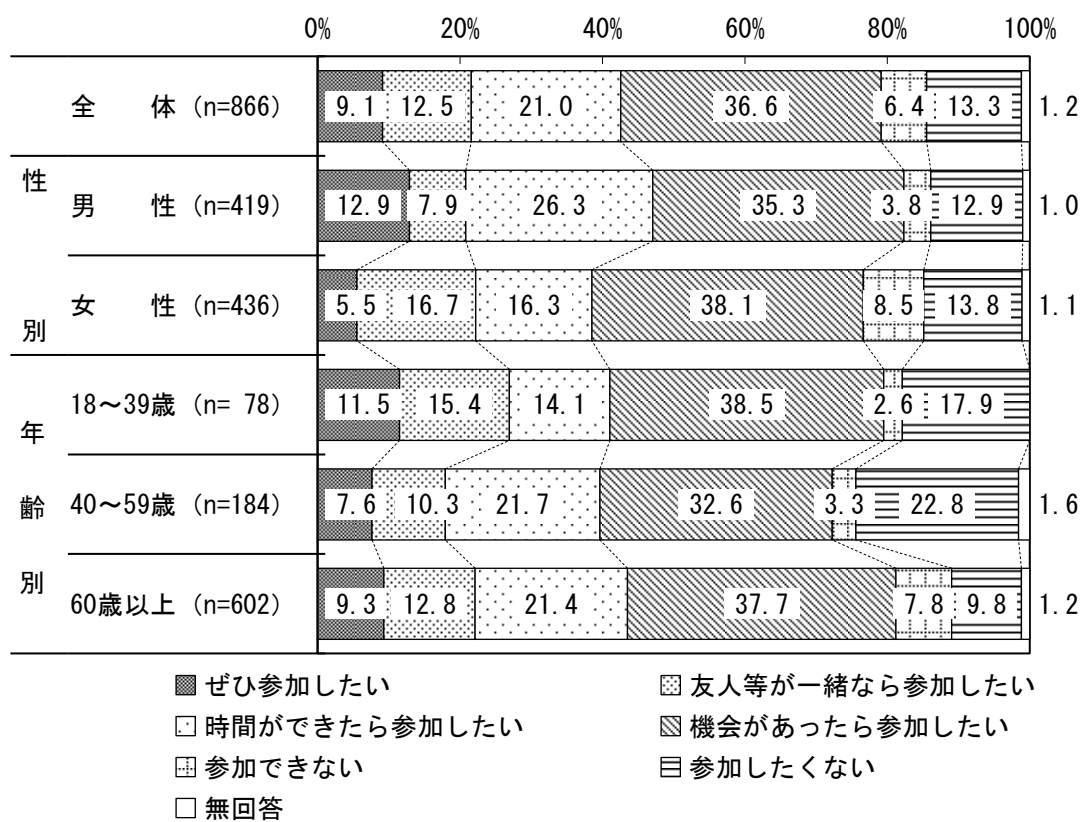
区 分 (地 域)	積 極 的 に 参 加 し て い る	ほ ど ほ ど に 参 加 し て い る	あ ま り 参 加 し て い な い	参 加 し て い な い	無 回 答
新 城 (n=165)	10.9	38.2	28.5	21.2	1.2
千 郷 (n=164)	12.2	40.2	28.0	17.1	2.4
東 郷 (n=132)	10.6	50.0	25.0	14.4	-
舟 着 (n= 32)	21.9	28.1	25.0	25.0	-
八 名 (n=102)	18.6	41.2	22.5	17.6	-
鳳来中部 (n= 75)	17.3	48.0	25.3	9.3	-
鳳来南部 (n= 21)	23.8	42.9	23.8	9.5	-
鳳来東部 (n= 79)	22.8	45.6	19.0	11.4	1.3
鳳来北西部 (n= 41)	17.1	39.0	31.7	9.8	2.4
作 手 (n= 47)	31.9	44.7	17.0	4.3	2.1

(5) 地域活動等への参加意向

今後、地域の活動や行事に参加したいと思うかたずねたところ、「機会があったら参加したい」が36.6%と最も高くなっています。これに「ぜひ参加したい」(9.1%)、「友人等と一緒に参加したい」(12.5%)、「時間ができたら参加したい」(21.0%)を合わせた《参加意向》は79.2%に及び、何らかの動機づけ、機会があれば、より多くの人が地域活動や行事に参加する可能性があると言えます。一方、「参加したくない」は13.3%、「参加できない」は6.4%にとどまっています。

《参加意向》は、性別にみると、女性に比べて男性が6ポイント程度高く、年齢別にみると、40～59歳が比較的低くなっています。

図表 39 地域活動等への参加意向（性別、年齢別）





《参加意向》を地域別にみると、鳳来南部地域では100%、作手地域では9割を超えて比較的高い一方、舟着地域では7割を下回って比較的低くなっています。

図表 40 地域活動等への参加意向（地域別）

区 分 (地 域)	ぜひ参加したい	友人等と一緒に参加したい	時間ができたら参加したい	機会があったら参加したい	参加できない	参加したくない	無回答
新 城 (n=165)	5.5	14.5	19.4	34.5	6.7	18.2	1.2
千 郷 (n=164)	5.5	11.6	18.3	43.3	7.9	11.6	1.8
東 郷 (n=132)	6.8	7.6	21.2	42.4	6.8	15.2	-
舟 着 (n= 32)	9.4	6.3	28.1	25.0	18.8	12.5	-
八 名 (n=102)	8.8	9.8	29.4	36.3	5.9	9.8	-
鳳来中部 (n= 75)	13.3	21.3	16.0	32.0	2.7	13.3	1.3
鳳来南部 (n= 21)	23.8	14.3	19.0	42.9	-	-	-
鳳来東部 (n= 79)	11.4	8.9	29.1	30.4	3.8	13.9	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	12.2	14.6	14.6	31.7	9.8	12.2	4.9
作 手 (n= 47)	21.3	19.1	14.9	36.2	2.1	6.4	-

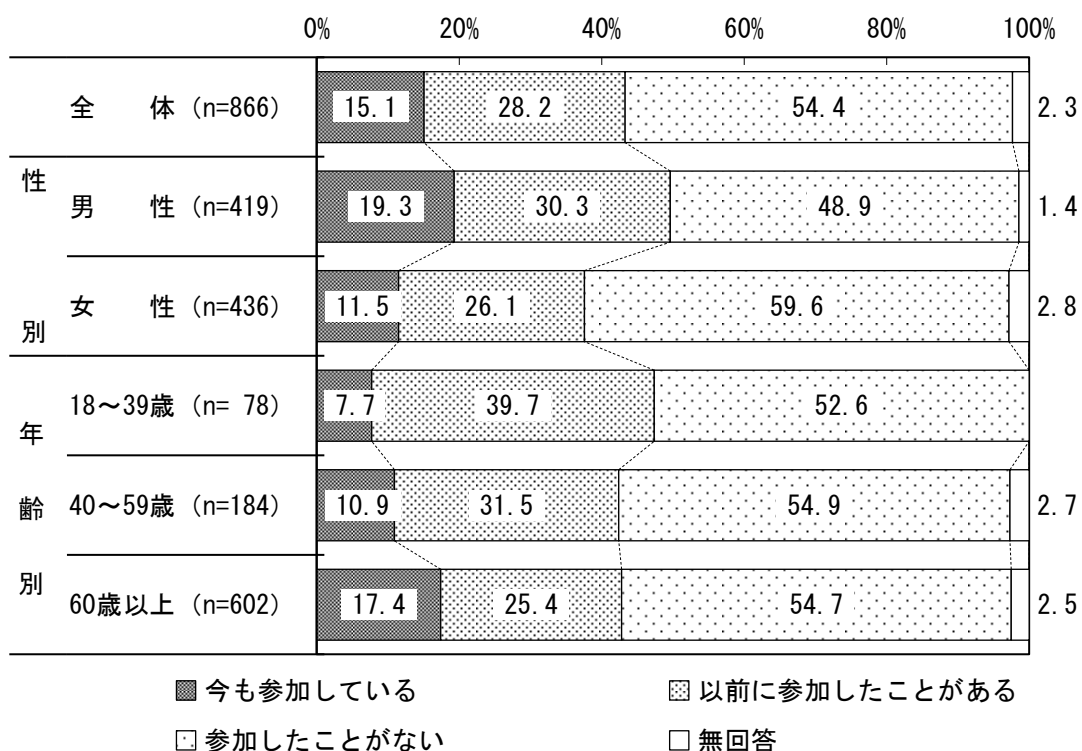
## 5 地域福祉活動の状況等

### (1) ボランティア活動への参加状況

ボランティア活動に参加したことがあるかたずねたところ、「今も参加している」(15.1%)と「以前に参加したことがある」(28.2%)を合わせた《参加したことがある》は43.3%となっています。一方、「参加したことがない」は54.4%となっています。

《参加したことがある》は、性別にみると、女性に比べて男性が12ポイント高く、年齢別にみると、18～39歳が比較的高くなっています。

図表 41 ボランティア活動への参加状況（性別、年齢別）



《参加したことがある》を地域別にみると、舟着地域や鳳来南部・北西部地域では5割を超えて比較的高くなっています。

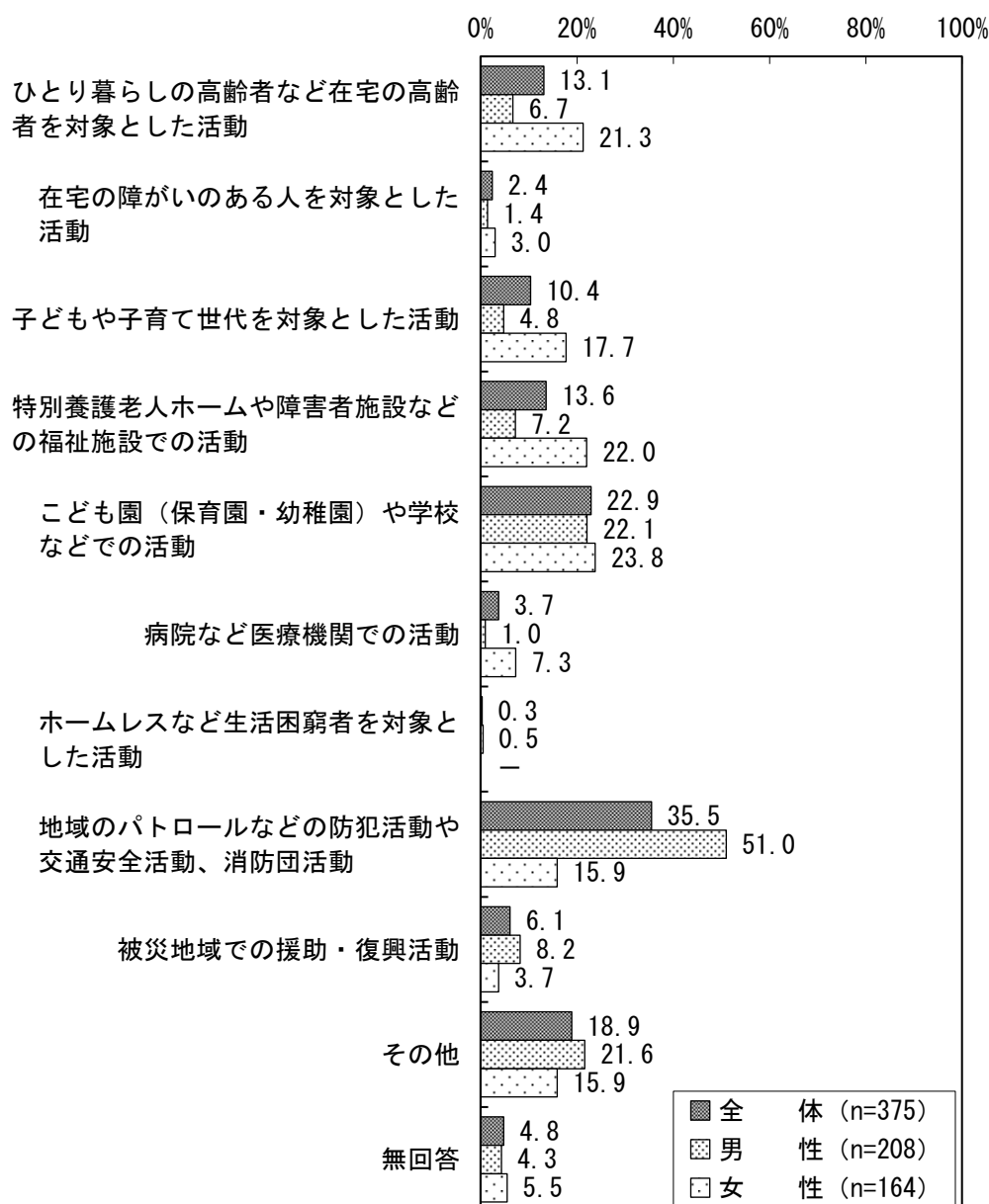
図表 42 ボランティア活動への参加状況（地域別）

区 分 (地 域)	今も参加している	以前に参加したことがある	参加したことがない	無回答
新 城 (n=165)	12.7	26.7	58.2	2.4
千 郷 (n=164)	11.6	30.5	54.9	3.0
東 郷 (n=132)	15.2	30.3	53.8	0.8
舟 着 (n= 32)	18.8	40.6	37.5	3.1
八 名 (n=102)	12.7	27.5	57.8	2.0
鳳来中部 (n= 75)	16.0	29.3	53.3	1.3
鳳来南部 (n= 21)	19.0	33.3	42.9	4.8
鳳来東部 (n= 79)	22.8	19.0	57.0	1.3
鳳来北西部 (n= 41)	19.5	31.7	41.5	7.3
作 手 (n= 47)	21.3	23.4	53.2	2.1

ボランティア活動に《参加したことがある》人に、どのような活動に参加したことがあるかたずねたところ、「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」が35.5%と最も高く、次いで、「こども園（保育園・幼稚園）や学校などでの活動」が22.9%となっています。

性別にみると、「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」は女性に比べて男性が、「ひとり暮らしの高齢者など在宅の高齢者を対象とした活動」と「特別養護老人ホームや障害者施設などの福祉施設での活動」、「子どもや子育て世代を対象とした活動」は男性に比べて女性が顕著に高くなっています。

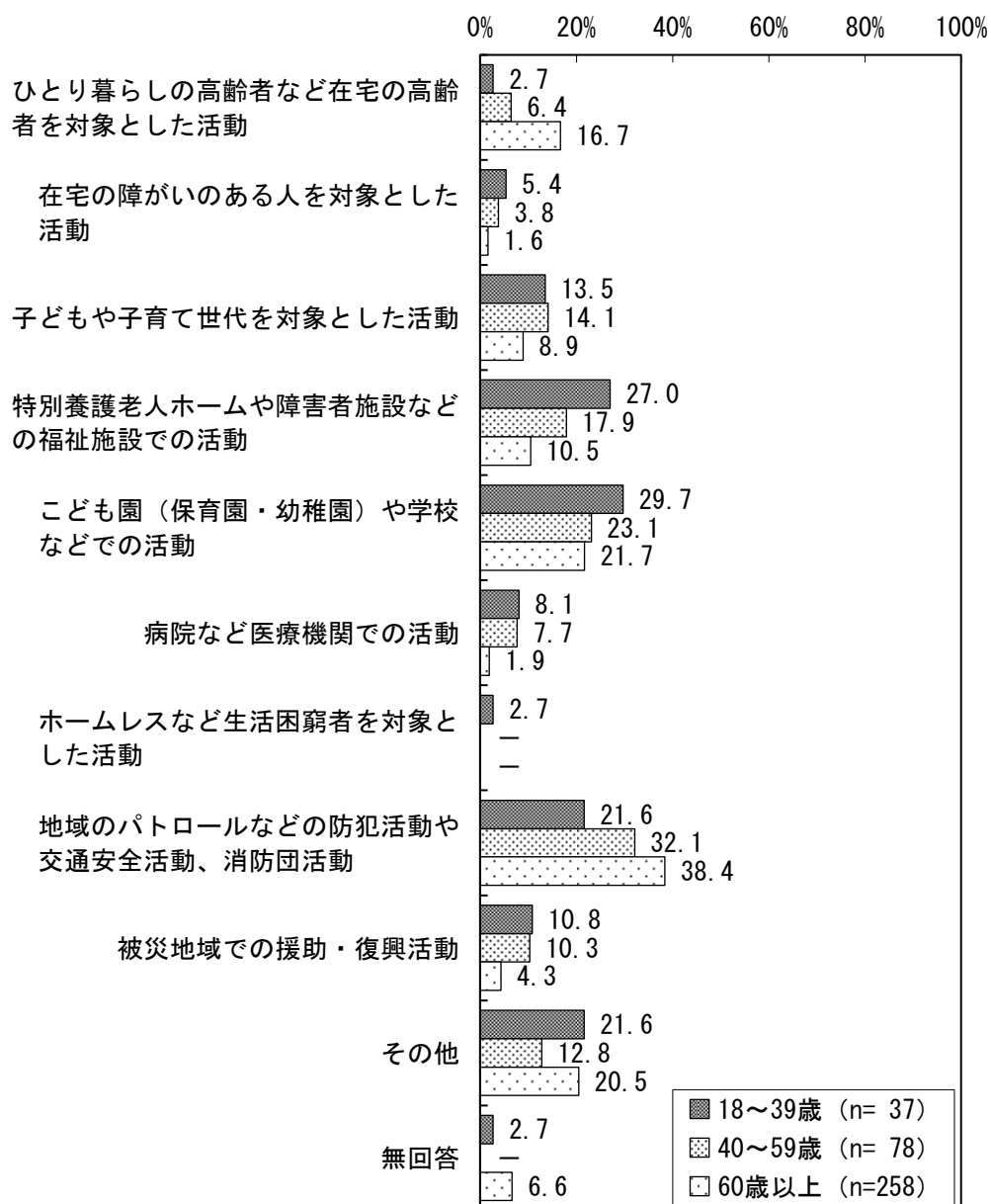
図表 43 参加したことがあるボランティア活動（性別、複数回答）



年齢別にみると、「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」と「ひとり暮らしの高齢者など在宅の高齢者を対象とした活動」は年齢が高いほど高く、「ひとり暮らしの高齢者など在宅の高齢者を対象とした活動」は60歳以上が比較的高くなっています。

一方、「こども園（保育園・幼稚園）や学校などでの活動」と「特別養護老人ホームや障害者施設などの福祉施設での活動」は、年齢が低いほど高くなっています。

図表 44 参加したことがあるボランティア活動（年齢別、複数回答）



地域別の状況は、次のとおりです。

図表 45 参加したことがあるボランティア活動（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	ひとり暮らしの高齢者など在宅の高齢者を対象とした活動	在宅の障がいのある人を対象とした活動	子どもや子育て世代を対象とした活動	特別養護老人ホームや障害者施設などの福祉施設での活動	こども園（保育園・幼稚園）や学校などの活動	病院など医療機関での活動	ホームレスなど生活困窮者を対象とした活動	交通安全活動、消防団活動	地域のパトロールなどの防犯活動や	被災地域での援助・復興活動	その他	無回答
新 城 (n=65)	10.8	4.6	15.4	12.3	10.8	6.2	-	38.5	4.6	23.1	6.2	
千 郷 (n=69)	10.1	1.4	7.2	20.3	24.6	4.3	-	44.9	4.3	10.1	5.8	
東 郷 (n=60)	13.3	1.7	10.0	11.7	20.0	1.7	-	38.3	5.0	20.0	5.0	
舟 着 (n=19)	5.3	-	10.5	10.5	21.1	5.3	-	42.1	5.3	26.3	-	
八 名 (n=41)	14.6	2.4	7.3	19.5	26.8	2.4	2.4	34.1	2.4	14.6	2.4	
鳳来中部 (n=34)	11.8	-	5.9	11.8	20.6	2.9	-	20.6	11.8	23.5	8.8	
鳳来南部 (n=11)	18.2	18.2	9.1	-	36.4	-	-	27.3	18.2	18.2	-	
鳳来東部 (n=33)	18.2	3.0	6.1	18.2	30.3	6.1	-	39.4	6.1	21.2	3.0	
鳳来北西部 (n=21)	14.3	-	4.8	9.5	38.1	4.8	-	33.3	14.3	19.0	4.8	
作 手 (n=21)	19.0	-	33.3	-	28.6	-	-	9.5	4.8	23.8	4.8	

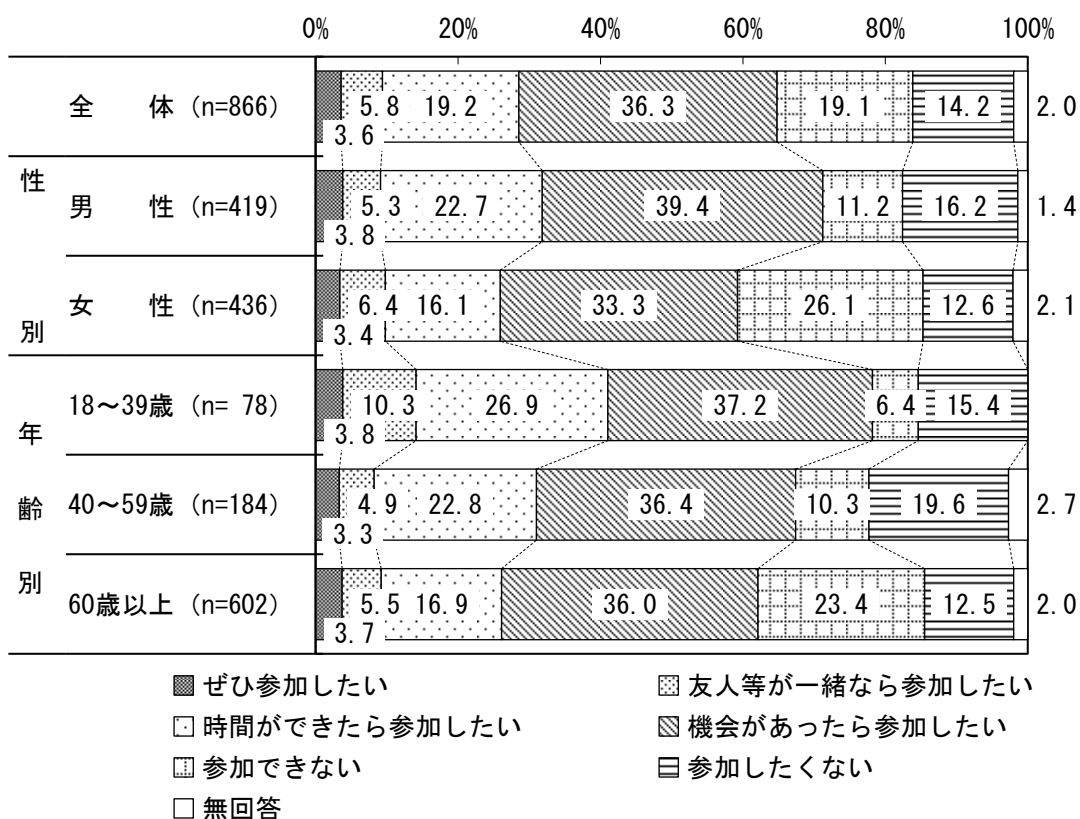
なお、「その他」として、「地域の美化活動」（22件）、「施設訪問」（2件）、「障がい者団体の外泊体験ボランティア」、「ハンセン病療養所での活動」、「異世代交流を目的とした活動」、「傾聴」、「シルバー」、「ヘルスマイト」、「地域のまちづくり」、「イベント、行事」、「新城ラリー」、「軽トラ市」、「観光ボランティア」、「スポーツ活動」、「防災訓練」、「資源回収」、「緑化運動」、「植林」、「更生保護活動」、「少年補導員」、「青少年育成指導員」、「保護猫活動」のほか、「新城市のものには参加しない」などの記載がありました。

## (2) ボランティア活動への参加意向

今後、ボランティア活動に参加したいと思うかたずねたところ、「機会があったら参加したい」が36.3%と最も高くなっています。これに「ぜひ参加したい」(3.6%)、「友人等と一緒に参加したい」(5.8%)、「時間ができたら参加したい」(19.2%)を合わせた《参加意向》は64.9%に及び、何らかの動機づけ、機会があれば、より多くの人がボランティア活動に参加する可能性があると言えますが、地域活動等への参加意向(44頁参照)より14ポイント程度低くなっています。なお、ボランティア活動に「参加したくない」は14.2%ですが、「参加できない」は、19.1%となっており、地域活動等への参加意向より13ポイント程度低くなっています。

《参加意向》は、性別にみると、女性に比べて男性が12ポイント高く、年齢別にみると、年齢が低いほど高くなっています。

図表 46 ボランティア活動への参加意向（性別、年齢別）



《参加意向》を地域別にみると、八名地域と鳳来南部地域では7割を超えて比較的高くなっています。

図表 47 ボランティア活動への参加意向（地域別）

区 分 (地 域)	ぜひ参加したい	友人等と一緒に参加したい	時間ができたら参加したい	機会があったら参加したい	参加できない	参加したくない	無回答
新 城 (n=165)	4.2	6.7	18.2	32.1	19.4	17.0	2.4
千 郷 (n=164)	1.2	6.1	17.7	43.3	18.9	11.6	1.2
東 郷 (n=132)	4.5	6.8	17.4	37.1	15.2	16.7	2.3
舟 着 (n= 32)	6.3	3.1	15.6	28.1	34.4	12.5	-
八 名 (n=102)	2.0	3.9	30.4	35.3	15.7	11.8	1.0
鳳来中部 (n= 75)	1.3	9.3	16.0	34.7	21.3	16.0	1.3
鳳来南部 (n= 21)	4.8	-	23.8	52.4	9.5	4.8	4.8
鳳来東部 (n= 79)	3.8	2.5	19.0	41.8	17.7	13.9	1.3
鳳来北西部 (n= 41)	12.2	4.9	22.0	26.8	19.5	7.3	7.3
作 手 (n= 47)	4.3	8.5	12.8	25.5	25.5	21.3	2.1

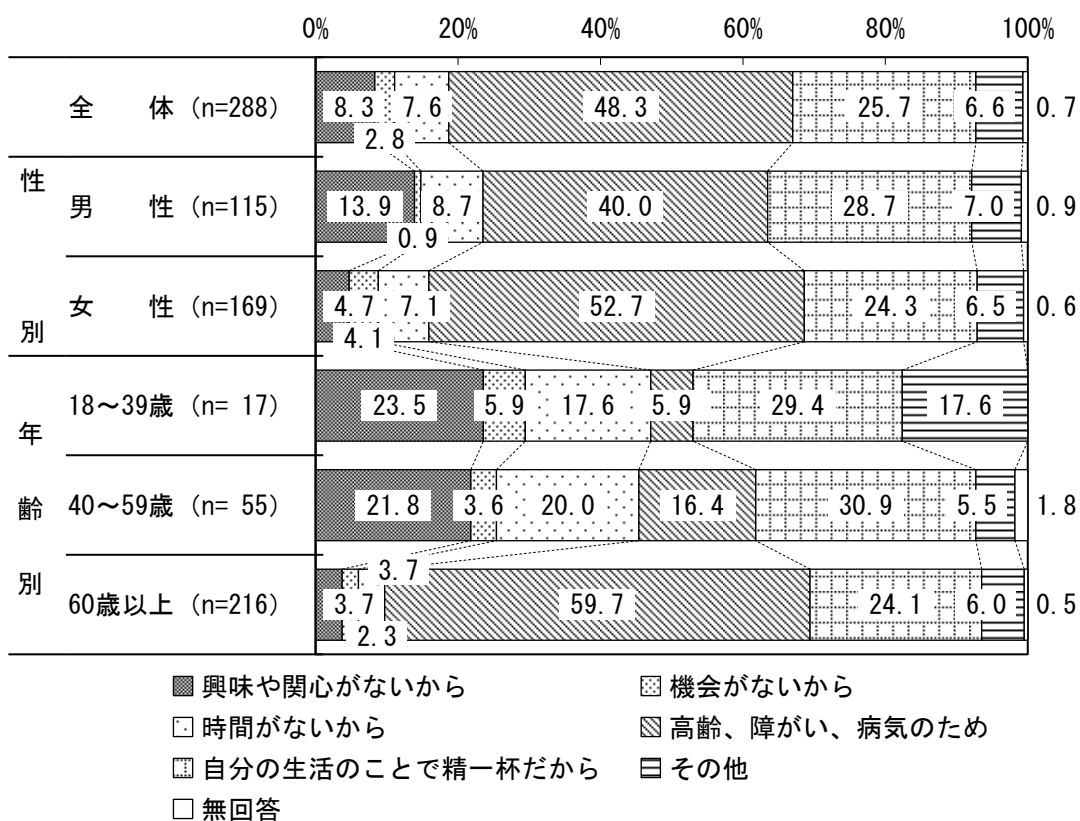


「参加できない」または「参加したくない」と答えた人に、その理由をたずねたところ、「高齢、障がい、病気のため」が48.3%と最も高く、次いで、「自分の生活のことで精一杯だから」が25.7%などとなっています。

性別にみると、「高齢、障がい、病気のため」は男性に比べて女性が13ポイント程度高い一方、「興味や関心がないから」は女性に比べて男性が9ポイント程度高くなっています。

年齢別にみると、60歳以上は「高齢、障がい、病気のため」が6割程度を占めるなど、ほかの年齢層と状況が大きく異なっています。

図表 48 ボランティア活動への不参加意向の理由（性別、年齢別）



地域別の状況は、次のとおりです。

図表 49 ボランティア活動への不参加意向の理由（地域別）

区 分 (地 域)	興味や関心がないから	機会がないから	時間がないから	高齢、障がい、病気のため	自分の生活のことで精一杯だから	その他	無回答
新 城 (n=60)	10.0	5.0	10.0	40.0	25.0	8.3	1.7
千 郷 (n=50)	12.0	2.0	10.0	58.0	12.0	6.0	-
東 郷 (n=42)	9.5	2.4	9.5	42.9	28.6	7.1	-
舟 着 (n=15)	-	-	6.7	60.0	20.0	13.3	-
八 名 (n=28)	-	-	3.6	50.0	42.9	3.6	-
鳳来中部 (n=28)	14.3	7.1	7.1	57.1	7.1	7.1	-
鳳来南部 (n= 3)	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-
鳳来東部 (n=25)	8.0	4.0	4.0	52.0	28.0	4.0	-
鳳来北西部 (n=11)	-	-	-	45.5	45.5	9.1	-
作 手 (n=22)	4.5	-	9.1	36.4	40.9	4.5	4.5

なお、「その他」として、「親の介護のため」（3件）、「体力がない」（3件）、「土日が仕事のため」（2件）、「家族に障がいがあるため」、「まずは家族優先」、「人と関わる勇気がない」、「人間関係でストレスを負いたくないから」のほか、「知り合いが困っていたら助けたいと思うがすべての人を助ける余裕がない」、「ボランティア活動の内容による」、「特に理由はない」などの記載がありました。

---

### (3) 地域福祉活動で必要なこととできること

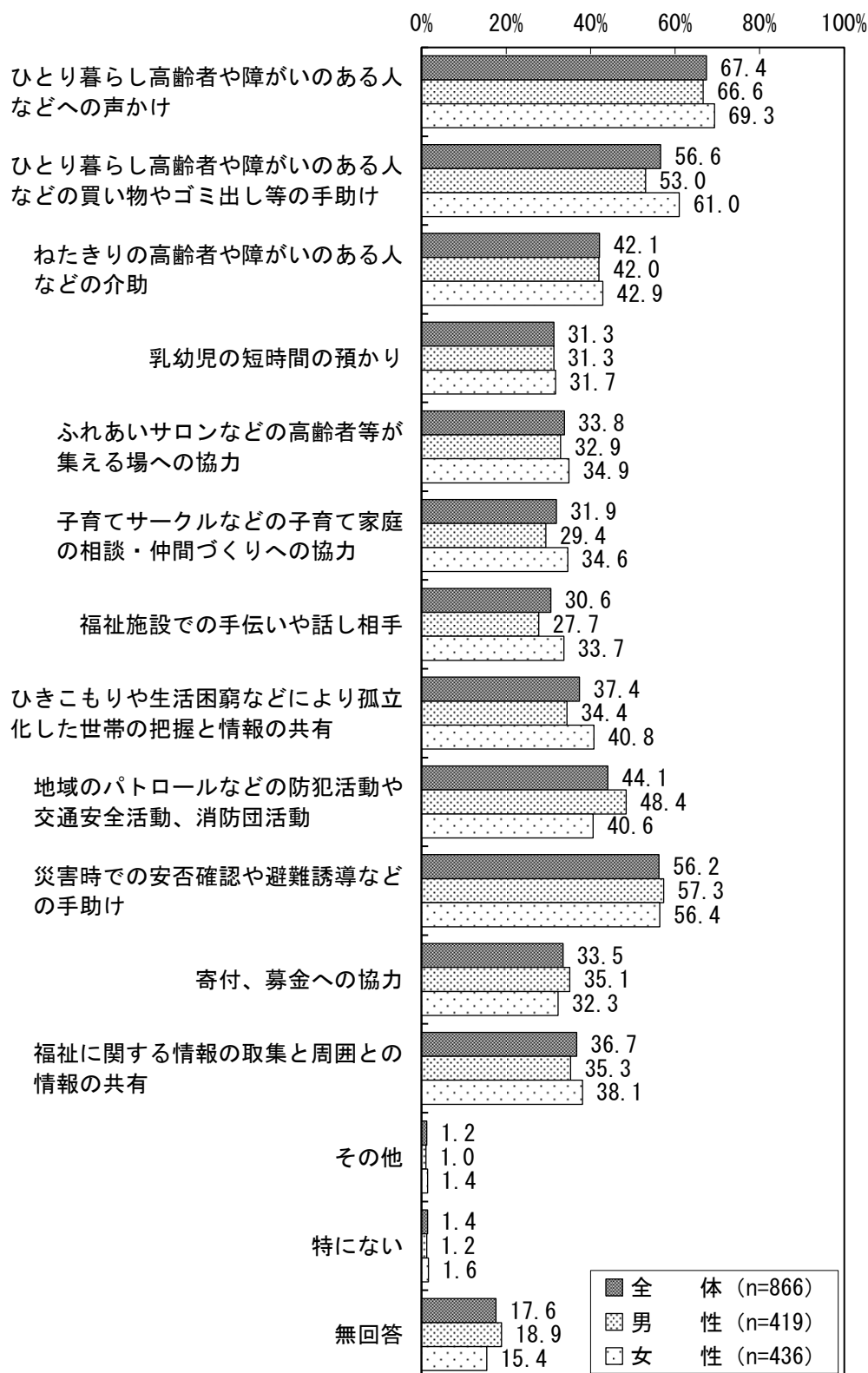
これからの福祉は住民やボランティアの参加や協力がより必要になるといわれていることから、地域みんなが安心して暮らしていくために、どのような福祉活動が必要だと考えるかたずねたところ、「ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などへの声かけ」が 67.4%と最も高く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などの買い物やゴミ出し等の手助け」が 56.6%、「災害時での安否確認や避難誘導などの手助け」が 56.2%、「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」が 44.1%、「ねたきりの高齢者や障がいのある人などの介助」が 42.1%などとなっています。

性別にみても、大きな差異はみられません。(図表 50)

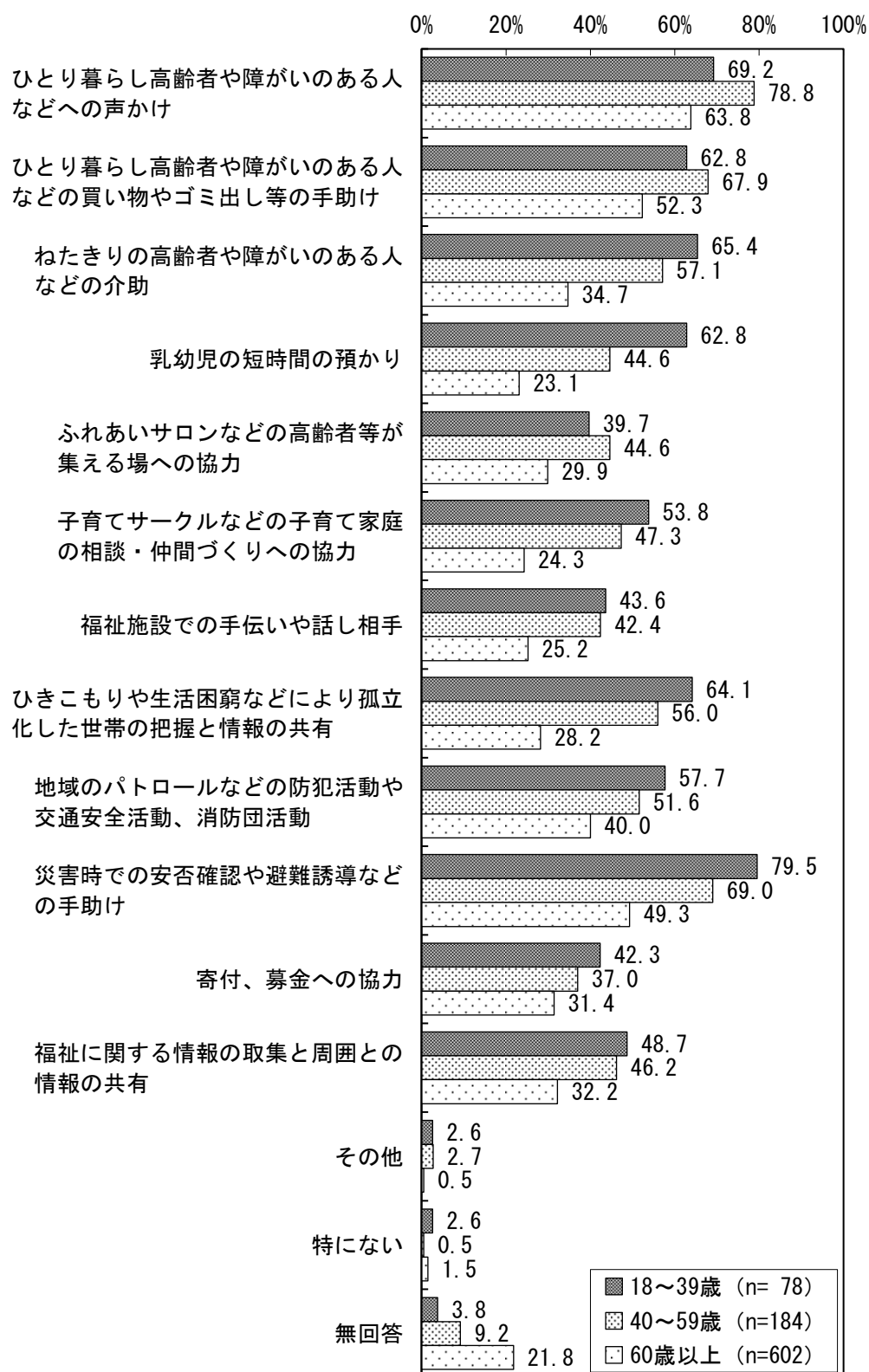
年齢別にみると、18～39 歳では「災害時での安否確認や避難誘導などの手助け」が 79.5%と最も高いほか、多くの選択項目においてほかの年齢層に比べて高くなっています。中でも、「乳幼児の短時間の預かり」は顕著に高くなっています。(図表 51)

地域別にみると、いずれの地域も概ね全体と同様の傾向がみられます。(図表 52)

図表 50 地域福祉活動で必要なこと（性別、複数回答）



図表 51 地域福祉活動で必要なこと（年齢別、複数回答）



図表 52-1 地域福祉活動で必要なこと（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	ひとり暮らし高齢者や障がいのある人 などへの声かけ	ひとり暮らし高齢者や障がいのある人 などの買い物やゴミ出し等の手助け	ねたきりの高齢者や障がいのある人 などの介助	乳幼児の短時間の預かり	ふれあいサロンなど的高齢者等が 集える場への協力	子育てサークルなどの子育て家庭の 相談・仲間づくりへの協力	福祉施設での手伝いや話し相手	ひきこもりや生活困窮などにより 孤立化した世帯の把握と情報の共有
新 城 (n=165)	61.8	49.1	45.5	30.9	35.8	32.1	34.5	34.5
千 郷 (n=164)	68.3	56.7	42.7	28.7	33.5	34.8	31.7	39.6
東 郷 (n=132)	67.4	56.1	46.2	43.9	40.9	42.4	32.6	43.2
舟 着 (n= 32)	62.5	53.1	28.1	12.5	28.1	21.9	15.6	21.9
八 名 (n=102)	62.7	52.9	27.5	22.5	23.5	22.5	21.6	31.4
鳳来中部 (n= 75)	65.3	57.3	45.3	32.0	28.0	28.0	25.3	41.3
鳳来南部 (n= 21)	85.7	61.9	38.1	33.3	47.6	19.0	28.6	28.6
鳳来東部 (n= 79)	75.9	68.4	44.3	34.2	39.2	31.6	36.7	39.2
鳳来北西部 (n= 41)	73.2	65.9	51.2	36.6	26.8	31.7	34.1	43.9
作 手 (n= 47)	74.5	66.0	42.6	27.7	34.0	31.9	31.9	36.2

図表 52-2 地域福祉活動で必要なこと（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	地域のパトロールなどの防犯活動や 交通安全活動、消防団活動	災害時での安否確認や避難誘導などの 手助け	寄付、募金への協力	福祉に関する情報の収集と周囲との 情報の共有	その他	特にない	無回答
新 城 (n=165)	41.2	49.1	31.5	33.3	2.4	0.6	21.8
千 郷 (n=164)	46.3	56.1	36.0	36.0	1.8	-	17.7
東 郷 (n=132)	46.2	58.3	40.2	38.6	-	0.8	15.9
舟 着 (n= 32)	43.8	43.8	31.3	31.3	3.1	3.1	15.6
八 名 (n=102)	30.4	51.0	28.4	32.4	-	2.9	19.6
鳳来中部 (n= 75)	53.3	61.3	32.0	38.7	-	4.0	14.7
鳳来南部 (n= 21)	52.4	57.1	38.1	42.9	-	-	14.3
鳳来東部 (n= 79)	51.9	68.4	36.7	46.8	1.3	2.5	10.1
鳳来北西部 (n= 41)	46.3	61.0	31.7	41.5	2.4	-	19.5
作 手 (n= 47)	38.3	63.8	27.7	34.0	-	-	19.1

なお、「その他」として、「ダブルケアの支援」、「病院や買い物、有料送迎」、「身体・精神障がいのある人のデイサービス」、「日本に暮らす母語話者への助け」のほか、「介護や話し相手、介助などに必要なスキル取得の機会」、「出産、育児、教育の無償化」、「空き家の補助金強化」、「A I を活用したまちづくり」、「今の活動でよい」などの記載がありました。

---

---

一方で、どのような福祉活動ができるかたずねたところ、「無回答」を除き、「寄付、募金への協力」が31.5%と最も高く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などへの声かけ」が31.3%、「災害時での安否確認や避難誘導などの手助け」が23.7%、「ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などの買い物やゴミ出し等の手助け」が21.2%、「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」が15.2%などとなっています。

このうち、「寄付、募金への協力」以外は、地域福祉活動で必要なこと（55・56頁参照）においても上位項目となっていますが、地域福祉活動で必要なことより25ポイント以上低くなっています。

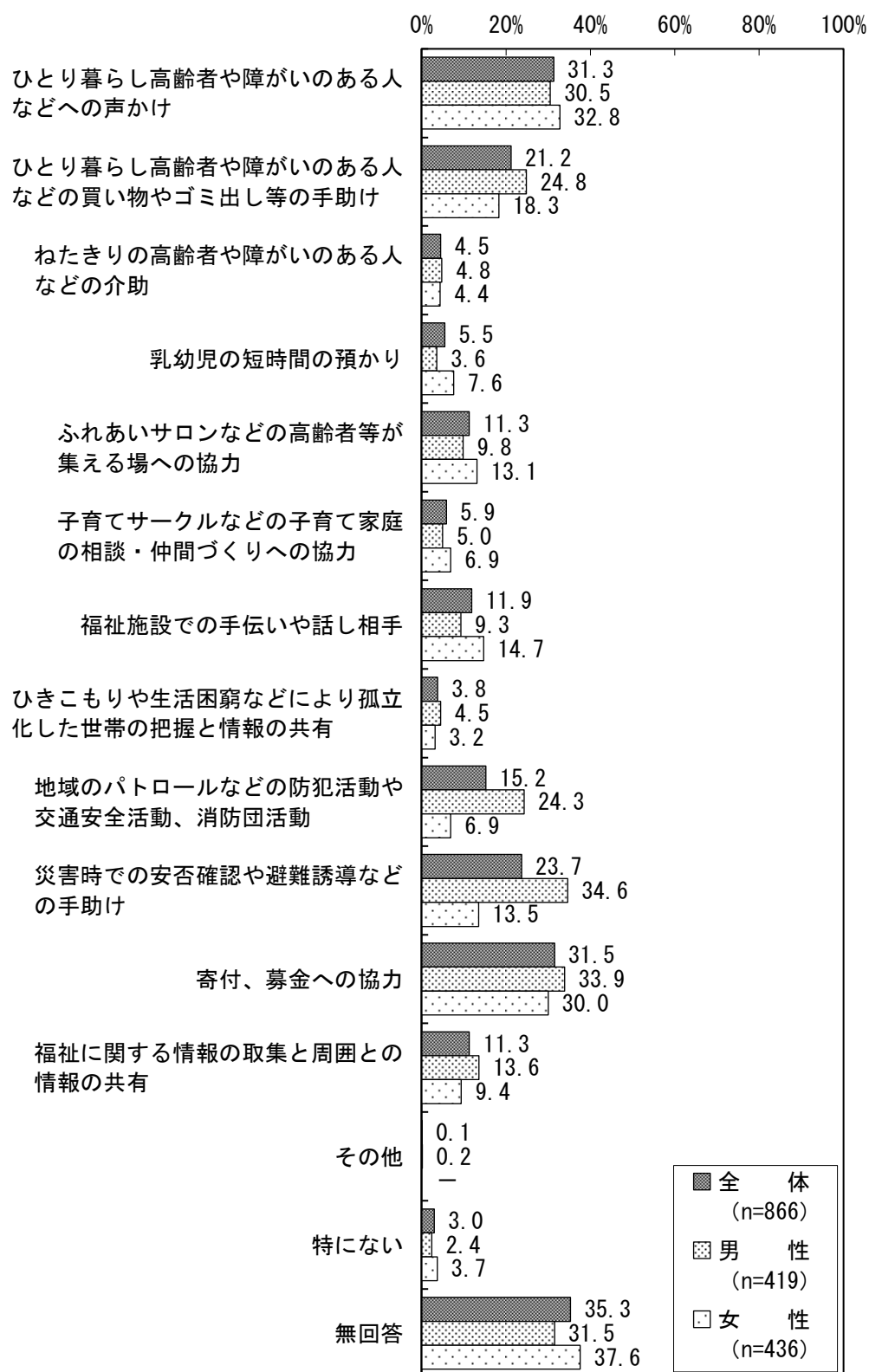
性別にみると、「災害時での安否確認や避難誘導などの手助け」と「地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動」は、女性に比べて男性が顕著に高くなっています。（図表53）

年齢別にみても、大きな差異はみられません。（図表54）

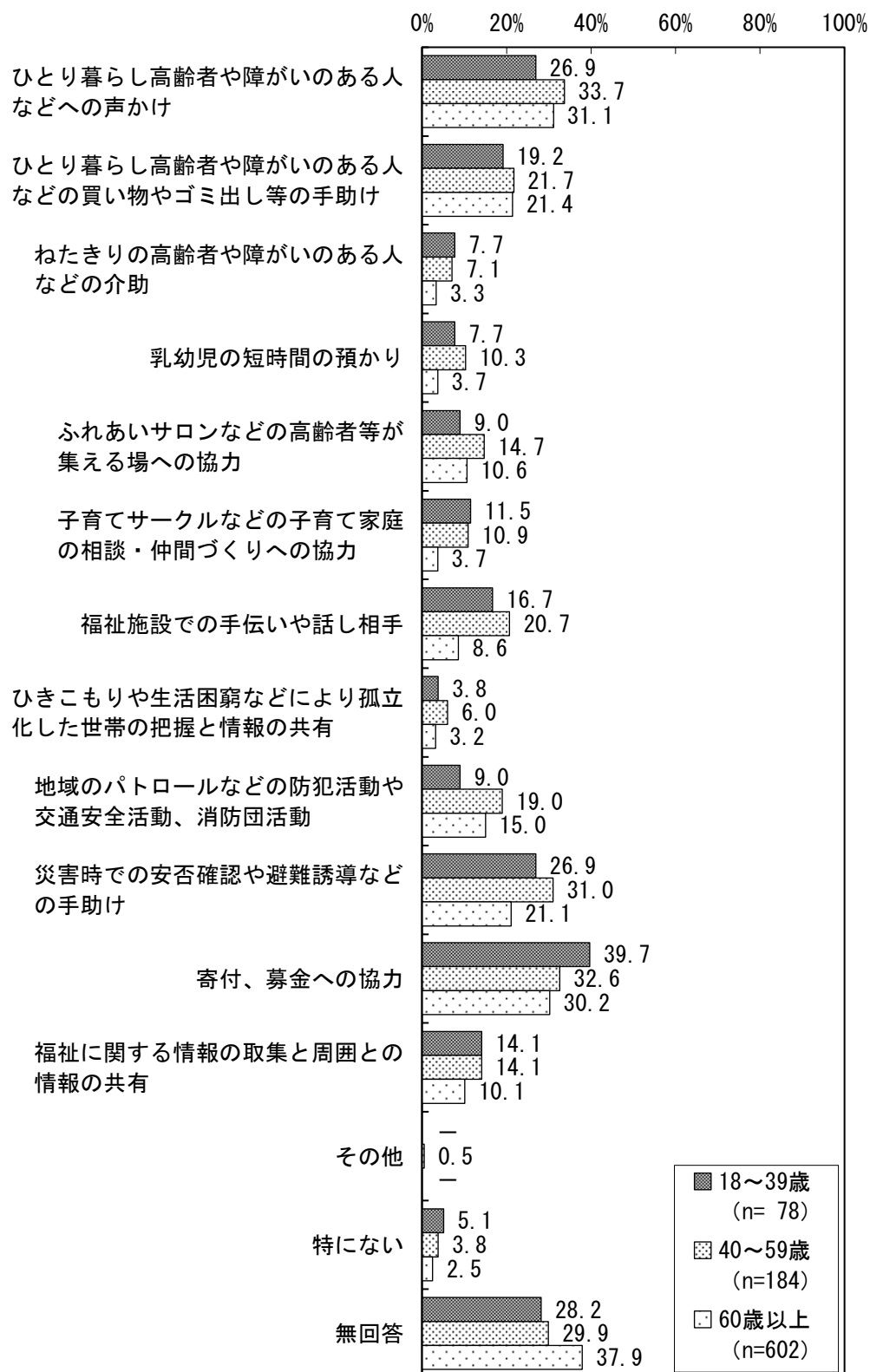
地域別にみると、新城地域や八名地域、鳳来中部地域などの6地域では、全体の傾向とは異なり、「ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などへの声かけ」が最も高くなっています。（図表55）



図表 53 地域福祉活動でできること（性別、複数回答）



図表 54 地域福祉活動でできること（年齢別、複数回答）



図表 55-1 地域福祉活動でできること（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	ひとり暮らし高齢者や障がいのある人 などへの声かけ	ひとり暮らし高齢者や障がいのある人 などの買い物やゴミ出し等の手助け	ねたきりの高齢者や障がいのある人 などの介助	乳幼児の短時間の預かり	ふれあいサロンなど的高齢者等が 集える場への協力	子育てサークルなどの子育て家庭の 相談・仲間づくりへの協力	福祉施設での手伝いや話し相手	ひきこもりや生活困窮などにより 孤立化した世帯の把握と情報の共有
新 城 (n=165)	30.3	23.0	6.7	7.9	12.1	6.7	14.5	6.1
千 郷 (n=164)	30.5	17.7	1.8	5.5	6.7	4.9	12.8	4.3
東 郷 (n=132)	26.5	20.5	2.3	5.3	13.6	7.6	9.8	2.3
舟 着 (n= 32)	21.9	9.4	3.1	3.1	6.3	-	6.3	-
八 名 (n=102)	27.5	16.7	2.9	4.9	16.7	6.9	10.8	3.9
鳳来中部 (n= 75)	34.7	21.3	5.3	5.3	10.7	2.7	8.0	2.7
鳳来南部 (n= 21)	33.3	23.8	4.8	-	4.8	-	4.8	-
鳳来東部 (n= 79)	36.7	24.1	8.9	7.6	15.2	8.9	21.5	3.8
鳳来北西部 (n= 41)	36.6	36.6	12.2	4.9	9.8	7.3	4.9	9.8
作 手 (n= 47)	48.9	31.9	2.1	2.1	10.6	6.4	12.8	-

図表 55-2 地域福祉活動でできること（地域別、複数回答）

区 分 (地 域)	交通安全活動、消防団活動 地域のパトロールなどの防犯活動や	手助け 災害時での安否確認や避難誘導などの	寄付、募金への協力	福祉に関する情報の収集と周囲との 情報の共有	その他	特にない	無回答
新 城 (n=165)	17.0	24.8	26.1	10.3	0.6	2.4	37.6
千 郷 (n=164)	15.2	23.8	34.1	13.4	-	3.7	28.7
東 郷 (n=132)	14.4	19.7	41.7	10.6	-	1.5	37.9
舟 着 (n= 32)	12.5	15.6	37.5	9.4	-	3.1	43.8
八 名 (n=102)	13.7	23.5	27.5	11.8	-	3.9	40.2
鳳来中部 (n= 75)	10.7	22.7	25.3	4.0	-	2.7	37.3
鳳来南部 (n= 21)	14.3	33.3	23.8	14.3	-	9.5	33.3
鳳来東部 (n= 79)	21.5	29.1	27.8	15.2	-	5.1	26.6
鳳来北西部 (n= 41)	26.8	36.6	43.9	19.5	-	2.4	31.7
作 手 (n= 47)	6.4	17.0	29.8	8.5	-	-	36.2

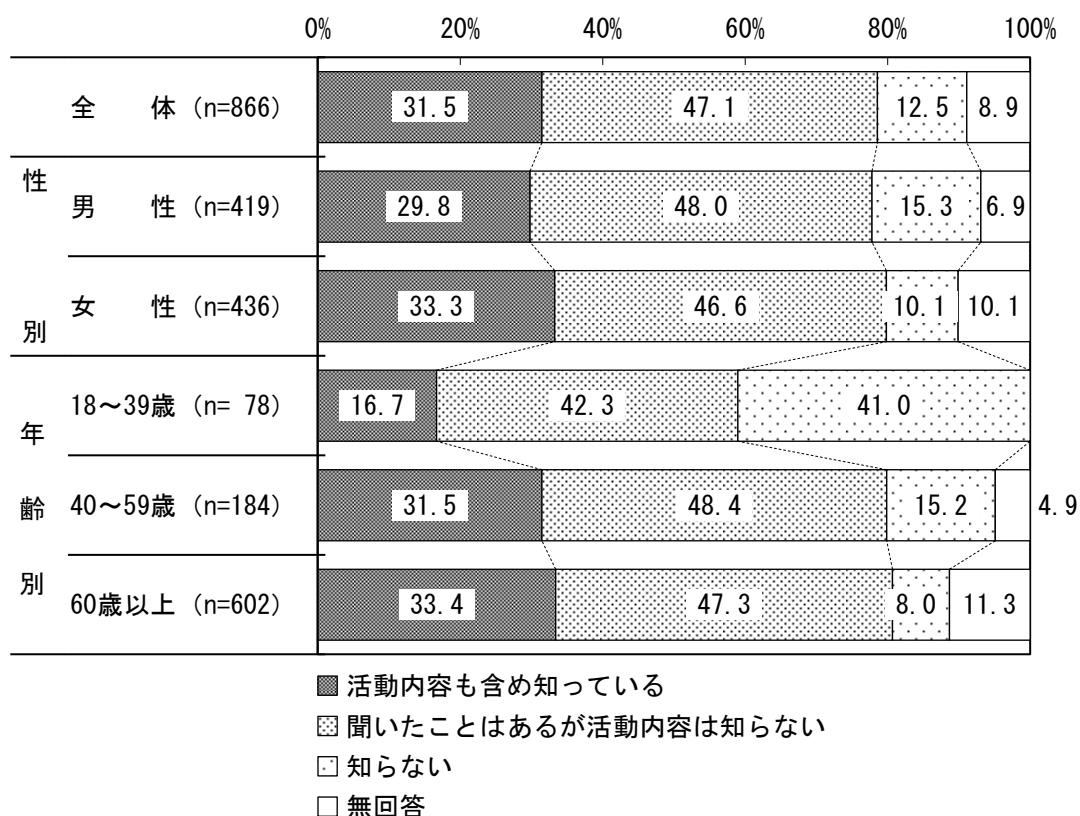
なお、「その他」として、「日本に暮らす母語話者への助け」という記載がありました。

(4) 地域福祉の支援者に対する認知度

地域福祉を推進する中核的な団体として、地域住民や福祉団体・関係者との協働により、地域生活課題の解決に取り組む「社会福祉協議会」について知っているかたずねたところ、「活動内容も含め知っている」が31.5%、「聞いたことはあるが活動内容は知らない」が47.1%と、《名称の認知度》としては78.6%となっており、「知らない」は12.5%となっています。

《認知度》（「活動内容も含め知っている」）は、性別にみても、大きな差異はみられませんが、年齢別にみると、18～39歳が顕著に低くなっています。

図表 56 「社会福祉協議会」の認知度（性別、年齢別）



《認知度》（「活動内容も含め知っている」）を地域別にみると、舟着地域と作手地域では4割を超えて比較的高くなっています。

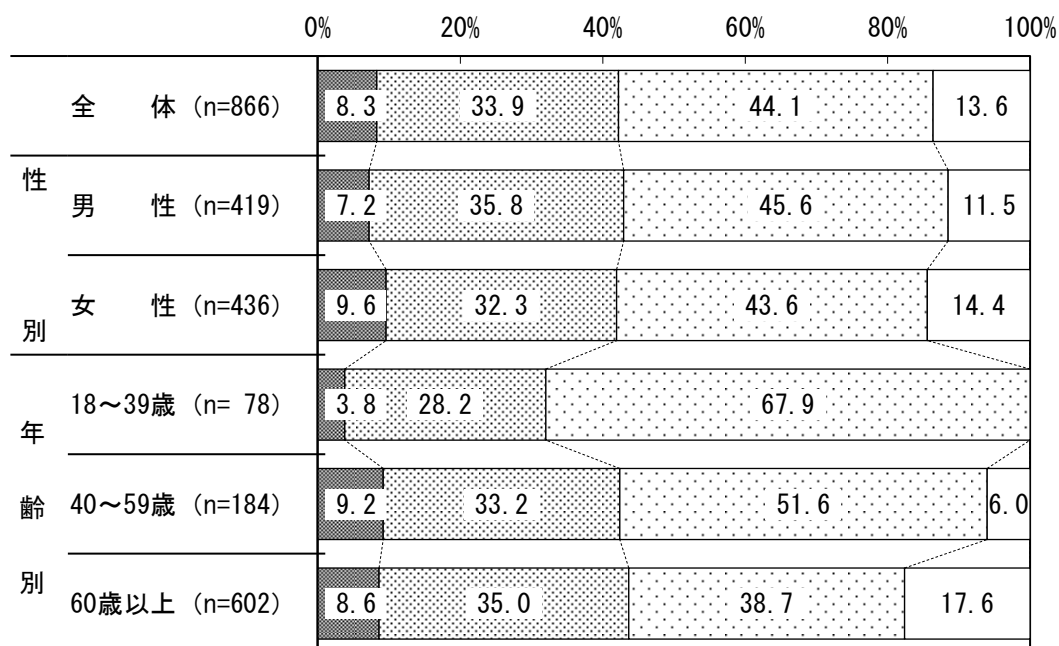
図表 57 「社会福祉協議会」の認知度（地域別）

区 分 (地 域)	活動内容も含め知っている	聞いたことはあるが 活動内容は知らない	知らない	無回答
新 城 (n=165)	27.3	43.0	19.4	10.3
千 郷 (n=164)	28.0	45.7	14.0	12.2
東 郷 (n=132)	34.1	48.5	9.8	7.6
舟 着 (n= 32)	46.9	40.6	6.3	6.3
八 名 (n=102)	29.4	47.1	17.6	5.9
鳳来中部 (n= 75)	30.7	53.3	8.0	8.0
鳳来南部 (n= 21)	14.3	66.7	4.8	14.3
鳳来東部 (n= 79)	38.0	49.4	10.1	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	29.3	56.1	2.4	12.2
作 手 (n= 47)	48.9	38.3	4.3	8.5

地域住民のボランティア活動への理解を深め、参加を促進するための拠点で、社会福祉協議会に設置されている「ボランティアセンター」について知っているかたずねたところ、「活動内容も含め知っている」は8.3%と低く、「聞いたことはあるが活動内容は知らない」が33.9%と、「知らない」が33.9%と、「名称の認知度」としては42.2%となっており、「知らない」は、これを上回る44.1%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、18～39歳が比較的低くなっています。

図表 58 「ボランティアセンター」の認知度（性別、年齢別）



- 活動内容も含め知っている
- ▨ 聞いたことはあるが活動内容は知らない
- 知らない
- 無回答

《名称の認知度》を地域別にみると、鳳来東部地域では5割を超えて比較的高くなっています。

図表 59 「ボランティアセンター」の認知度（地域別）

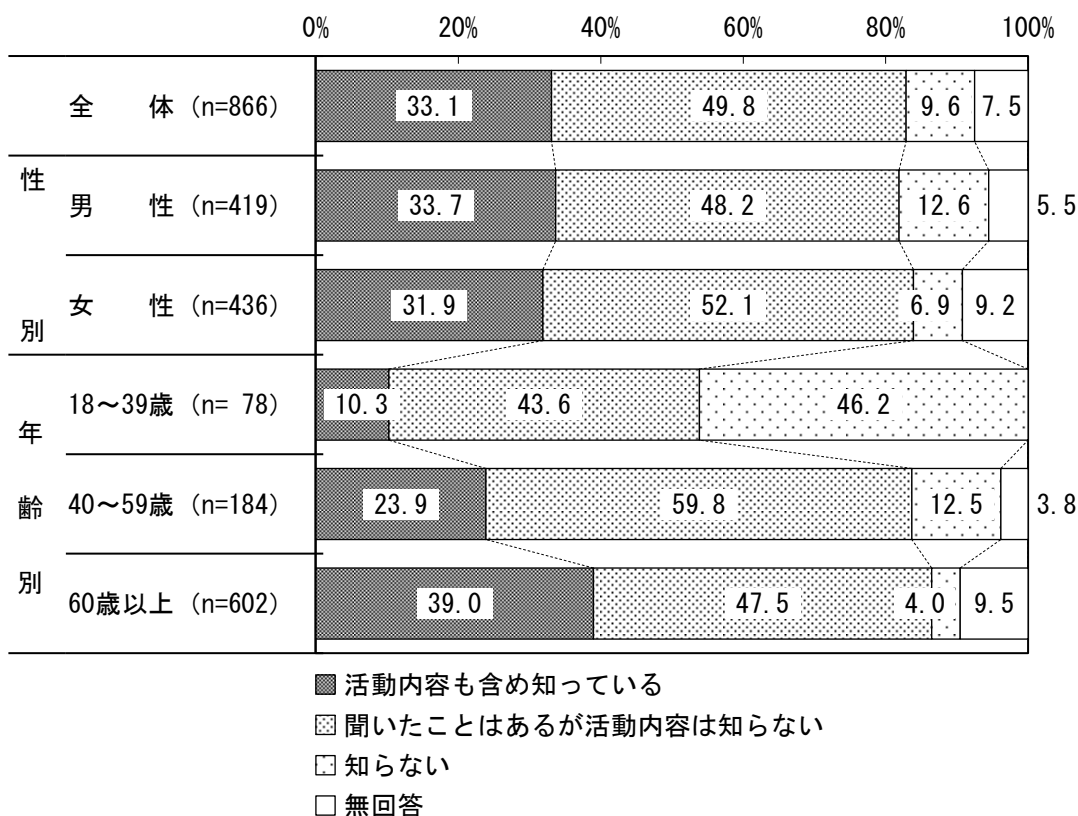
区 分 (地 域)	活動内容も含め知っている	聞いたことはあるが 活動内容は知らない	知らない	無回答
新 城 (n=165)	7.9	33.3	43.6	15.2
千 郷 (n=164)	9.8	31.7	42.1	16.5
東 郷 (n=132)	9.1	30.3	49.2	11.4
舟 着 (n= 32)	6.3	40.6	34.4	18.8
八 名 (n=102)	8.8	30.4	52.9	7.8
鳳来中部 (n= 75)	5.3	38.7	45.3	10.7
鳳来南部 (n= 21)	-	42.9	38.1	19.0
鳳来東部 (n= 79)	7.6	45.6	35.4	11.4
鳳来北西部 (n= 41)	7.3	26.8	48.8	17.1
作 手 (n= 47)	12.8	36.2	36.2	14.9



厚生労働大臣から委嘱され、地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行う「民生委員・児童委員」について知っているかたずねたところ、「活動内容も含め知っている」が33.1%、「聞いたことはあるが活動内容は知らない」が49.8%と、《名称の認知度》としては82.9%となっており、「知らない」は9.6%にとどまっています。

《認知度》（「活動内容も含め知っている」）は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が低いほど低くなっています。

図表 60 「民生委員・児童委員」の認知度（性別、年齢別）



《認知度》（「活動内容も含め知っている」）を地域別にみると、舟着地域や鳳来北西部地域、作手地域では4割を超えて比較的高くなっています。

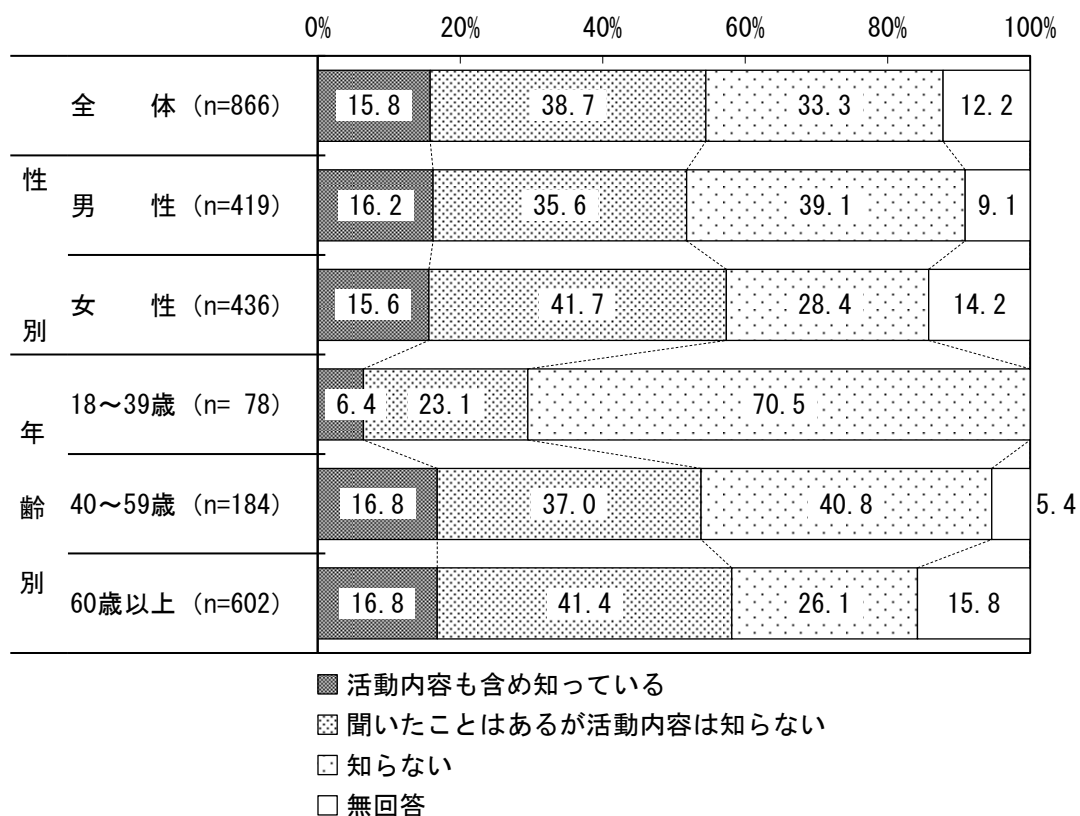
図表 61 「民生委員・児童委員」の認知度（地域別）

区 分 (地 域)	活動内容も含め知っている	聞いたことはあるが 活動内容は知らない	知らない	無回答
新 城 (n=165)	29.1	41.8	18.8	10.3
千 郷 (n=164)	31.1	51.8	10.4	6.7
東 郷 (n=132)	36.4	49.2	7.6	6.8
舟 着 (n= 32)	40.6	40.6	9.4	9.4
八 名 (n=102)	29.4	55.9	8.8	5.9
鳳来中部 (n= 75)	30.7	60.0	5.3	4.0
鳳来南部 (n= 21)	28.6	47.6	4.8	19.0
鳳来東部 (n= 79)	36.7	53.2	6.3	3.8
鳳来北西部 (n= 41)	41.5	51.2	-	7.3
作 手 (n= 47)	44.7	42.6	4.3	8.5

法務大臣から委嘱され、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアである「保護司」について知っているかたずねたところ、「活動内容も含め知っている」は15.8%、「聞いたことはあるが活動内容は知らない」が38.7%と、《名称の認知度》としては54.5%となっており、「知らない」は33.3%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみると、女性に比べて男性が5ポイント程度低く、年齢別にみると、18～39歳が顕著に低くなっています。

図表 62 「保護司」の認知度（性別、年齢別）



《名称の認知度》を地域別にみると、舟着地域や鳳来東部地域、作手地域では6割を超えて比較的高い一方、新城地域や鳳来中部・北西部地域では5割を下回って比較的低くなっています。

図表 63 「保護司」の認知度（地域別）

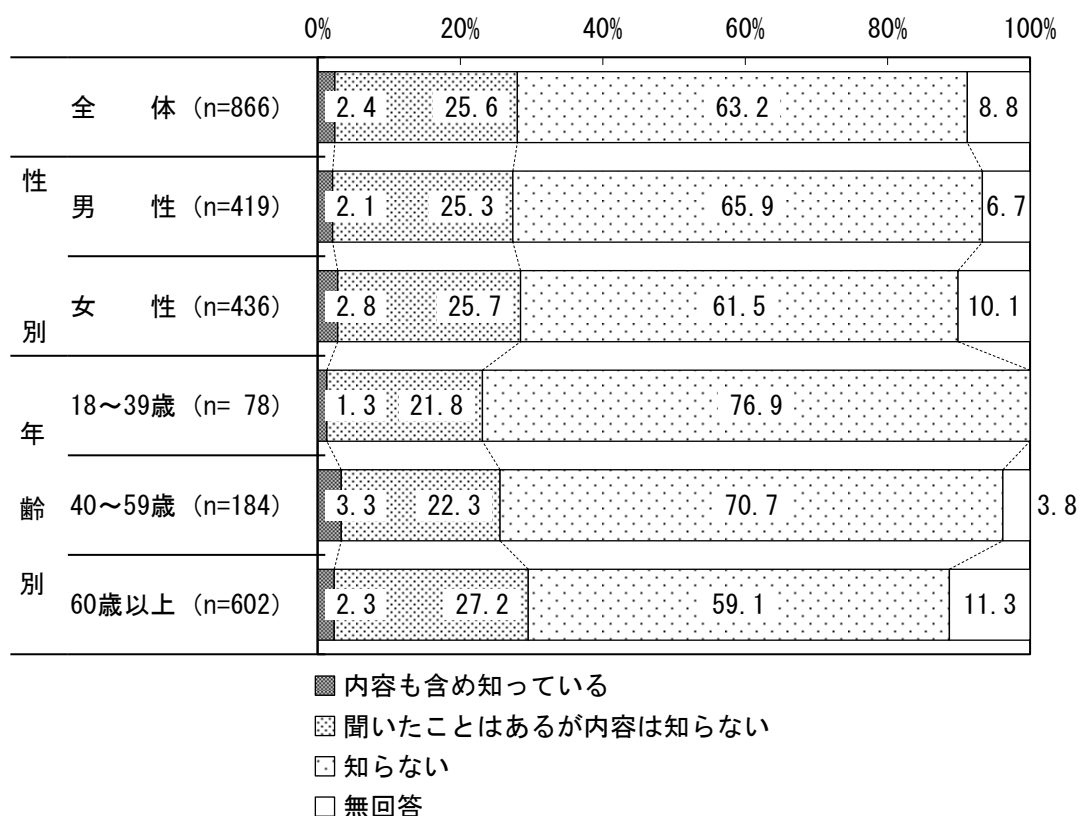
区 分 (地 域)	活動内容も含め知っている	聞いたことはあるが 活動内容は知らない	知らない	無回答
新 城 (n=165)	17.0	31.5	36.4	15.2
千 郷 (n=164)	13.4	43.9	27.4	15.2
東 郷 (n=132)	17.4	38.6	34.1	9.8
舟 着 (n= 32)	34.4	34.4	18.8	12.5
八 名 (n=102)	15.7	43.1	33.3	7.8
鳳来中部 (n= 75)	8.0	34.7	48.0	9.3
鳳来南部 (n= 21)	14.3	42.9	23.8	19.0
鳳来東部 (n= 79)	12.7	49.4	30.4	7.6
鳳来北西部 (n= 41)	17.1	29.3	39.0	14.6
作 手 (n= 47)	23.4	38.3	25.5	12.8

(5) 地域福祉の制度等に対する認知度

性別や国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う地域社会のことを表す「地域共生社会」について知っているかたずねたところ、「内容も含め知っている」は 2.4%と非常に低く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 25.6%と、《名称の認知度》としては 28.0%となっており、「知らない」は、これを大きく上回る 63.2%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が低いほどやや低くなっています。

図表 64 「地域共生社会」の認知度（性別、年齢別）



《名称の認知度》を地域別にみると、東郷地域や舟着地域、作手地域では4割を超えて比較的高くなっています。

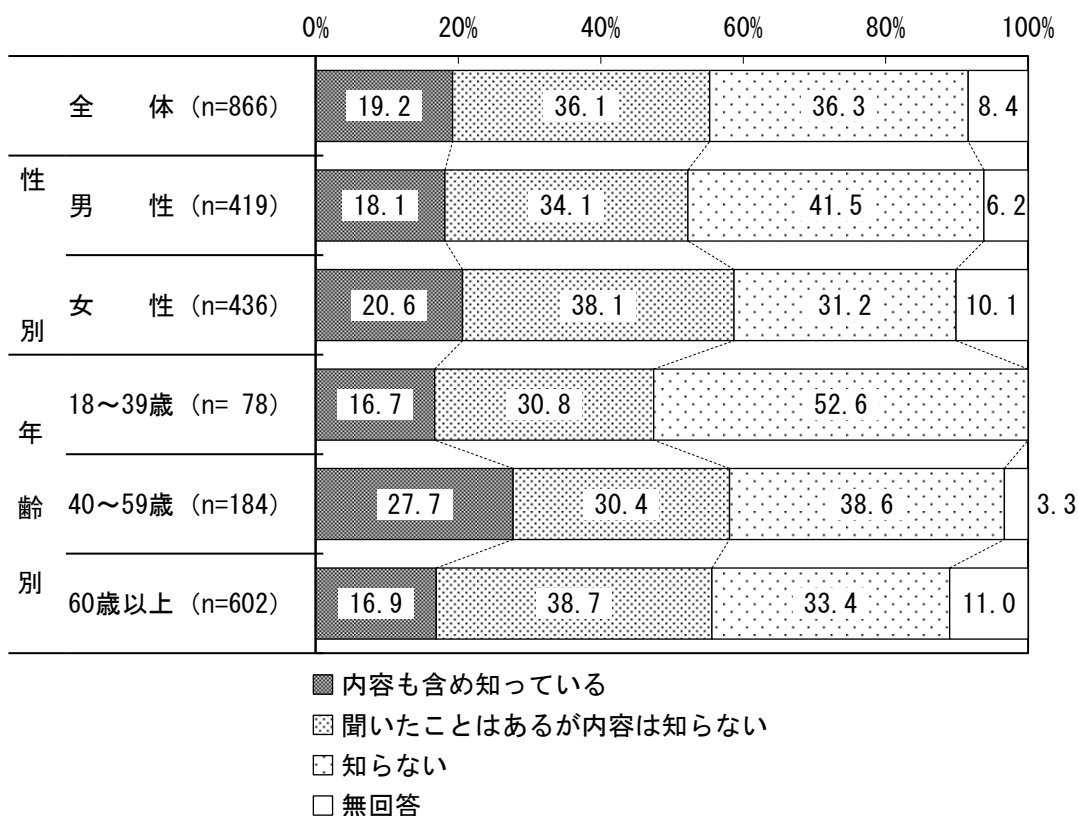
図表 65 「地域共生社会」の認知度（地域別）

区 分 (地 域)	内 容 も 含 め 知 っ て い る	内 容 は 知 ら な い 聞 い た こ と は あ る が	知 ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	4.2	23.6	62.4	9.7
千 郷 (n=164)	2.4	24.4	65.9	7.3
東 郷 (n=132)	0.8	30.3	62.1	6.8
舟 着 (n= 32)	6.3	28.1	56.3	9.4
八 名 (n=102)	1.0	24.5	69.6	4.9
鳳来中部 (n= 75)	4.0	20.0	68.0	8.0
鳳来南部 (n= 21)	-	28.6	52.4	19.0
鳳来東部 (n= 79)	2.5	26.6	63.3	7.6
鳳来北西部 (n= 41)	2.4	24.4	58.5	14.6
作 手 (n= 47)	-	34.0	51.1	14.9

認知症の高齢者や知的・精神障がいのある人など、判断能力が十分でない成人の財産管理や日常生活上の援助を親族や専門家（弁護士、司法書士等）などが行う「成年後見制度」について知っているかたずねたところ、「内容も含め知っている」は19.2%、「聞いたことはあるが活動内容は知らない」が36.1%と、《名称の認知度》としては55.3%となっており、「知らない」は36.3%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみると、女性に比べて男性が6ポイント程度低く、年齢別にみると、18～39歳が比較的低くなっています。

図表 66 「成年後見制度」の認知度（性別、年齢別）



《名称の認知度》を地域別にみると、東郷地域では6割を超えて比較的高い一方、新城地域と作手地域では5割を下回って比較的低くなっています。

図表 67 「成年後見制度」の認知度（地域別）

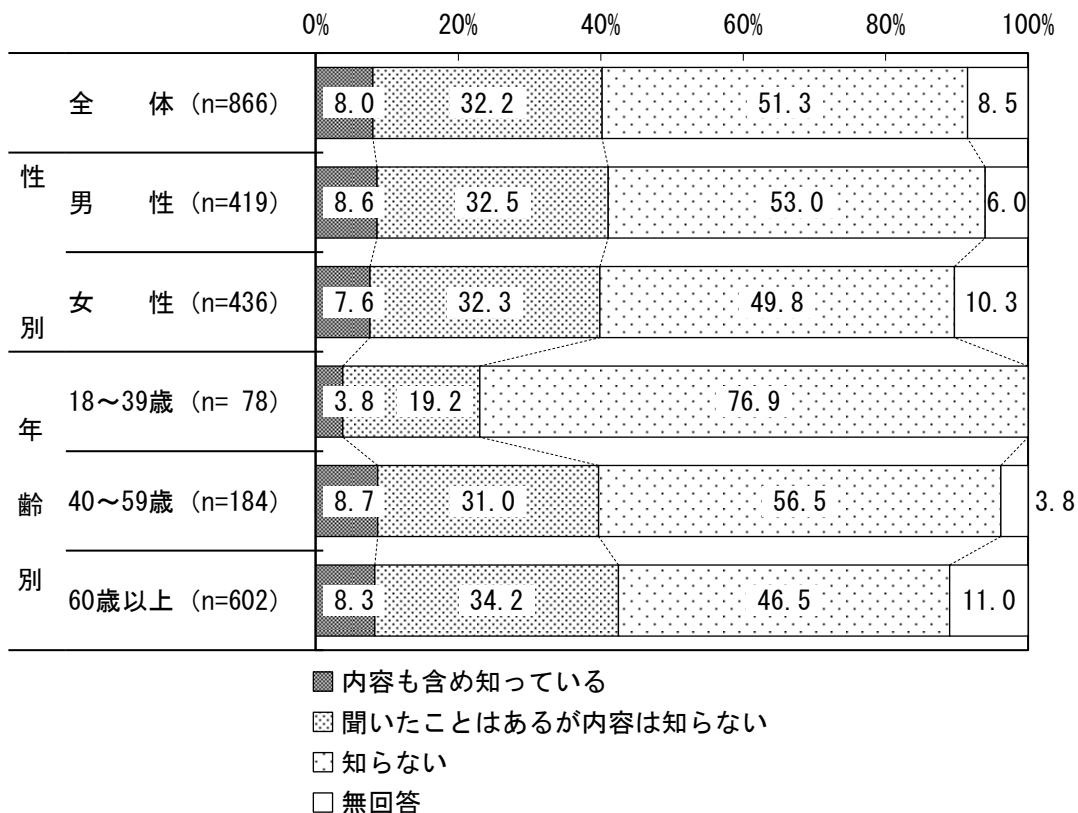
区 分 (地 域)	内 容 も 含 め 知 っ て い る	内 容 は 知 ら な い 聞 い た こ と は あ る が	知 ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	17.6	28.5	42.4	11.5
千 郷 (n=164)	18.9	40.2	34.1	6.7
東 郷 (n=132)	22.0	40.2	32.6	5.3
舟 着 (n= 32)	37.5	21.9	25.0	15.6
八 名 (n=102)	15.7	41.2	39.2	3.9
鳳来中部 (n= 75)	18.7	37.3	36.0	8.0
鳳来南部 (n= 21)	23.8	33.3	28.6	14.3
鳳来東部 (n= 79)	19.0	40.5	32.9	7.6
鳳来北西部 (n= 41)	17.1	39.0	34.1	9.8
作 手 (n= 47)	17.0	29.8	40.4	12.8



災害時や災害発生の恐れがある場合に、一人では避難できず、何らかの助けを必要とする人のうち希望する人の登録を受け付け、支援につなげる「災害時要援護者避難支援制度」について知っているかたずねたところ、「内容も含め知っている」は 8.0%と低く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 32.2%と、「名称の認知度」としては 40.2%となっており、「知らない」は、これを上回る 51.3%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、18～39歳が顕著に低くなっています。

図表 68 「災害時要援護者避難支援制度」の認知度（性別、年齢別）



《名称の認知度》を地域別にみると、舟着地域と鳳来東部地域では5割以上と比較的高い一方、八名地域では3割を下回って比較的低くなっています。

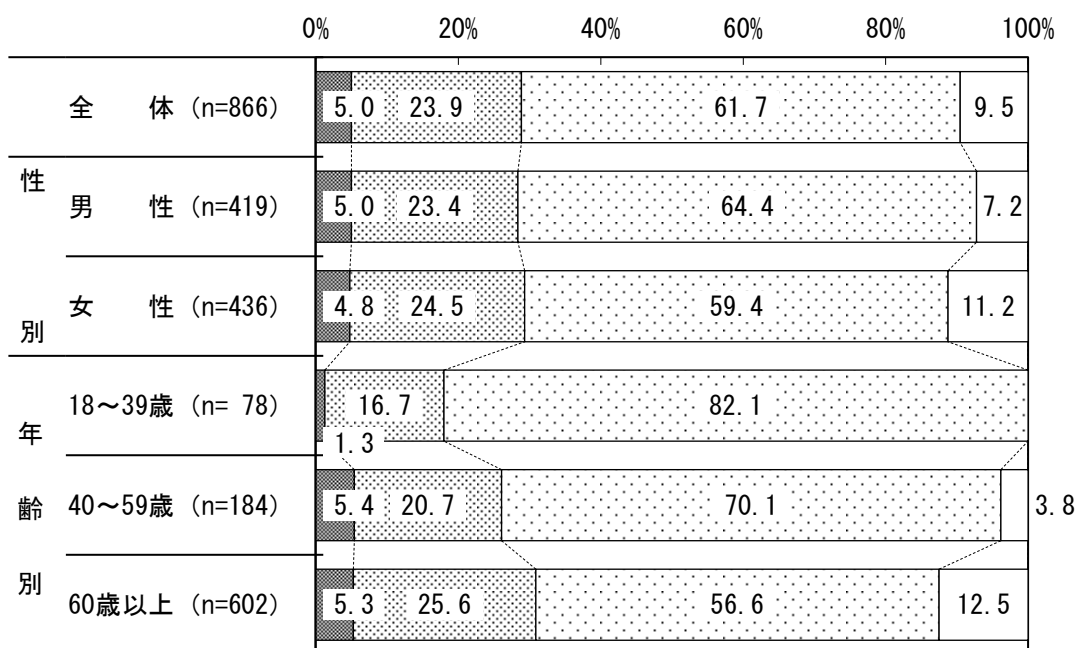
図表 69 「災害時要援護者避難支援制度」の認知度（地域別）

区 分 (地 域)	内 容 も 含 め 知 っ て い る	内 容 は 知 ら な い 聞 い た こ と は あ る が	知 ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	7.3	27.9	54.5	10.3
千 郷 (n=164)	4.9	37.2	51.8	6.1
東 郷 (n=132)	8.3	35.6	53.0	3.0
舟 着 (n= 32)	15.6	34.4	37.5	12.5
八 名 (n=102)	7.8	19.6	66.7	5.9
鳳来中部 (n= 75)	12.0	29.3	49.3	9.3
鳳来南部 (n= 21)	9.5	38.1	33.3	19.0
鳳来東部 (n= 79)	10.1	40.5	40.5	8.9
鳳来北西部 (n= 41)	4.9	26.8	53.7	14.6
作 手 (n= 47)	8.5	40.4	36.2	14.9

犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」について知っているかたずねたところ、「内容も含め知っている」は 5.0%と低く、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 23.9%と、「名称の認知度」としては 28.9%となっており、「知らない」は、これを大きく上回る 61.7%となっています。

《名称の認知度》は、性別にみても、あまり差異はみられませんが、年齢別にみると、年齢が低いほど低くなっています。

図表 70 「社会を明るくする運動」の認知度（性別、年齢別）



- 内容も含め知っている
- ▨ 聞いたことはあるが内容は知らない
- 知らない
- 無回答

《名称の認知度》を地域別にみると、舟着地域では5割に及んで比較的高くなっています。

図表 71 「社会を明るくする運動」の認知度（地域別）

区 分 (地 域)	内 容 も 含 め 知 っ て い る	内 容 は 知 ら な い 聞 い た こ と は あ る が	知 ら な い	無 回 答
新 城 (n=165)	3.6	17.6	67.3	11.5
千 郷 (n=164)	3.7	27.4	61.6	7.3
東 郷 (n=132)	6.8	22.7	63.6	6.8
舟 着 (n= 32)	18.8	31.3	34.4	15.6
八 名 (n=102)	2.9	23.5	67.6	5.9
鳳来中部 (n= 75)	2.7	26.7	61.3	9.3
鳳来南部 (n= 21)	-	28.6	52.4	19.0
鳳来東部 (n= 79)	6.3	24.1	60.8	8.9
鳳来北西部 (n= 41)	7.3	26.8	53.7	12.2
作 手 (n= 47)	6.4	25.5	55.3	12.8

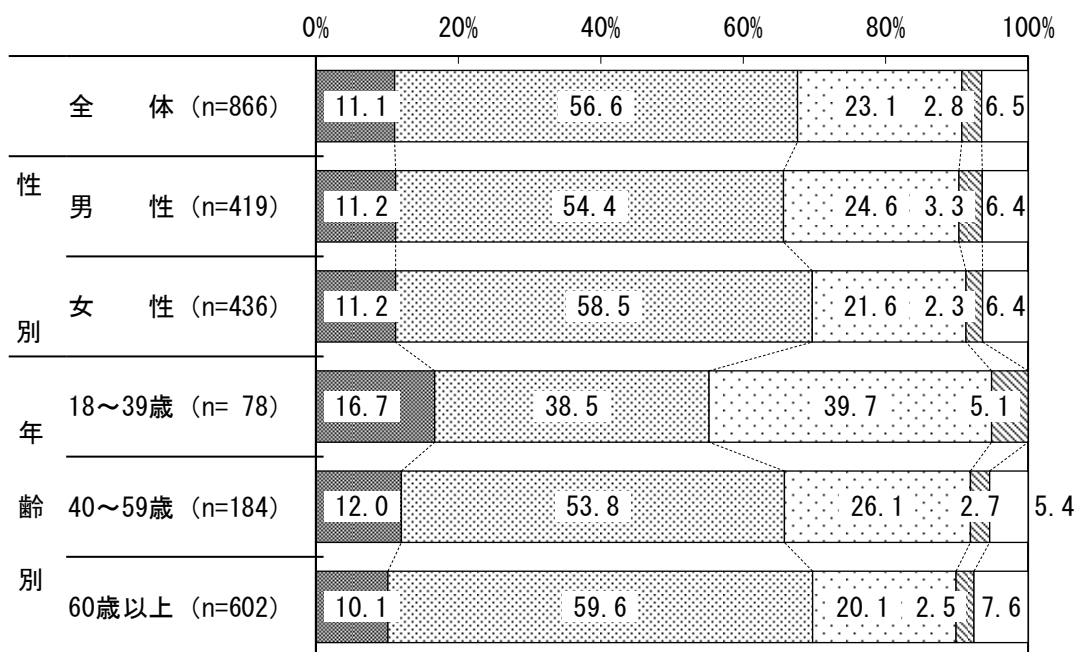
## 6 福祉のまちづくりについて

### (1) 新城市の福祉水準

福祉水準が高いまち（福祉が充実しているまち）とはどのようなまちだと思うかたずねたところ、基本的な公的サービスはもちろんだが、住民の福祉意識が高く、「地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」が56.6%と最も高く、「公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち」は23.1%、「福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち」は11.1%となっています。福祉においてめざす今後の方向性として、住民参加による地域福祉の推進が求められていると言えます。

この方向性は、性別にみても、大きな差異はみられませんが、年齢別にみると、18～39歳は、「公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち」が最も高く、「地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」がほかの年齢層に比べて顕著に低くなっています。

図表 72 福祉水準が高いまちとはどのようなまちか（性別、年齢別）



- 福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち
- ▨ 地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち
- ▩ 公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち
- ▧ その他
- 無回答

地域別にみると、いずれの地域も概ね全体と同様の傾向にあります。なお、「地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」は、東郷地域や舟着地域、鳳来東部地域などの5地域で6割を超えて比較的高い一方、新城地域と鳳来南部地域で5割を下回って比較的低くなっています。

図表 73 福祉水準が高いまちとはどのようなまちか（地域別）

区 分 (地 域)	多いまち 福祉施設や福祉サービス事業者が	地域の支え合いやボランティア活動が 地域に根づいているまち	公的サービスの種類が多く、 福祉関係手当の金額などが高いまち	その他	無回答
新 城 (n=165)	13.9	47.3	26.7	4.2	7.9
千 郷 (n=164)	12.2	51.8	29.3	3.7	3.0
東 郷 (n=132)	6.8	61.4	24.2	2.3	5.3
舟 着 (n= 32)	12.5	78.1	6.3	3.1	-
八 名 (n=102)	12.7	56.9	21.6	2.9	5.9
鳳来中部 (n= 75)	9.3	56.0	24.0	1.3	9.3
鳳来南部 (n= 21)	14.3	47.6	23.8	4.8	9.5
鳳来東部 (n= 79)	11.4	62.0	16.5	2.5	7.6
鳳来北西部 (n= 41)	9.8	65.9	14.6	-	9.8
作 手 (n= 47)	6.4	66.0	14.9	-	12.8

---

---

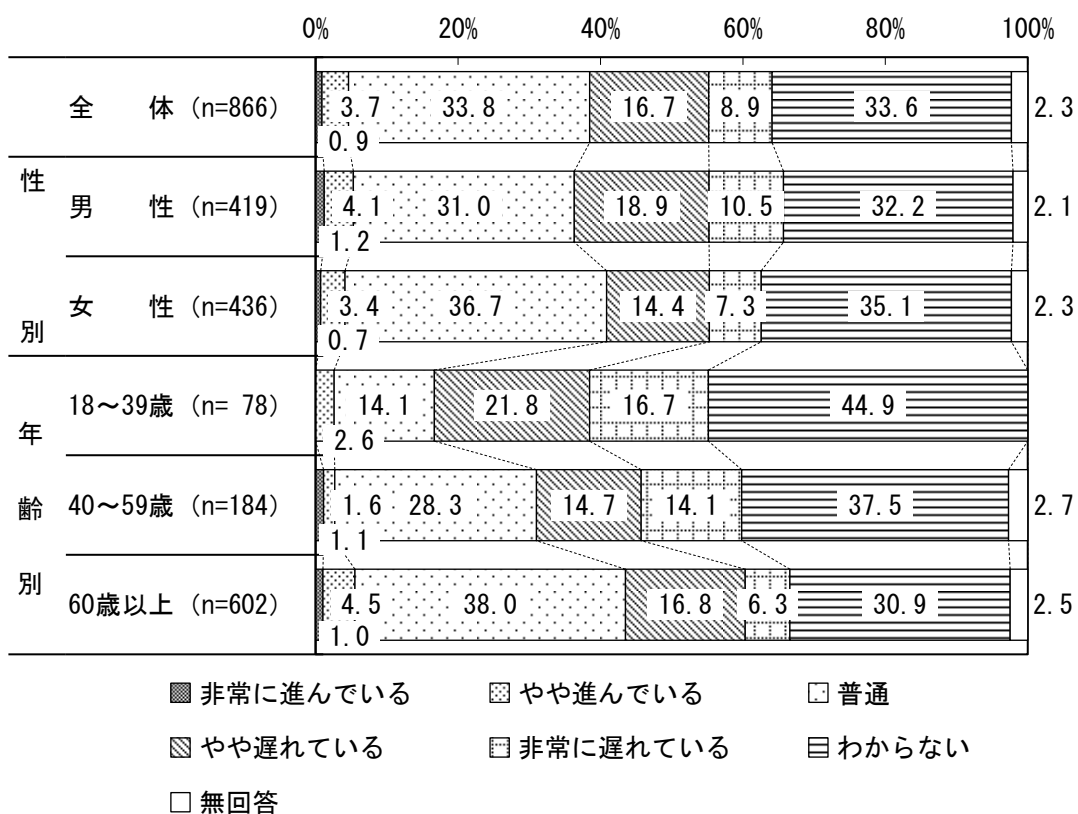
なお、「その他」として、主に次のような記載がありました。

- ・様々な福祉サービスが活用でき、それらのサービスにスムーズにつながるまち
- ・福祉事業者が多く、利用できるまち
- ・福祉施設職員の職務態度が悪くない施設が多いまち
- ・公的の人が先にたち、協力を求めることのできるまち
- ・市職員が福祉を理解しているまち
- ・財政力あつての福祉
- ・福祉水準が高いとは思わない
- ・あまり関心がない
- ・関心がない（いずれ帰郷する予定のため）

公的・非公的な福祉サービスも含め、新城市の福祉水準についてどのように感じているかたずねたところ、「普通」が33.8%と最も高く、次いで、「わからない」が33.6%となっています。また、「非常に進んでいる」(0.9%)と「やや進んでいる」(3.7%)を合わせた《進んでいる》は4.6%と低く、「やや遅れている」(16.7%)と「非常に遅れている」(8.9%)を合わせた《遅れている》は25.6%となっています。《遅れている》が《進んでいる》を大きく上回っています。

《遅れている》は、性別にみると、女性に比べて男性が8ポイント程度高く、年齢別にみると、年齢が低いほど高くなっています。

図表 74 新城市の福祉水準（性別、年齢別）





《遅れている》を地域別にみると、千郷地域と八名地域では割を超えて比較的高い一方、東郷地域と舟着地域では2割を下回って比較的低くなっています。

図表 75 新城市の福祉水準（地域別）

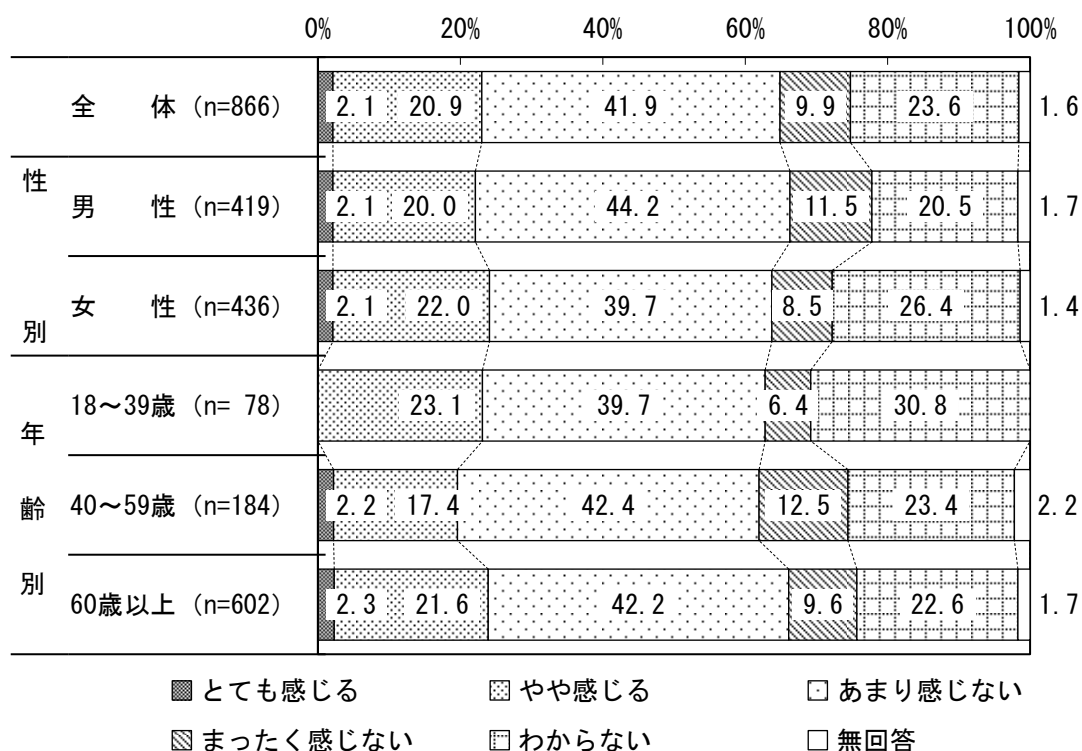
区 分 (地 域)	非常に 進んでいる	やや 進んでいる	普通	やや 遅れている	非常に 遅れている	わからない	無回答
新 城 (n=165)	0.6	1.8	29.7	14.5	9.1	41.2	3.0
千 郷 (n=164)	-	3.0	30.5	20.1	10.4	34.8	1.2
東 郷 (n=132)	0.8	6.1	40.2	13.6	4.5	34.1	0.8
舟 着 (n= 32)	3.1	6.3	46.9	9.4	3.1	31.3	-
八 名 (n=102)	1.0	1.0	33.3	27.5	8.8	27.5	1.0
鳳来中部 (n= 75)	-	2.7	37.3	20.0	6.7	32.0	1.3
鳳来南部 (n= 21)	4.8	-	28.6	14.3	14.3	33.3	4.8
鳳来東部 (n= 79)	3.8	7.6	40.5	10.1	13.9	21.5	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	-	4.9	31.7	14.6	9.8	31.7	7.3
作 手 (n= 47)	-	6.4	23.4	12.8	10.6	38.3	8.5

(2) 地域全体での支え合い

現在居住している地域で、高齢者のほか、障がいのある人などを含めて、お互いの生活を地域全体で支え合っていると感じるかたずねたところ、「とても感じる」(2.1%)と「やや感じる」(20.9%)を合わせた《感じる》は23.0%となっています。一方、「あまり感じない」(41.9%)と「まったく感じない」(9.9%)を合わせた《感じない》は51.8%となっています。《感じない》が《感じる》を大きく上回っています。

《感じる》は、性別、年齢別にみても、大きな差異はみられません。

図表 76 地域全体で支え合っているという実感 (性別、年齢別)



《感じる》を地域別にみると、作手地域で5割弱に及んでいるほか、舟着地域や鳳来南部・東部地域では3割を超えて比較的高い一方、千郷地域や八名地域、鳳来中部・北西部地域では2割を下回って比較的低くなっています。

図表 77 地域全体で支え合っているという実感（地域別）

区 分 (地 域)	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない	わからない	無回答
新 城 (n=165)	1.8	23.0	32.1	12.7	28.5	1.8
千 郷 (n=164)	1.2	15.9	47.6	12.8	22.0	0.6
東 郷 (n=132)	1.5	22.0	39.4	10.6	26.5	-
舟 着 (n= 32)	-	37.5	37.5	9.4	15.6	-
八 名 (n=102)	2.0	12.7	52.0	11.8	20.6	1.0
鳳来中部 (n= 75)	2.7	12.0	56.0	5.3	24.0	-
鳳来南部 (n= 21)	4.8	28.6	42.9	4.8	19.0	-
鳳来東部 (n= 79)	6.3	25.3	39.2	7.6	19.0	2.5
鳳来北西部 (n= 41)	-	14.6	36.6	7.3	34.1	7.3
作 手 (n= 47)	2.1	46.8	29.8	2.1	10.6	8.5

---

## 第3章 意見等

ここでは、調査票の末尾の「今後の福祉のまちづくりの進め方や活動、組織のあり方など、自由にご記入ください」という欄に記述されていた文章を項目ごとにまとめています。なお、記述されていた文章については、読みやすさなどに配慮し、意味を損なわない程度に省略等した場合があります。

### 1 地域福祉について

- 新城が何をめざしているのかが私たち住民に伝わっていない。  
(女性 30代 千郷地域)
- 働いている世代の人も福祉のまちづくりについて考え、意識を高められるまちになるといい。何かしら関わりを持つことができたらと思う。  
(女性 40代 千郷地域)
- 若者を巻き込んだ全年齢層的な福祉のまちづくりへの意識改革と財政の投入。  
(男性 40代 千郷地域)
- 福祉に対する認知が低い。  
(男性 40代 八名地域)
- 国籍で差別されない社会が必要。  
(男性 40代 新城地域)
- 高齢者にとって暮らしやすいまちづくりをめざしていただきたいです。  
(男性 50代 千郷地域)
- 福祉のまちづくりって、お互いにすべての人の生命を大切に思うことから始まると思います。  
(女性 60代 東郷地域)
- 子どもの頃から福祉について教育を行うことだと思う。  
(男性 70代 新城地域)
- 自らの健康を維持することが、家族ひいては地域社会を支える力になるということを肝に命じたい。  
(男性 70代 東郷地域)
- 福祉のまちづくり？誰の？高齢者？障がい者？  
(男性 80歳以上 千郷地域)
- 搾取する側からの種々の福祉は受けたくないし、できる限り頼りたくない。多様性や共存は大切だが、最後は自立自尊。  
(男性 80歳以上 作手地域)

### 2 地域福祉活動について

- 気軽にボランティアに参加できる体制。  
(女性 50代 千郷地域)
- 地域やボランティアさんがいろいろと助けてあげるのはよいことだと思うが、それに甘えて本来世話をすべき家族の訪問回数が減ってしまうことがあれば寂しい。  
(女性 50代 東郷地域)
- 問 26 はとても戸惑いました。1～10, 12 はどれも必要だと思いますが、中には「事故があったら」と考えると、とても住民やボランティアにはできそうにない項目もあります。福祉に関してはプロがすることと素人でもやれることをはっきりと分けないと不安です。  
(女性 50代 八名地域)

- 
- 人生 100 年時代といわれ長寿になったことはよいことかなと思います。その分、定年後どう生きていけばいいのかなど問題点も出てくると思います。今は医療や介護の現場がひっ迫していると言われ始めていて、頼れる人、頼れる場所も限られてきているようなので、こういったことが調整、整備され、解消できると皆さん安心できると思います。ただ若い人に負担が行きやすいので、若い人に対しても何か福祉活動をしていかなければいけないと考えます。私にできる福祉活動には積極的に参加していきたいと思っています。よい人材を育てることはとても大切です。 (女性 50代 八名地域)
- 一番問題なのは人手不足。ボランティアといっても、ただ働きをしてくれる人は暇な高齢者だけ。しっかりとした人材の確保が必要。福祉の仕事はとても大変だと思う。新城市に限らずこれからの日本課題だよ。いつまでも健康で暮らせるために何をやるのかな。人生 100 年時代ですから。 (女性 50代 作手地域)
- 地域格差の少ない進め方や活動を実施してもらいたい。 (女性 50代 作手地域)
- 福祉＝高齢者・障がい者のイメージが強く、専門的なスキルを持った人が行うものというイメージがあるが、もっと一般市民の力を活用すると思う。また支援を受ける側が何かをしてもらう立場ではなく、自分のできることをして一緒に活動を支えるという視点が大切だと思います。 (女性 60代 八名地域)
- 身近にボランティア活動があっても忙しく参加できない。小規模での福祉活動ができるという。高齢者にタクシーチケット配布ができないか。施設でのボランティア活動も宣伝してほしい。 (女性 60代 八名地域)
- このアンケートを集約してどうするか。また、社協の人たちは各区にいるのか。活動がいまいち明確化していない。目に見える活動をしてください。 (男性 60代 鳳来中部地域)
- ボランティアをしたいと思っている人は多いはず。始めるきっかけづくりが必要だと思います。役所で福祉関係の問い合わせしたとき、担当者が不在でわからないこともあったと聞きました。各課や社協で事業内容を広く理解して、住民の要望にすぐ応えられるようにしていただきたいです。 (女性 60代 鳳来東部地域)
- 自分も社会の一員として、何か協力できることがあれば参加したいです。ボランティアなど広報で募集してみてはどうですか。美しくきれいなまち、新城であってほしいです。 (女性 70代 新城地域)
- 組織や活動が特定の人だけでなく、もっと地域全体の住民に広げていくといいと思う。 (女性 70代 東郷地域)
- 各種団体活動の連帯化、促進化。 (男性 70代 舟着地域)
- 福祉現場必見。現場をよく見てください。 (男性 70代 八名地域)
- 民生委員の活動が自分の地区ではあまりないのでもっと活動してほしい。 (男性 80歳以上 千郷地域)
- わからないというより、各地区に組織の人いますか？わかりません。 (男性 80歳以上 千郷地域)
-

---

### 3 支え合い、助け合い等について

- みんな一人ひとりが協力し合いながら生きていくことが大事だと思う。よい日本をつくっていきましょう。  
(男性 20代 新城地域)
- 今後、より高齢化社会が進むにつれ、食材の買い出し、病院への通院が困難になる人が増えると感じます。自身の生活に精一杯で、日々の生活に困っている人への手助けをしてあげられるだけの余力はありません。高齢者への手助けは何が助けてあげられるのでしょうか。  
(男性 40代 千郷地域)
- 地域柄、人間性が失われている。ある時代から皆で協力する意思がなくなってきた。  
(男性 60代 八名地域)
- 近所でも顔を合わせていない人が多い。集いもないので希薄になり高齢者ばかりで心配です。  
(女性 70代 千郷地域)
- 新城市も高齢社会になっています。小さな地域から助け合う気持ちを持ち合って広がり、人と人が接し合える機会が増えていけばと思います。私自身がまず心身ともに元気でないと協力していけない。自分の健康をまず考えて少しでも役立てられたらとは思っています。いろいろと助けていただき感謝を忘れてはいけないと思っています。  
(女性 70代 東郷地域)
- 自分の生活で精一杯の人ばかりだと思うので、そういう人たちがほんの少しでも人に手を貸せるハードルの低い、近くでの手伝いの場があればよいと思う。皆に福祉の意識が広まれば暮らしやすいと思います。  
(女性 70代 八名地域)
- 地域住民が安心して生活できるのが第一。地区の人々が協力し合ってできることはしていきたい。  
(女性 70代 鳳来東部地域)
- これから自身がお世話になる年齢ですが、少しでも自分のことはして、ほかの人たちのお手伝いができるようにしたいと思っています。  
(女性 70代 作手地域)
- 私はお陰さまでまだ健康を維持できているため、細かなことがわからないのかもしれませんが、新城市は福祉も充実している。母が活着しているときもお世話になったので感謝しております。今後は年寄りが増加していくと思うので、福祉のまちづくりはもっと大事になっていくと思いますし、難しい問題を伴っているので、できるだけ協力したり活動することを考えなくてはと感じました。  
(男性 80歳以上 新城地域)
- トラック市で両目が目やにで塞がれている人がふらふらと歩いているのを見て、元気ならお世話をしてあげるのにと感じました。新城市の現状だと思います。  
(一 80歳以上 東郷地域)

---

#### 4 地域活動、近所づきあい等について

○若い世代が必要になるため、若者を呼び込む取り組み。雇用など。

(男性 30代 鳳来東部地域)

○子育て世代は時間もお金も余裕がない中で、地域の活動に強制的に参加させられている。交通当番などは毎回有給を使って活動するしかない。(女性 40代 八名地域)

○自治会は強制参加で、脱退したいができない。自治会の活動で時間をとられ困る。自治会は不要。存続するなら、かなり簡素化してほしい。新しく引っ越したが、自治会に入るのに5万円も取られた。これは問題ではないか。地域のことは行政がやってほしいし、やるべきです。こんな自治会や古い考えがあるから、人口が異常に減るのでは。

(男性 40代 八名地域)

○気軽に老人が集まれる集会所があればよい。孤独にならないように。

(男性 40代 鳳来中部地域)

○人口減少の中、進む高齢化で、ご苦労されていることとお察しいたします。言うは易しですが、一番は子育て世帯に定住してもらうこと、そのための働く場所。福祉としては、元気な高齢者には年金をもらいながらも適材適所でやりがいを持って働いてもらうことかと。(女性 50代 八名地域)

○先日、以前暮らしていた所の町内会長が亡くなった。亡くなるまで会長を任せられていた感があった。いろいろやってくれる人にも負担が集中してしまうのが事実ですよね。私が住んでいた20年くらいずっとその人が会長でした。(男性 50代 鳳来東部地域)

○個人情報等の問題があり、隣近所の情報を得ていないので、周りに住んでいるかわからない。(男性 60代 新城地域)

○地域全体の交流はコロナ禍のため少ない。「組」単位ならあいさつ程度のおつきあいであまり干渉しない。組長の役が回ってきたら行事などに参加する。

(女性 60代 千郷地域)

○高齢者の集う場所がほとんどない。

(男性 70代 千郷地域)

○「さわらぬ神に祟りなし」的な考えが世間に横行しており、これを除かないと自発的な活動がしがたいと思う。(男性 70代 八名地域)

○住人のほとんどが高齢者で、自分のことで1日が終わる。

(男性 70代 鳳来東部地域)

○コロナ禍で連帯が希薄になった。区や組の活動を促進する新型コミュニティの施策をしたら。(男性 70代 鳳来東部地域)

---

## 5 相談・情報について

- 自分の親に介護が必要になったときに、相談できる窓口がわかりやすいと助かると思います。(男性 10代 鳳来中部地域)
- 母が認知症になったとき、地域包括支援センターに相談ができて助かりました。(女性 60代 千郷地域)
- 誰もが相談しやすい、アドバイスなどをしてくれる窓口。電話でもいい。24時間対応。電話番号の周知。(男性 60代 鳳来東部地域)
- 福祉課に相談に行ったら、高齢者支援課に行きなさいと。相談することがわからないのか、今度は建物の違う地域包括支援センターに行きなさいと。うんざりして帰ってきました。地域包括支援センターの人は本当によくしてくれてうれしかった。(女性 70代 鳳来中部地域)
- 今後の福祉について、市の広報誌などで詳しく知らせてください。(男性 70代 新城地域)
- 情報量が少ない。(男性 70代 八名地域)
- 少しずつ福祉のことを考えるようになりました。行政サイトからの情報提供を今後ともよろしくお願いします。(男性 70代 鳳来北西部地域)
- 高齢になってしまい自身で助けてあげられず、気持ちはあっても体力が追いつかず残念に思います。団体の人がたまには巡回していただいたらうれしいです。訪問してくれれば困りごとでも相談できます。(女性 80歳以上 作手地域)

## 6 福祉サービス等について

- 子どもが少ないのに子どもの支援が少ない。今がかけどき。古民家や空き家の維持や補助などすることで、まちもきれいになって人も住みやすくなる。(女性 20歳代 新城地域)
- 高齢者をないがしろにしてほしいわけではないが、福祉関係のリソースは子どもやその家族に大幅に割いてほしい。よろしくお願いします。(男性 20代 千郷地域)
- 高齢者、福祉についてよくしていきたいと思うのであれば、現場に丸1日行ってみるなどしたらいいのでは。いろいろな人がいる中で多種多様なサービスを自分で選んで参加していくことで健康寿命も伸ばしていけばいいと思う。(女性 20代 鳳来北西部地域)
- 福祉ばかりでなく、子育て支援も力を入れないとダメだと思う。(女性 30代 新城地域)
- 福祉施設の職員（特に男性）の態度が悪い。(男性 30代 千郷地域)
- 訪問介護を毎日やっている所がほしいです。(女性 40代 新城地域)
- 育児と聾啞の父の介護をしている。ダブルケアの支援の拡充をお願いしたい。また、金銭的な支援も充実してほしい。小規模保育所に設備費など保育料の補助以外の補助金を充実してほしい。親に園の収益増大の取り組みを強制されて困っている。(女性 40代 新城地域)



---

○障がい者、高齢者など、市内で利用するところが少なく、他市の施設等を利用している現状が見られる。市として、福祉サービス、事業など遅れていると思う。

(男性 40代 舟着地域)

○障がい者への虐待認定制度を利用しました。制度として未だに熟していないと感じる場面がありました。原則、認定しない方向で進められるよう感じました。しかし、申請者は、「生命、身体の安全」に不安を持つ可能性があります。後の訴訟を回避するためにも、できる限り時間をかけた方がよいと思います。また、結論をしっかりと伝えられなかったり、判断方法、基準、過程において不明確な点がありました。デュープロセスの徹底が求められます。窓口への出頭は心理的負担が大きいです。別件ですが、子どもが相談する場合で、制度が実質的に利用できるのか心配です。パターンリスティックな制度の実現をお願いします。

(男性 40代 鳳来北西部地域)

○フレイル予防で、デイケアサービスに行けない人に軽い体操や運動を促す人が増えたらいいと思う。

(女性 50代 新城地域)

○福祉について今まではあまり考えたことがなかった。地域も核家族高齢化が進み、この先買い物するにも不便なまちになっている。免許返納後の生活が心配になってくる。

(男性 50代 舟着地域)

○高齢者の食について困っている状況は把握していない。市街には購入可能な店、交通手段もあるが、旧鳳来に至っては交通も悪く、歩いて食品を購入可能な店はどんどん減っている。自動車がないと行けないという状況はタクシーやバスなど、もう少し考慮すべきではないか。移動して物を売るシステムも考えてはどうか。

(女性 50代 鳳来中部地域)

○旧一宮町は障がい福祉への取り組みが進んでおり、障がいのある人の就職も進んでいた。市の職員にも障がいのある人が新城市より多かった。浜松には精神に病を持つ人や若い人のデイサービスも充実している。新城市は高齢者のためのものばかりで、若い人へのフォローなどは進んでいるのか。見直してほしい。

(女性 50代 鳳来北西部地域)

○介護用品の購入にあたり、いったん全額負担を最初から負担割合のみの支払いに変えてほしい。

(男性 50代 作手地域)

○高齢化が進む中で必要な、特に入居可能な施設の新城市内の充実を望みます。また、新城市民病院を始め市内の医療機関の充実も望みます。特に救急対応に不安を感じる。

(男性 70代 東郷地域)

○金のかからない福祉を考えよう。

(男性 70代 舟着地域)

○新城市の福祉サービスをつくってください。

(女性 80歳以上 新城地域)

○福祉サービスを受けておりますが、介助の人もリハビリの人も皆様お気づかいしていただき感謝しております。

(女性 80歳以上 新城地域)

○日常生活のサポートの充実、買い物、医者、喫茶店など、身近に老人が利用できる施設の充実をしてほしい。

(男性 80歳以上 東郷地域)

---

## 7 地域交通について

- 新城駅にICを導入してほしい。エレベーターがついたことはいいことだが、ICを使えないのはかなり遅れている。一刻も早くつけてほしい。（男性 40代 新城地域）
- コミュニティバスをもっと充実させて高齢者の「足」を確保する。  
（男性 70代 東郷地域）
- 車の運転ができなくなったとき、買い物、病院、習い事などバスが家の近くまで来てくれることができるといいと思います。  
（女性 70代 舟着地域）
- 80歳以上の高齢者には区のお役御免制度があり、大変感謝している。Sバスの運行経路が狭く不便である。個人医院に行くのにも経路がなく不都合である。範囲を広げてほしい。  
（男性 80歳以上 千郷地域）
- 新城市はタクシー券が出るので、医者へ行くときに皆さん使っているそうです。とてもありがたいとよろこんでいましたよ。  
（女性 80歳以上 東郷地域）
- 選挙のとき、足のない人はどうしたらよいのですか。免許を返納し、車がなくなったとき、買い物にも医者にも行けずとなりそうです。自分たちも遠い話ではなく不安を覚えます。  
（男性 80歳以上 鳳来中部地域）
- 自動車の運転ができなくなった場合、非常に不便だと思い心配しています。高齢のため、一番心配しているところです。この点、最大にお考えいただくよう、お願いします。  
（女性 80歳以上 鳳来中部地域）
- タクシー料金助成金、新城市内の方はとってもよろこばしいのですが、鳳来の方ももっと利用することを考えてください。使用しなくても予算に入れているのでしょうか？  
（女性 80歳以上 鳳来東部地域）
- 車の運転ができなくなったときの生活を考えると、とても不安に思います。公的なバス停も2キロあります。本数も少なく何とかならないかと思っています。  
（女性 八名地域）

## 8 行政対応について

- 無駄な税金投資をなくす。多様性を追うべきではない。（男性 20代 八名地域）
- 市職員も介護の大変さを感じた方がもっと積極的に活動ができると思う。現場の大変さを知ってほしい。  
（男性 40代 千郷地域）
- 財政力あつての福祉、その前に努力することがあります。偽善はブーメランとなり自分に返ります。  
（男性 70代 新城地域）
- 各地区の要望などを聞く会合をやってはどうか。以前、市長との会合があったが、小さな要望は出にくいと思う。家の北東の山に1トンくらいある岩が杉の木にぶつかりもたれかかっている。危険なため県にも市にも要望したが様子見とのこと。やっぱり無駄。  
（男性 70代 鳳来中部地域）
- 市の対応が目に見えるようにしてほしい。自治活動は限界がある。  
（男性 70代 鳳来東部地域）

---

○議会において、福祉についてもっと多く審議してもらいたい。福祉審議会という組織があるのでしょうか。自分も高齢が進む中で生活に不安を持っている。

(男性 70代 鳳来北西部地域)

○作手診療所の看護師問題を早期に解決し、薬を診療所で出してもらえるよう、また、予防接種が午前のみでは困るので何とかしてほしい。

(男性 70代 作手地域)

○高齢化社会を迎え、行政の支援活動がますます重要になると思っています。

(女性 80代以上 新城地域)

○新しく市長になられたのであれば、いったん立ち止まって検討すべきと思います。例えば、学校給食センターしかり、バス事業しかり、議会、福祉、会議、市民病院の移転、税金の使い方が逆さまに思います。そこを変えていかないと、福祉のまちづくりアンケート調査のお願いと言われても、○をつけながら何だか虚しく感じてなりません。

(女性 80歳以上 千郷地域)

## 9 アンケートについて

○アンケートの内容がわからないところがありました。しかし、まだ高齢者への福祉は進んでないと感じます。実際に困っている人は近所にいたりします。

(男性 10代 千郷地域)

○誰もがわかりやすい説明などがあると助かると思うときがあります。自分勝手ですみません。

(女性 30代 舟着地域)

○互助を進めたいという意図に基づいたアンケートなのかと思いますが、調査の趣旨が説明不足かと思います。かといって、いろいろな資料をつけられても読まないと思います。アンケートは、設問や選択肢をうまく利用すれば、アンケートをつくった側に都合のよいようにつくることもできます。第三者が介在しないものはあてにならない結果になるのでは。そうならないように願います。封筒に番号が記入されているのが気になります。ただの整理番号かと思いますが、番号と送った相手を事前にリスト化しておけば簡単に個人が特定できます。どうなのでしょう。

(男性 50代 鳳来中部地域)

○地元の間人だともっと関心が持てるはずだが、いずれ帰郷するので新城市には申し訳ないが、このようなアンケートにはまったく関心がないのが事実です。

(男性 60代 新城地域)

○これは、市は何もできない、皆さん何ができますかと聞いているみたい。

(男性 80歳以上 鳳来東部地域)

---

## 10 その他

- 近くに公園など他の親子と交流する場がない。公園があったらよい。悪臭を出す企業への指導を厳しくしてほしい。前を通るたびに窓を閉めなければならず不快。  
(男性 30代 八名地域)
- 徳がないです。  
(男性 50代 新城地域)
- 学校のトイレを洋式にする。長期休みなど給食の施行など、子どもや働くママに寄り添う活動を求めます。  
(女性 50代 千郷地域)
- 極論ですが、尊厳死がタブーとされている現在では、きれいごとの範囲を出ないように思いますし、私が生きている間、続くと思います。福祉への期待は低いですし、自ら活動する気もほぼありません。  
(男性 50代 東郷地域)
- 周りには精神的に病んでいる人が結構います。もっとゆとりがあり、病まずにすむ社会になったらいいのと思います。  
(男性 50代 鳳来東部地域)
- 犬の散歩をされていて思うことは耕作放棄地が多いことです。  
(女性 60代 八名地域)
- イノシシ、シカを何とかして。家庭菜園、花畑など楽しみがない。  
(女性 70代 新城地域)
- 住宅のある人(1人)が顔を合わせるたびに抽象的なことを直に言ったり、怒鳴ったり。警察に言っても何ともならなくて、毎日がトラウマ状態。困っております。何とかしてほしいです。  
(女性 70代)

資料  
調査票

## 福祉のまちづくりに関するアンケート調査のお願い

日ごろより、新城市の福祉行政にご理解とご協力をいただき、御礼を申し上げます。

新城市では、第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和2～6年度）に基づき、地域の困りごとを地域のみんなで解決していけるよう、福祉のまちづくりに関する様々な取り組みを進めています。

この調査は、来年度の次期計画の策定に向けて、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出させていただきました2,000人の皆様に、日ごろの生活のお困りごとやその解決に向けた取り組み、活動支援のあり方などについてのご意見等をアンケート形式によりお聞きするものです。

お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願いを申し上げます。

令和5年10月

新城市長 下江 洋行

### ご回答についてのお願い

#### ▶調査票の記入について

- 1 この調査には、あて名のご本人がご記入ください。
- 2 令和5年10月1日現在の内容でご記入ください。
- 3 ご回答は、質問のあてはまる番号に○をつけてください。
- 4 ○をつけていただく数を設問の末尾に示していますので、ご注意ください。
- 5 ご回答が「その他」にあてはまる場合は、（ ）に具体的にご記入ください。

#### ▶調査票の回収について

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、10月20日（金）までに投函してくださいませう、お願いします。

※この調査は、調査目的以外に使用することは一切ありません。

#### ▶調査についてのお問い合わせ

新城市役所 健康福祉部 福祉課

TEL 0536-23-7624 FAX 0536-23-7699

Email fukushi@city.shinshiro.lg.jp

はじめに、（統計的処理を行うため）あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別は。（○は1つだけ）

- 1. 男性
- 2. 女性

問2 あなたの年齢（令和5年10月1日現在）は。（○は1つだけ）

- 1. 18～19歳
- 2. 20～29歳
- 3. 30～39歳
- 4. 40～49歳
- 5. 50～59歳
- 6. 60～69歳
- 7. 70～79歳
- 8. 80歳以上

問3 あなたの職業等は。（○は1つだけ）

- 1. 正規従業員・職員
- 2. 非正規従業員・職員
- 3. 自営業者（家族従事者含む）
- （派遣、契約、パート、アルバイト等）
- 4. 専業主婦・夫
- 5. 学生、専門学校生
- 6. 無職
- 7. その他（                      ）

問4 あなたの家族（世帯）構成は。（○は1つだけ）

- 1. ひとり暮らし（単身世帯）
- 2. 夫婦のみ（一世代世帯）
- 3. 親と子（二世帯世帯）
- 4. 祖父母と親と子（三世帯世帯）
- 5. その他の世帯（                      ）

問5 あなたは、現在の所に通算して何年お住まいですか。（○は1つだけ）

- 1. 1年未満
- 2. 1年～5年未満
- 3. 5年～10年未満
- 4. 10年～20年未満
- 5. 20年～30年未満
- 6. 30年以上

問6 あなたは、どの地域（自治区）にお住まいですか。（○は1つだけ）

- 1. 新城地域
- 2. 千郷地域
- 3. 東郷地域
- 4. 舟着地域
- 5. 八名地域
- 6. 鳳来中部地域
- 7. 鳳来南部地域
- 8. 鳳来東部地域
- 9. 鳳来北西部地域
- 10. 作手地域
- 11. わからない（地名                      ）

あなたの生活の状況についておたずねします

問7 あなたは、現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 満足している          | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば満足していない | 4. 満足していない        |
| 5. どちらともいえない       |                   |

問8 現在のあなたの健康状態は、どうですか。(○は1つだけ)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 健康である         | 2. どちらかといえば健康である |
| 3. どちらかといえば健康でない | 4. 健康でない         |
| 5. どちらともいえない     |                  |

問9 現在のあなたの暮らしは、経済的にみてどうですか。(○は1つだけ)

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1. 大変苦しい          | 2. どちらかといえば苦しい |
| 3. どちらかといえばゆとりがある | 4. 大変ゆとりがある    |
| 5. どちらともいえない      |                |

問10 あなたは、ふだんの生活の中で、困りごとや不安に感じることなどありますか。(○は1つだけ)

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. よくある  | 2. たまにある  |
| 3. あまりない | 4. まったくない |

問11 問10で「1. よくある」または「2. たまにある」に○をつけた方におたずねします。特に困ることや不安に思うことは何ですか。(○はいくつでも)

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1. 健康状態          | 2. 障がい       |
| 3. 介護            | 4. 出産、子育て    |
| 5. 収入、家計         | 6. 家事        |
| 7. 仕事            | 8. 交通手段      |
| 9. 交友・交際関係       | 10. ひきこもり、孤立 |
| 11. 相談・話し相手      | 12. 財産管理     |
| 13. 犯罪被害         | 14. 火災、事故    |
| 15. 自然災害         | 16. 近所づきあい   |
| 17. 地域活動(自治会活動等) | 18. その他( )   |



相談や情報収集についておたずねします

問12 すべての方におたずねします。あなたは、困りごとや不安に感じることなど何かあったら、家族や親族以外に相談できる相手はいますか。(〇はいくつでも)

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 友人、知人           | 2. 自治会等                 |
| 3. 民生委員・児童委員       | 4. 公的な相談機関              |
| 5. NPO・ボランティア団体    | 6. 病院・診療所               |
| 7. インターネット上のコミュニティ | 8. その他 ( )              |
| 9. 相談できる相手はいない     | 10. どこ(誰)に相談したらよいかわからない |

問13 公的な相談機関として、あなたがお存じなところはどこですか。(〇はいくつでも)

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 市役所・各総合支所         | 2. 社会福祉協議会       |
| 3. 地域包括支援センター        | 4. 高齢者ふれあい相談センター |
| 5. 障がい者基幹相談支援センター    | 6. 子育て支援センター     |
| 7. 保健センター            | 8. 警察署           |
| 9. 職業安定所(ハローワーク)     | 10. 法務局          |
| 11. 相談ダイヤル、インターネット相談 | 12. その他 ( )      |

問14 あなたの住んでいる地域で困っていることや問題になっていることをどのような方法で解決するのがよいと思いますか。(〇は1つだけ)

1. 自分たちの生活に関わることだから、住民同士で相談し、協力して解決したい
2. 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに相談し、まかせたい
3. 行政に解決してもらえるように、相談や要求をしていきたい
4. その他 ( )

問15 あなたは、福祉に関する情報について、家族や親族以外に主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1. 友人、知人         | 2. 自治会等                  |
| 3. 民生委員・児童委員     | 4. 公的な機関(問13参照)          |
| 5. NPO・ボランティア団体  | 6. 病院・診療所                |
| 7. 市のホームページ・SNS  | 8. 市の広報誌「ほのか」、冊子等        |
| 9. インターネット(7を除く) | 10. その他 ( )              |
| 11. 特に入手していない    | 12. どこ(誰)から入手したらよいかわからない |

近所づきあいや地域活動等についておたずねします

問16 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1. 何でも相談し合える   | 2. 内容によっては相談し合える |
| 3. 世間話をする程度    | 4. あいさつをする程度     |
| 5. 行事等があれば会う程度 | 6. つきあいが無い       |

問17 近所の人とおつきあいについて、あなたの考えに最も近いものは、次のどれですか。(○は1つだけ)

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. 何でも相談し合うことが必要 | 2. 内容によっては相談し合うことが必要 |
| 3. 世間話をする程度で十分   | 4. あいさつをする程度で十分      |
| 5. 行事等のみの協力で十分   | 6. 特に必要ない            |

問18 あなたは、ふだんどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

- |                                 |                             |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1. 仕事や学校で、ほぼ外出する                | 2. 仕事や学校で、ときどき外出する          |
| 3. 仕事や学校以外で、頻繁に外出する             | 4. 仕事や学校以外で、ときどき外出する        |
| 5. ふだんは家にいるが、趣味などの用事があるときだけ出かける | 6. ふだんは家にいるが、近所に買い物などには出かける |
| 7. 自室からは出るが、家からは出ない             | 8. 自室からもほとんど出ない             |

問19 問18で「5. ふだんは家にいるが、趣味などの用事があるときだけ出かける」～「8. 自室からもほとんど出ない」に○をつけた方におたずねします。その状態になってどの程度が経ちますか。(○は1つだけ)

- |              |             |              |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. 6カ月未満     | 2. 6カ月～1年未満 | 3. 1年～3年未満   |
| 4. 3年～5年未満   | 5. 5年～10年未満 | 6. 10年～20年未満 |
| 7. 20年～30年未満 | 8. 30年以上    | 9. わからない     |

問20 すべての方におたずねします。あなたは、地域の活動や行事にどの程度参加していますか。(○は1つだけ)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 積極的に参加している | 2. ほどほどに参加している |
| 3. あまり参加していない | 4. 参加していない     |

問21 あなたは、今後、地域の活動や行事に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. ぜひ参加したい      | 2. 友人等と一緒に参加したい |
| 3. 時間ができたら参加したい | 4. 機会があったら参加したい |
| 5. 参加できない       | 6. 参加したくない      |

地域福祉活動についておたずねします

問22 あなたは、今までにボランティア活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

1. 今も参加している
2. 以前に参加したことがある
3. 参加したことがない

問23 問22で「1. 今も参加している」または「2. 以前に参加したことがある」に○をつけた方におたずねします。それは、どのようなボランティア活動ですか。(○はいくつでも)

1. ひとり暮らしの高齢者など在宅の高齢者を対象とした活動
2. 在宅の障がいのある人を対象とした活動
3. 子どもや子育て世代を対象とした活動
4. 特別養護老人ホームや障害者施設などの福祉施設での活動
5. こども園(保育園・幼稚園)や学校などでの活動
6. 病院など医療機関での活動
7. ホームレスなど生活困窮者を対象とした活動
8. 地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動
9. 被災地域での援助・復興活動
10. その他( )

問24 すべての方におたずねします。あなたは、今後、ボランティア活動に参加したいと思いませんか。(○は1つだけ)

1. ぜひ参加したい
2. 友人等と一緒に参加したい
3. 時間ができたら参加したい
4. 機会があったら参加したい
5. 参加できない
6. 参加したくない

問25 問24で「5. 参加できない」または「6. 参加したくない」に○をつけた方におたずねします。参加できない、参加したくない理由は何ですか。(○は1つだけ)

1. 興味や関心がないから
2. 機会がないから
3. 時間がないから
4. 高齢、障がい、病気のため
5. 自分の生活のことで精一杯だから
6. その他( )

問26 すべての方におたずねします。これからの福祉は住民やボランティアの参加や協力がより必要になるといわれていますが、地域のみんなが安心して暮らしていくためには、①どのような福祉活動が必要だと考えますか。また、②あなたができる福祉活動はありますか。（①②とも○はいくつでも）

住民やボランティアによる福祉活動の内容	①必要なこと	②できること
1. ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などへの声かけ		
2. ひとり暮らし高齢者や障がいのある人などの買い物やゴミ出し等の手助け		
3. ねたきりの高齢者や障がいのある人などの介助		
4. 乳幼児の短時間の預かり		
5. ふれあいサロンなど的高齢者等が集える場への協力		
6. 子育てサークルなどの子育て家庭の相談・仲間づくりへの協力		
7. 福祉施設での手伝いや話し相手		
8. ひきこもりやヤングケアラー（※）、生活困窮、虐待などにより孤立化した世帯の把握と情報の共有		
9. 地域のパトロールなどの防犯活動や交通安全活動、消防団活動		
10. 災害時での安否確認や避難誘導などの手助け		
11. 寄付、募金への協力		
12. 福祉に関する情報の取集と周囲との情報の共有		
13. その他（ ）		
14. 特にない		

※ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことで、責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある。

問27 地域には福祉を支える活動を行っている様々な人や団体がありますが、あなたは、次のア～エについて、ご存じですか。（それぞれ○は1つだけ）

	1. 活動内容も含め知っている	2. 聞いたことはあるが活動内容は知らない	3. 知らない
ア 社会福祉協議会	1	2	3
イ ボランティアセンター	1	2	3
ウ 民生委員・児童委員	1	2	3
エ 保護司	1	2	3

問28 地域における福祉を充実するために様々な制度や活動がありますが、あなたは、次のア～エについて、ご存じですか。（それぞれ○は1つだけ）

	1. 内容も含め知っている	2. 聞いたことはあるが内容は知らない	3. 知らない
ア 地域共生社会	1	2	3
イ 成年後見制度	1	2	3
ウ 災害時要援護者避難支援制度	1	2	3
エ 社会を明るくする運動	1	2	3

**福祉のまちづくりについておたずねします**

問29 福祉水準が高いまち（福祉が充実しているまち）とは、どのようなまちだと思いますか。あなたの考えに最も近いものは、次のどれですか。（○は1つだけ）

1. 福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち
2. 基本的な公的サービスはもちろんだが、住民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち
3. 公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち
4. その他（ ）

問30 あなたは、新都市の福祉水準（公的・非公的な福祉サービスも含め）についてどのように感じていますか。（○は1つだけ）

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 非常に進んでいる | 2. やや進んでいる |
| 3. 普通       | 4. やや遅れている |
| 5. 非常に遅れている | 6. わからない   |

問31 あなたのお住まいの地域では、高齢者や障がいのある人などを含めて、お互いの生活を地域全体で支え合っていると感じますか。（○は1つだけ）

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. とても感じる  | 2. やや感じる    |
| 3. あまり感じない | 4. まったく感じない |
| 5. わからない   |             |

今後の福祉のまちづくりの進め方や活動、組織のあり方など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました

福祉のまちづくりに関する  
アンケート調査結果報告書

---

発行年月 令和6年2月  
発行者 新城市健康福祉部福祉課  
〒441-1392  
愛知県新城市字東入船115番地  
TEL 0536-23-7624  
FAX 0536-23-7699  
Email [fukushi@city.shinshiro.lg.jp](mailto:fukushi@city.shinshiro.lg.jp)

---